

史 跡

上 之 国 館 跡 IV

—平成22年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書—

2011・3

上ノ国町教育委員会

序

昭和53年に「史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書」が策定され、それから33年もの歳月が経過した平成23年3月、前計画に洲崎館跡を加えた新たな「史跡上之国館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡 保存管理計画書」の策定をみることとなりました。

そして、前計画に基づき昭和54年度から始まりました勝山館跡の発掘調査・整備事業は、今年度をもって一旦終了となりますが、これまで多くの皆様方のご尽力によって、北日本の中世史を書き換えるような極めて貴重な知見を得ることができ、現在では高校の教科書に勝山館跡が紹介されるなど、全国的にみましても重要な史跡であることが次第に認識されつつあります。

また、この事業を行わなければ北日本における中世史のイメージは、現在と全く異なっていたものであったと思うところでもあります。

しかしながら、史跡が持つ情報量があまりにも膨大であったことから、十分に検討・分析が追いついておらず、史跡の価値について今だ表面を撫でていくにすぎない程度の理解ではないかと感じております。このことにつきましては、史跡の保存・活用を行っていく上でも非常に核となる部分であるため、町として体制を充実させつつ、今後の取り組みを円滑にできるよう鋭意努力して参りたいと思っております。

現在では、かつての勝山館跡の事業が始まった時代と比較して、我々を取り巻く社会状況というのは全く異なっており、この厳しい環境の中で行政としてどのようなことができるのか、今一度課題に対して真摯に取り組み、新たに策定されました保存管理計画に基づいて歩を進めて参りたいと思う所存でございます。

事業推進にあたり文化庁、北海道教育委員会、上ノ国町史跡整備検討委員会委員の皆様をはじめとする各関係機関の多くの方々に多大なご協力を賜りましたことを衷心より感謝申し上げますところであり、今後におきましてもより一層のご指導をお願い申し上げます。

平成23年3月

北海道上ノ国町教育委員会

教育長 金子 廣

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真目次

例言／引用参考文献

I 史跡上之国館跡の調査	1
1. 調査にいたる経緯	1
2. 調査位置	1
3. 調査方法	1
4. 調査経過	2
5. 基本層序	2
II 遺構確認調査の概要	6
1. 検出遺構	6
2. 出土遺物	50
III 整備事業	61
1. 平成19年度	61
2. 平成20年度	61
3. 平成21年度	62
4. 平成22年度	62
IV 小括	73
V まとめ	75

挿図目次

第1図 史跡上之国館跡 調査区位置図	3
第2図 年次別調査範囲図	5
第3図 調査区遺構配置図	7
第4図 第1～4調査区平面図他	9
第5図 第1調査区平面図・II III層遺物分布図	11
第6図 第1調査区IV層遺物分布図	13
第7図 第1調査区土層堆積図	15
第8図 第1調査区礎石建物跡平面図他	17
第9図 第1調査区土壌3・4、溝1平面図他	18
第10図 第1調査区土壌1・6平面図他	19
第11図 第1調査区土壌5・16平面図他	20
第12図 第2調査区平面図他	27
第13図 第2調査区掘立柱建物跡平面図他	29
第14図 第3調査区平面図他	33

第15図 第4調査区平面図他	35
第16図 第4調査区土壌17平面図他	37
第17図 土壌1・3・4(土葬墓)出土遺物	38
第18図 土壌5・10・16・17(土葬墓)出土遺物	39
第19図 第5調査区平面図他	46
第20図 第6・7調査区平面図他	47
第21図 第8調査区平面図他	48
第22図 第9調査区平面図他	49
第23図 出土遺物(青磁、染付、瀬戸・美濃鉄釉・灰釉、志野、越前、唐津、備前)	54
第24図 出土遺物(肥前系染付、瀬戸・美濃染付、不明磁器、瓦)	55
第25図 出土遺物(鉄製品、銅製品、銭貨)	56
第26図 出土遺物(銭貨)	57
第27図 出土遺物(縄文土器、石器)	58
第28図 史跡上之国館跡平成19～22年度整備箇所位置図	63
第29図 平成19年度史跡上之国館跡(勝山館跡)誘導標識整備立面図他	64
第30図 平成19年度史跡上之国館跡(勝山館跡)櫓門跡表示整備立面図他	65
第31図 平成20年度史跡上之国館跡(勝山館跡)エントランス石積整備位置図	66
第32図 平成20年度史跡上之国館跡(勝山館跡)法面保護整備位置図	66
第33図 平成20年度史跡上之国館跡(勝山館跡)エントランス石積整備立面図他	67
第34図 平成20年度史跡上之国館跡(勝山館跡)法面保護整備立面図他	68
第35図 平成21年度史跡上之国館跡(勝山館跡)手摺整備立面図他	69
第36図 平成21年度史跡上之国館跡(勝山館跡)標柱整備立面図他	70
第37図 平成22年度史跡上之国館跡(勝山館跡)案内板整備立面図他	70
第38図 平成22年度史跡上之国館跡(花沢館跡)標柱整備立面図他	71
第39図 平成22年度史跡上之国館跡(洲崎館跡)案内板整備立面図他	71
第40図 平成22年度史跡上之国館跡(勝山館跡)柵列整備立面図他	72
第41図 勝山館跡復元CG	77
第42図 上ノ國八幡宮周辺地籍図	77
第43図 慶応2年(1866)頃上ノ國絵図	78

表目次

表1	第1調査区東西セクション北壁土層観察表 (A~A'')	21	表29	第3調査区南北セクション西壁土層観察表 (F~F')	42
表2	第1調査区東西セクション北壁土層観察表 (B~B')	21	表30	第4調査区東西セクション北壁土層観察表 (A~A')	43
表3	第1調査区東西セクション南壁土層観察表 (C~C'')	21	表31	第4調査区東西セクション北壁土層観察表 (B~B''')	43
表4	第1調査区東西セクション北壁土層観察表 (D~D'')	21	表32	第4調査区南北セクション西壁土層観察表 (C~C')	43
表5	第1調査区東西セクション南壁土層観察表 (E~E'')	21	表33	第4調査区南北セクション西壁土層観察表 (D~D')	43
表6	第1調査区南北セクション西壁土層観察表 (F~F''')	22	表34	第4調査区南北セクション西壁土層観察表 (E~E'')	43
表7	第1調査区南北セクション西壁土層観察表 (G~G'')	22	表35	第4調査区東西セクション北壁土層観察表 (F~F')	44
表8	土壇1土層観察表A~A' (第1調査区)	22	表36	第4調査区南北セクション西壁土層観察表 (G~G'')	44
表9	土壇1土層観察表B~B' (第1調査区)	22	表37	第4調査区南北セクション東壁土層観察表 (H~H')	44
表10	土壇3土層観察表A~A' (第1調査区)	22	表38	東西セクション南壁~南北セクション西壁 土層観察表(A~A''')	46
表11	土壇3土層観察表B~B' (第1調査区)	23	表39	第6調査区東西セクション南壁土層観察表 (A~A')	48
表12	土壇4土層観察表(第1調査区)	23	表40	第6調査区東西セクション南壁土層観察表 (B~B')	48
表13	土壇5土層観察表A~A' (第1調査区)	23	表41	第6調査区東西セクション北壁土層観察表 (C~C')	48
表14	土壇5土層観察表B~B' (第1調査区)	23	表42	第6調査区南北セクション東壁土層観察表 (D~D'')	49
表15	土壇6土層観察表(第1調査区)	23	表43	第7調査区南北セクション東壁土層観察表 (A~A')	50
表16	土壇16土層観察表(第1調査区)	23	表44	南北セクション東壁土層観察表(A~A')	50
表17	土壇17土層観察表	37	表45	東西セクション南壁土層観察表(B~B'')	50
表18	勝山館跡土壇(土葬墓)出土遺物観察表	40	表46	南北セクション西壁土層観察表(C~C')	50
表19	第2調査区東西セクション北壁土層観察表 (A~A'')	41	表47	南北セクション西壁土層観察表(A~A')	50
表20	第2調査区南北セクション西壁土層観察表 (B~B''')	41	表48	勝山館跡出土遺物集計表	52
表21	第2調査区東西セクション北壁土層観察表 (C~C')	41	表49	土葬墓出土銭貨集計表	52
表22	土壇10土層観察表A~A' (第2調査区)	41	表50	中世~近世初頭陶磁器種類・器種別組成表 (全体)	53
表23	土壇10土層観察表B~B' (第2調査区)	41	表51	青磁器種・分類別組成表	53
表24	第3調査区東西セクション南壁土層観察表 (A~A'')	42	表52	白磁器種・分類別組成表	53
表25	第3調査区南北セクション西壁土層観察表 (B~B')	42	表53	染付器種・分類別組成表	53
表26	第3調査区南北セクション西壁土層観察表 (C~C'')	42	表54	勝山館跡出土遺物観察表	59
表27	第3調査区南北セクション西壁土層観察表 (D~D')	42			
表28	第3調査区東西セクション北壁土層観察表 (E~E')	42			

写真図版

- PL. 1 遺構検出状況
- PL. 2 遺構検出状況
- PL. 3 遺構検出状況
- PL. 4 平成十九年度整備状況
- PL. 5 平成二十年度整備状況
- PL. 6 平成二十一年度整備状況
- PL. 7 平成二十二年度整備状況
- PL. 8 出土遺物
- PL. 9 遺構検出状況（第1調査区）
- PL. 10 遺構検出状況（第1調査区）
- PL. 11 遺構検出状況（第1調査区）
- PL. 12 遺構検出状況（第1調査区）
- PL. 13 遺構検出状況（第1調査区）
- PL. 14 遺構検出状況（第2調査区）
- PL. 15 遺構検出状況（第2・3調査区）
- PL. 16 遺構検出状況（第2・3調査区）
- PL. 17 遺構検出状況（第3・4調査区）
- PL. 18 遺構検出状況（第4調査区）
- PL. 19 遺構検出状況（第4調査区）
- PL. 20 遺構検出状況（第4調査区）
- PL. 21 遺構検出状況（第5調査区）
- PL. 22 遺構検出状況（第6・7調査区）
- PL. 23 遺構検出状況（第7・8調査区）
- PL. 24 遺構検出状況（第9調査区）
- PL. 25 遺構検出状況（第6・8・9調査区）
- PL. 26 '07年度調査遺構検出状況
- PL. 27 '07年度調査遺構検出状況
- PL. 28 '08年度調査遺構検出状況
- PL. 29 '08・'09年度調査遺構検出状況
- PL. 30 '09年度調査遺構検出状況
- PL. 31 '09年度調査遺構検出状況
- PL. 32 '09年度調査遺構検出状況
- PL. 33 出土遺物（青磁、瀬戸・美濃鉄釉・灰釉、
志野、越前、唐津、備前、不明磁器）
- PL. 34 出土遺物（瓦、鉄製品、銅製品）
- PL. 35 出土遺物（銭貨）
- PL. 36 出土遺物（縄文土器、石器）

例 言

1. 本書は史跡上之国館跡（勝山館跡）の史跡等・登録記念物・歴史の道保存修理事業に伴う平成22年度の発掘調査・整備事業の報告をまとめたものである。
2. 事業の体制は次のとおりである。

事業主体者 上ノ国町教育委員会
教育長 金子 廣

指導 史跡上之国勝山館跡調査研究専門員
朝尾直弘 京都橘女子大学教授
榎森 進 東北学院大学教授
仲野 浩 東北芸術工科大学名誉教授

上ノ国町史跡整備検討委員会
仲野 浩 東北芸術工科大学名誉教授
榎森 進 東北学院大学教授
鈴木 亘 元鶴見大学講師
田中哲雄 元東北芸術工科大学教授
宮本長二郎 元東北芸術工科大学教授
渡辺定夫 東京大学名誉教授
松崎水穂 函館市北方民族資料館

上ノ国町文化財保護審議会 特別委員
羽深久夫 専修大学

主管 上ノ国町教育委員会事務局
局長 渡部孝之

文化財グループ
主幹 上野敦也（7月～）
主査・学芸員 斉藤邦典
主査 湊田俊一郎
学芸員 塚田直哉
（担当者・調査員）
作業員 池田泰子 井越祥子
勝田百香 川口泰子
鈴木千春 中村綾乃
星野由紀子 目黒加奈子
森しのぶ
3. 本書の編集・執筆は、塚田が行なった。遺構・遺物の実測図及び図版等の作成は、各作業員が分担して行なった。
4. 本書に掲載した写真の撮影は、塚田が行なった。写真の撮影は、35mmカラーリバーサル、カラーネガの2種類のフィルムを使用した。
5. 挿図の縮尺は、各図にスケールを付して示した。写真の縮尺は不統一である。
6. 遺物の点数については、現場での取り上げ点数を表す。
7. 過年度調査の遺構の表記は、その遺構が検出された調査年度を遺構番号の前に付し、'98土壙4、'07竪穴1のように表記した。
8. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局1993）を使用した。
9. 土器・陶磁器の分類は、以下に基づいて行なった。

青磁—横田・森田編年・上田編年（上田1982）
をもとに作成された国立歴史民俗博物館の分類表記
（国立歴史民俗博物館1994）
白磁—森田編年（森田1982）
染付—小野編年（小野1982）
漳州窯系染付—山川編年（1994）
瀬戸・美濃—藤澤編年（藤澤2002）
珠洲—吉岡編年（吉岡1994）
越前—朝倉氏遺跡資料館報告書の分類表記
（朝倉氏遺跡資料館1983）
肥前系陶磁器—大橋編年
（九州近世陶磁学会2000）
縄文土器—北海道埋蔵文化財センター報告書の分類表記
（北海道埋蔵文化財センター2006）
10. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。
11. 調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。記して感謝申し上げたい（敬称略）。

文化庁記念物課 市原富士夫 佐藤正知 山下信一郎 内田和伸 建造物課 田中禎彦
北海道教育庁文化・スポーツ課 高橋和樹 長沼 孝 田才雅彦 田中哲郎 西脇対名夫
中田由香 坂野 透 宗像公司 札幌医科大学 松村博文 札幌学院大学 臼杵 勲 札幌国際大学 坂梨夏代 北海学園大学 澤井 玄 函館工業高等専門学校 中村和之 弘前大学 関根達人 小岩直人 片岡俊一 上条 信彦 愛知学院大学 藤澤良祐 奈良大学

千田嘉博 山口欧志 専修大学 三宅俊彦 奈良文化財研究所 松井 章 島田敏男 小澤 毅 箱崎和久 黒坂貴裕 厚岸町教育委員会 菅原卓己 札幌市観光文化局 榊田朋広 厚真町教育委員会 乾 哲也 荻野幸雄 奈良智法 天方博章 山田和史 函館市教育委員会 野村祐一 吉田力 七飯町教育委員会 山田 央 北斗市教育委員会 森 靖裕 松前町教育委員会 佐々木武夫 前田正憲 佐藤雄生 平山禾都 八雲町教育委員会 三浦孝一 柴田信一 森町教育委員会 高橋毅 本山志郎 江差町教育委員会 藤島一巳 宮原 浩 厚沢部町教育委員会 石井淳平 乙部町教育委員会 藤田 巧 今金町教育委員会 宮本

雅通 五所川原市教育委員会 一戸俊一 榊原滋 高 近藤昌浩 長利豪美 中泊町教育委員会 齋藤 淳 遊佐町教育委員会 大川貴弘 高崎市教育委員会 滝沢 匡 国分寺市教育委員会 中道誠 彦根市教育委員会 下高大輔 かつらぎ町教育委員会 和田大作 有田町歴史民俗資料館 野上建紀 大村市教育委員会 安樂哲史 文化財建造物保存技術協会中内康雄 小幡長治 北海道埋蔵文化財センター 大泰師 統 茨城県教育財団 小林和彦 大阪市文化財センター本間元樹 高知県文化財団埋蔵文化財センター 吉成承三 北海道開拓記念館 山田悟郎 美幌博物館 八重柏誠 松前城資料館 久保 泰

引用参考文献

青森県史編さん考古部会 2003『青森県史 資料編 考古4』中世・近世
朝倉氏遺跡資料館 1983『県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書』
網野善彦・石井進編 2001「上之国勝山館跡と夷王山墳墓群から見えるもの」『北から見直す日本史』大和書房
石井 進 2002「中世のかたち」『日本の中世1』中央公論新社
上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第2号
宇野隆夫 1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告書』第40集
小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』第2号
上ノ国町教育委員会 1980～2005『史跡上之国勝山館跡Ⅰ～XXVI』
2000『町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅲ』
2006・2007『史跡上之国館跡整備事業報告書Ⅰ～Ⅱ』
2008『史跡上之国館跡Ⅰ』
2009『史跡上之国館跡Ⅱ』
2010『史跡上之国館跡Ⅲ』

国立歴史民俗博物館 1994『日本出土の貿易陶磁 東日本編1』国立歴史民俗博物館資料調査報告書V
永井久美男 1998『近世の出土銭Ⅱ—分類図版篇—』兵庫埋蔵銭調査会
永井久美男 2002『新版 中世出土銭の分類図版』兵庫埋蔵銭調査会
塙保己一 1960『群書類従・第二十三輯』続群書類従完成会
藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『(財)瀬戸市埋蔵文化財センター 研究紀要』第10輯
北海道庁 1916『北海道史』
北海道庁 1969「新羅之記録」『新北海道史』第七巻 史料一
北海道埋蔵文化財センター 2006「I. 4 (5) 土器の分類」『森町森川3遺跡 (2)』第234集
松崎岩穂 1956『上ノ国村史』上ノ国村
松崎岩穂 1962『続上ノ国村史』上ノ国村
森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』第2号
山川 均 1994「漳州窯系陶磁器に関する編年的研究」『大和郡山市文化財年報・紀要Ⅰ』
吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

I 史跡上之國館跡の調査

1. 調査にいたる経緯

檜山郡上ノ国町を東西に流れる天ノ川河口周辺には、15世紀中頃～16世紀にかけて機能した史跡上之國館跡（花沢館跡、洲崎館跡、勝山館跡）が所在する。

そのうちの勝山館跡は、天の川河口左岸の丘陵に立地し、花沢館、洲崎館に後出して松前氏の祖武田信広が、勝山館に館神八幡宮を創祀した文明5（1473）年頃に築城し、16世紀末頃まで存続したと伝えられる山城である。

また、勝山館跡は昭和52（1977）年に国の史跡に指定され、昭和54（1979）年から現在にいたるまで発掘調査・整備事業が継続的に実施されている。発掘調査では、建物跡の遺構や中国や本州産の陶磁器を始めとして、金属製品、石製品、土製品、アイヌが使用した骨角器など約7万点を超える遺物が出土している。

さらに、館背後に位置する夷王山墳墓群では、和人墓が点在するエリアに数は少ないもののアイヌ墓が確認されていることなどから、勝山館に人とアイヌの混住が明らかとなっている。

平成18（2007）年3月には、洲崎館跡が国の史跡に指定され、それに伴い勝山館跡、花沢館跡の天ノ川周辺に分布する国指定史跡の3館を合わせて、「史跡上之國館跡」と名称されている。

平成20年には、勝山館跡の出土遺物のうち921点が人とアイヌ文化の関わりを考えるうえで欠かせない資料であることから、重要文化財に指定されている。

現在、勝山館跡の環境整備事業では、上國寺本堂（重要文化財）と上ノ國八幡宮本殿（町指定文化財）の間にみられる登り口から大手空壕までの旧道跡及び、その周辺の整備が計画されている。それに伴い、平成19年度から実施されている勝山館跡の発掘調査は、旧道跡とその周辺で空壕・土塁、虎口、荒神堂跡、土葬墓などの遺構が確認されている。

平成23年度は、前年度に引き続き、荒神堂下から物見跡が推定されている地点において、旧道跡と物見跡の遺構確認調査を実施している。

物見跡が推定されている4段の平坦面（字勝山410～412・415番地）は、土地台帳によれば大正～昭和の初めまで宅地として登録されており、建物の存在を窺うことができる。

そのうちの上ノ國八幡宮裏の平坦面（415番地）では、能登屋笹浪家の10代目にあたる笹浪久右衛門が明治37年まで所有者とされ、笹浪家の蔵などが存在していた可能性が考えられる。

2. 調査位置

今年度は、国道228号線脇の上ノ國八幡宮社務所裏の人工的に削平したとされる4段の平坦地について、その立地から物見跡の存在が推測されるため、調査区（第1～4調査区）を設定している。また、館へ至る自然研究路西の台地では、溝状の窪みが確認されるため、旧道跡の可能性を考慮し、調査区（第5～9調査区）を設定した。

調査は1J～4J、2I～6I、5Hグリッドで調査を実施している。

3. 調査方法

グリッドは、昭和55年度に設定した勝山館跡のグリッドを使用した。

第1～4調査区では、戦後に植林されたスギがみられ、発掘調査に支障をきたすことが予想されたため、45本について根元から伐採している。

調査は、中世面まで掘り下げ、勝山館時代の遺構の検出に努めている。

第1～4調査区は、調査区周辺に排土を置くスペースがなかったため、調査区の半分を掘削し、残り半分を排土置き場として調査を行った。また、第1～4調査区は比高差5mの連続する平坦地のため、第1～4調査区に縦断する南北セクションベルトを設定し、土層の堆積を確認している。さらに、各調査区では南北セクションベルトに直交する東西のセクションベルトを設定した。

遺構の調査方法は、中世では平面プランを確認し、溝についてトレンチ内を完掘、柱穴について段下げ・半截、土層について半截をして行った。

また、近世の遺構に関しては、原則として中世

の場合と同様であるが、その下位に存在する中世の包含層及び遺構を確認することが困難な場合に限って、完掘を行っている。

遺構の実測は、全体の平面図・セクション図について、1/20、1/40の縮尺を用いた。

遺構番号は、検出された順に遺構の種類別で番号を付した。

遺物取り上げは、近世以降（Ⅰ層、Ⅱ層）のものについてグリッド・層位ごとに取り上げた。

中世包含層・遺構から出土した遺物については、出土地点、標高値を記録し、層位ごとに取り上げを行なった。

4. 調査経過

4月 機材等の搬入をし、調査区の設定を行う。

第1・2調査区の表土剥ぎを人力で行い、江戸時代以降と思われる溝（溝1）を検出した。

5月 第1調査区東側で中世の和人と思われる土葬墓（土壇1・3～5）を検出した。

第2調査区で近世末～近代の集石を検出した。第5・6調査区の表土剥ぎを行った。

6月 第2調査区で中世～近世に相当する2棟の掘立柱建物跡を検出した。第3調査区で表土剥ぎを行う。

7月 第3調査区で遺構精査を行い、トレンチを4本掘削した。第4調査区で表土剥ぎを行う。

第6調査区で旧道と思われる溝状の遺構（溝2）を検出した。

8月 第7～9調査区で旧道と思われる溝状の遺構（溝2）を検出した。

9月 第1調査区南西側で礎石建物跡の一部を構成すると思われる礎石列を確認した。

幕末と思われる溝状の旧道跡を検出した。

10月 遺跡の現地見学会を実施し、地域の方へ調査成果の周知を行った。

11月 第4調査区北西部分では中世の土葬墓を検出した。第5調査区で現在の階段部分で勝山館の時代と思われる道路跡を確認した。第2・3調査区の埋戻しを行った。

12月 調査区の清掃を行い、完掘写真を撮影した。残りの調査区の埋戻しを行い、機材の撤去をして調査を終了した。

5. 基本層序

Ⅰ層：近現代に相当する堆積層である。

Ⅱ層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年代降灰のKo-d（駒ヶ岳d）火山灰の層を含む。勝山館跡の発掘調査では、この火山灰層を境として上層を近世面、下層を中世面と認識している。

Ⅲ層：中世（15世紀中頃～16世紀）に相当する整地層である。

Ⅳ層：縄文～擦文時代に相当する堆積層で、3層に細分される。

Ⅳa層：黒色の腐植土層で、擦文時代に相当する層である。

Ⅳb層：Ⅳa層の下層に堆積する10世紀中葉以降のB-Tm（白頭山～苦小牧）火山灰層である。

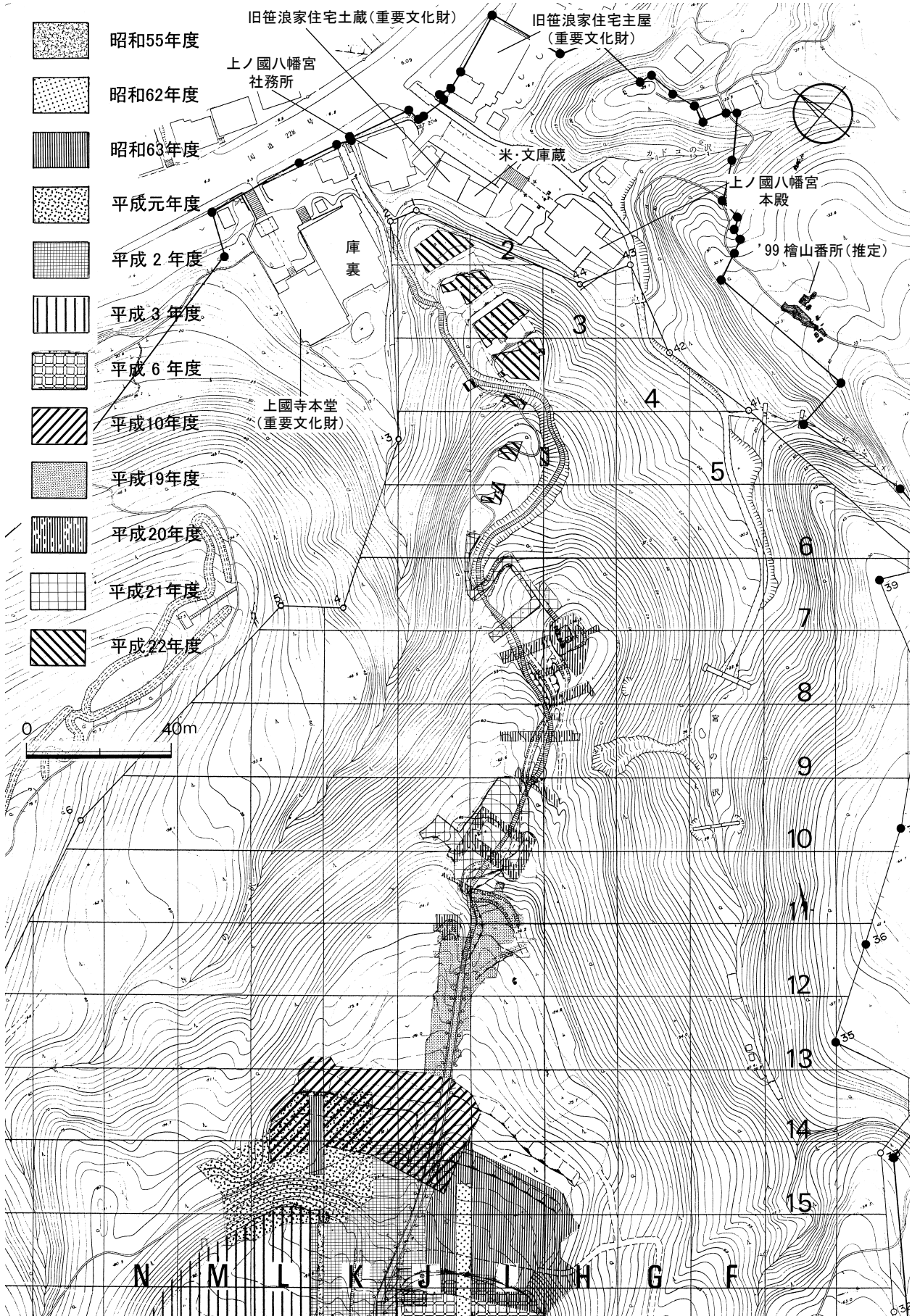
Ⅳc層：Ⅳb層の下層に堆積する黒色の腐植土層で、縄文時代に相当する層である。

Ⅴ層：無遺物層で2層に細分される。

Ⅴa層：ソフトローム層である。

Ⅴb層：ハードローム層である。

Ⅵ層：無遺物層で礫及び礫粒を多量に含む岩盤層である。



第2図 年次別調査範囲図

II 遺構確認調査の概要

本年度の調査は、勝山館跡の物見跡と旧道跡を確認する目的で実施された。調査区は、物見跡を確認するために第1～4調査区を設定し、また旧道跡を確認するために第5～9調査区を設定した。

物見跡は、国道228号線沿いの重要文化財旧笹浪家住宅と同上國寺本堂の間に位置する上ノ國八幡宮社務所裏の標高15～30mの張り出した台地で実施されている。この台地は、人工的に造成されたと思われる4段の平坦面で構成され、その立地から勝山館の物見跡の存在が推測されている。

一方の旧道跡は、第4調査区から荒神堂入口へ至る自然散策路西の台地で、溝状の窪みが確認される箇所を実施された。以下に調査の概要を述べる。

1. 検出遺構

(1) 物見跡の調査 (第3～18図)

第1調査区 (第5～11図、PL1-9～13)

〔立地〕2J17～20・22～25、3J2～5グリッドの上ノ國八幡宮社務所裏と2段目の平坦面の間に位置する。4段の平坦地のうち、一番低地の標高15mで、地山での平坦面の規模が南北約12m、東西が最大約13mを測る。また、上ノ國八幡宮社務所裏にあたる第1調査区斜面直下には、慶応2年(1866)の絵図等から勝山館跡の旧道跡があったと考えられる(42・43図)。

〔検出遺構〕土壌5基(中世土葬墓)、礎石建物跡1棟(中世末～近世初頭)、旧道跡(近世末)、溝(近世以降)が検出されている。

〔出土遺物〕青磁腰折皿1点、白磁皿(E群)2点、染付碗50点(B群2点・碗C及び碗D群1点・漳州要系碗47点)、赤絵碗1点、瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗(大4)3点・(連房窯)13点、灰釉端反皿(大1)1点、丸皿(大3・4)2点、越前壺・甕4点、志野皿(大4後)5点、唐津(I～II期)碗55点・皿19点・瓶9点、備前すり鉢5点、肥前系磁器46点(V期・不明)、肥前系陶器92点(近世)、瀬戸・美濃染付(近世末～近代)38点、九谷磁器?1点、不明磁器21点(近世末～近代)、不明陶器50点(近世～近

代)、瓦15点、鉄製品釘118点(和釘116点・洋釘2点)・鋸1点・鑿1点・刀子1点・鍋2点・縫針1点・鉄1点・火箸?1点・鋌1点・不明11点、銅製品釘1点・鋸2点・煙管2点・鏡1点・不明2点、銭(永樂通寶3点、開元通寶7点、熙寧元寶1点、景德元寶2点、景祐元寶1点、元豐通寶2点、元祐通寶1点、皇宋通寶4点、洪武通寶2点、判読不明3点、無文銭2点、輪銭1点)、寛永通寶(1期3点・3期7点・四文銭1点)、漆塗膜片1点、木製品杭1点、石製品10点(硯1点・砥石9点)、自然遺物(人骨)13点・炭化材1点、縄文土器305点(Ⅲ群～Ⅴ群)、剥片石器22点、が出土している。

土壌1 (10図、PL9-2～5)

〔位置〕調査区北東部の2J14・19グリッドに位置する。

〔性格〕銅銭や棺に使用した釘から土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕平面形は長軸125cm、短軸71.5cmの隅丸長方形を呈し、確認面からの深さ36cmを測る。セクション(表8)で棺上位に盛土と思われる堆積(Ⅲ層)を確認したが、削平等のため規模について計測できなかった。

棺の規模は長軸85cm、短軸43cmを測る。推定頭位は、N-80°-Eである。

〔堆積土〕Ⅳ層の黒褐色土を掘削して構築され、黒褐色土で埋め戻されている。

〔新旧関係〕なし

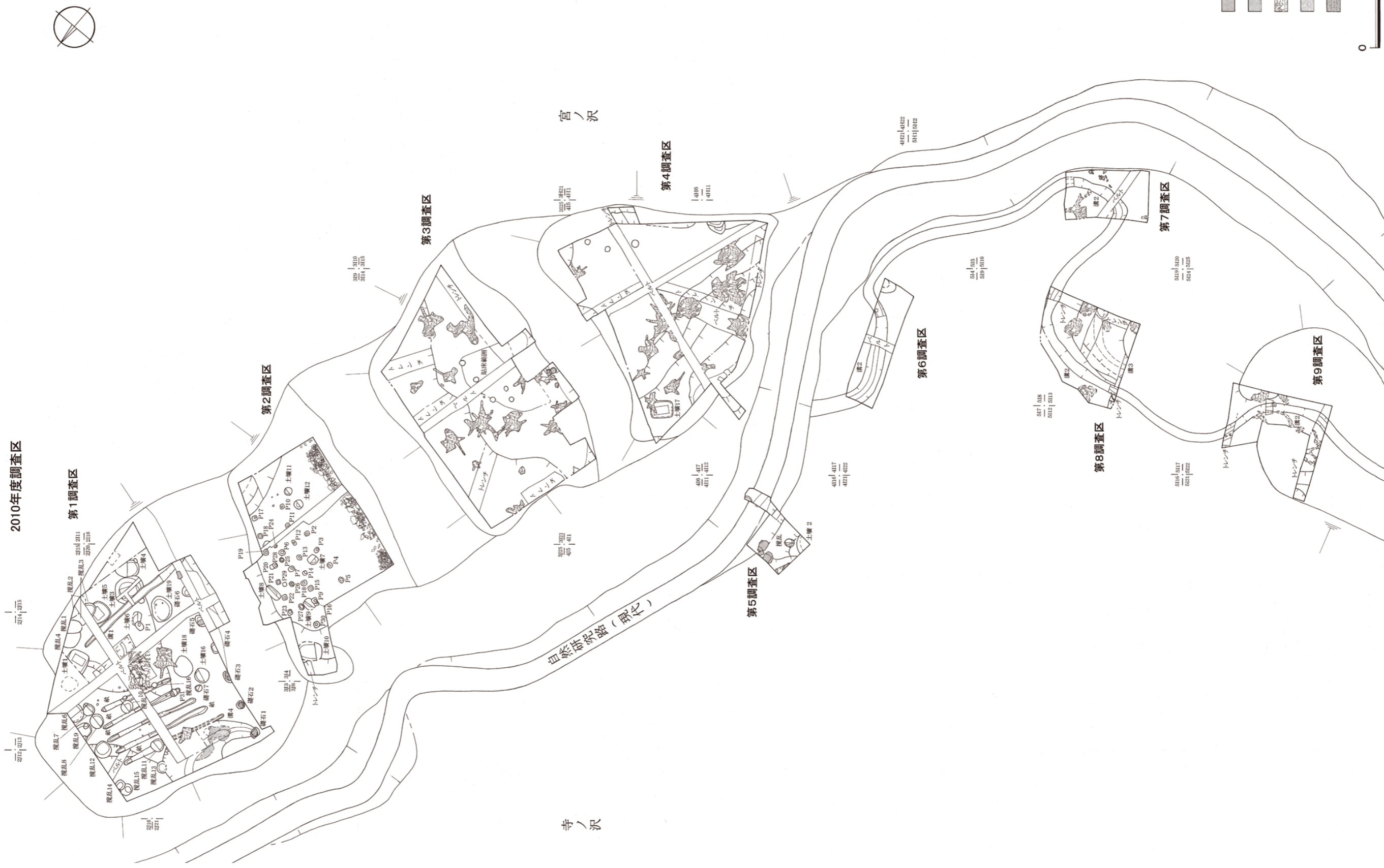
〔出土遺物〕木棺に使用した釘15点、副葬品として銅製品銭7点(開元通寶2点、皇宋通寶2点、元豐通寶1点、判読不明2点)、その他縄文土器3点(Ⅲ～Ⅴ群)が出土している。

土壌3 (9図、PL9-7～10-1)

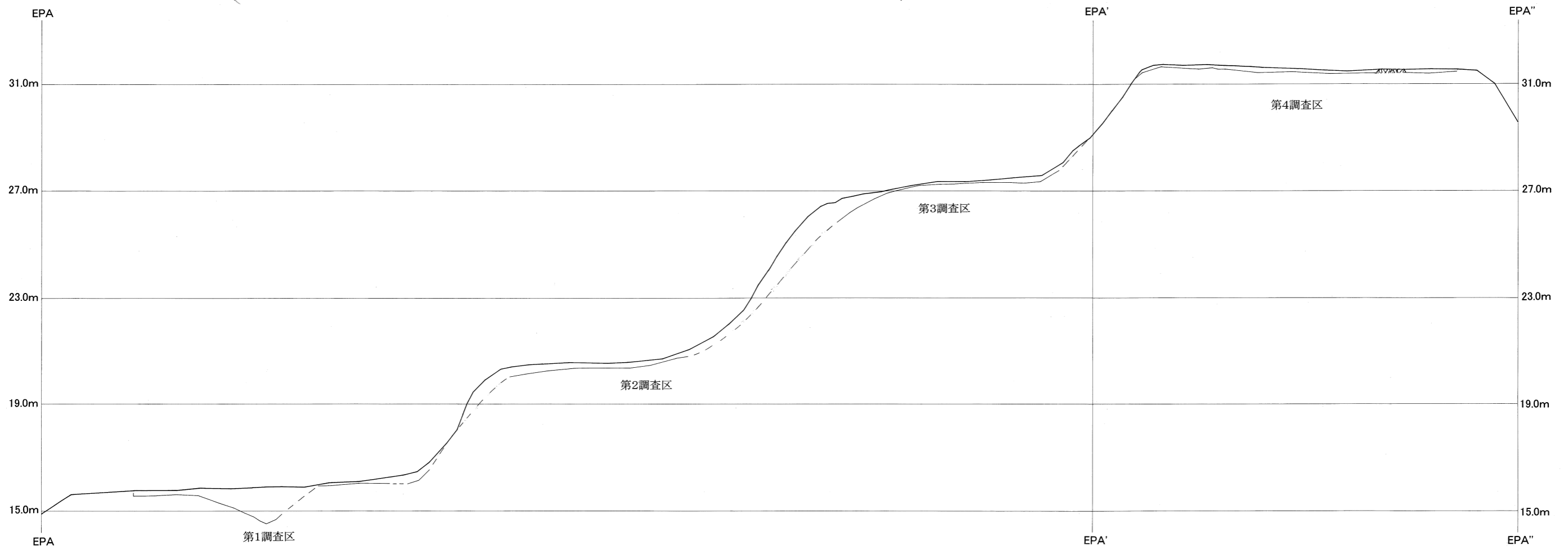
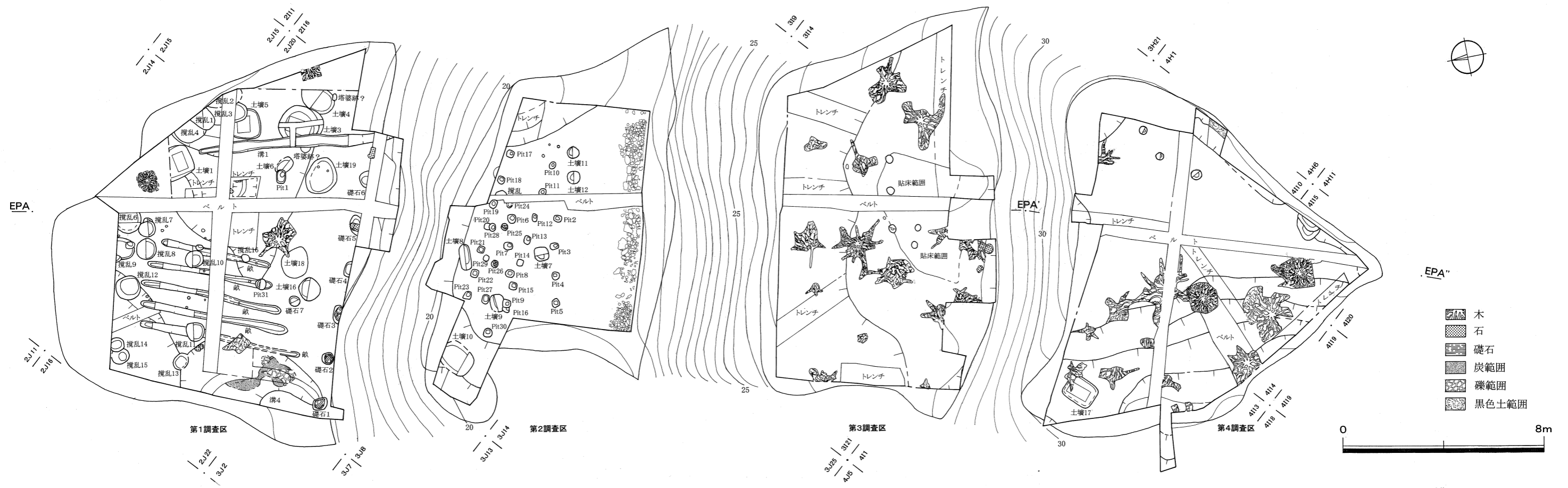
〔位置〕調査区南東部の2J20グリッドに位置する。

〔性格〕銅銭や棺に使用した釘から土葬墓と思われる。

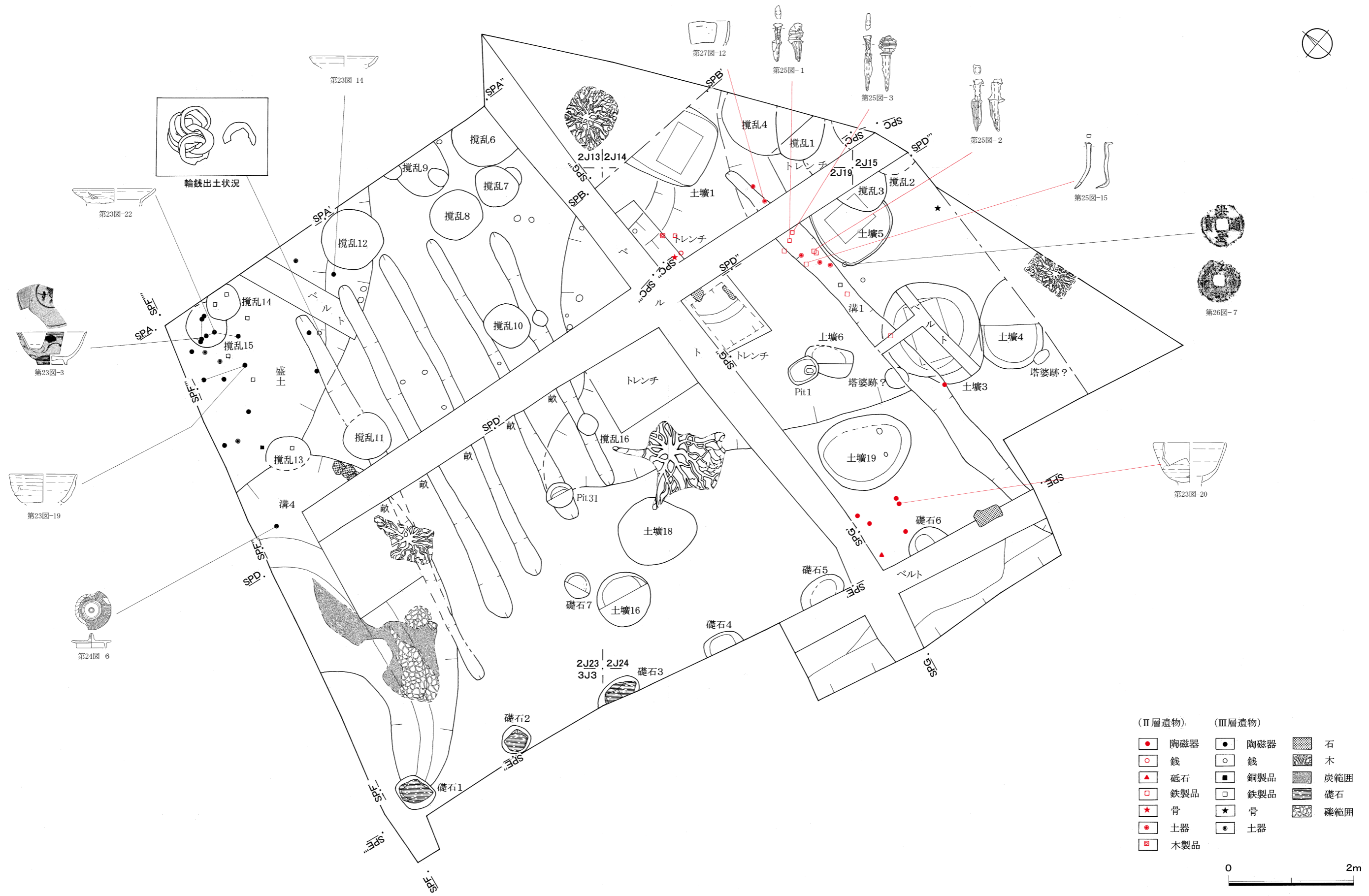
〔形態・規模〕平面形は、直径156cmの円形を呈し、



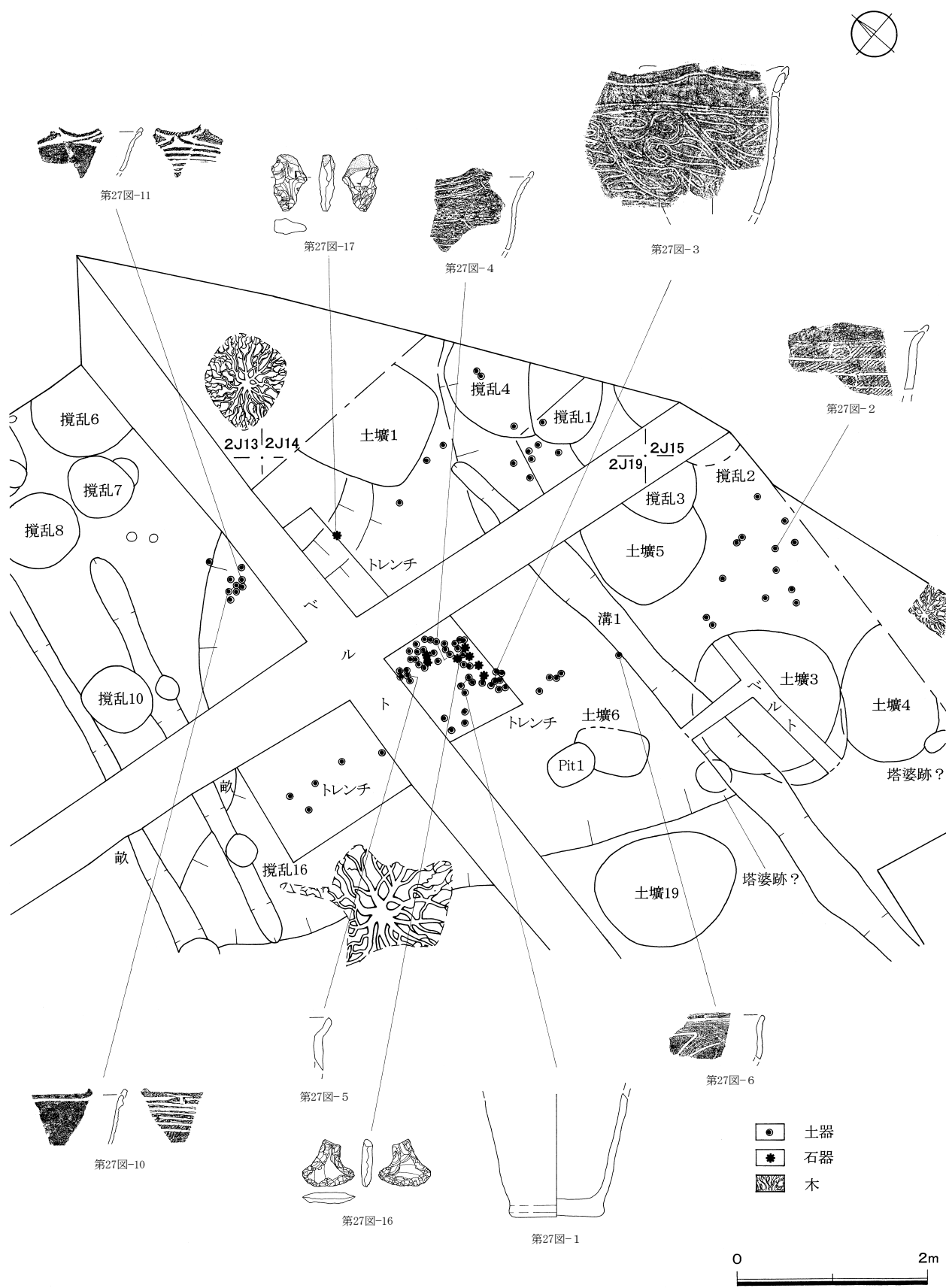
第3図 調査区遺構配置図



第4図 第1~4調査区 平面図他



第5図 第1調査区 平面図・II III層遺物分布図



第6図 第1調査区 IV層遺物分布図

確認面から深さ 46 cmを測る。棺上位に盛土と思われる堆積（表 10-1）を確認したが、削平等のため規模について計測できなかった。

棺の規模は長軸 97 cm、短軸 53 cmを測る。推定頭位は、N-35°-E である。

〔堆積土〕盛土は、礫混じりの黄褐色土を多く含む。土壌内は、黒色土が堆積する。

〔新旧関係〕土壌 4 より新しい。

〔出土遺物〕木棺に使用した釘 15 点、副葬品として銅製品銭 3 点（開元通寶 1 点、皇宋通寶 1 点、元豊通寶 1 点）、その他縄文土器 7 点（IV群 a・群不明）が出土している。その他被葬者と思われる人骨（歯）が出土している。

土壌 4（9 図、PL1-4・9-6・10-2）

〔位置〕調査区南東部の 2J20 グリッドに位置する。

〔性格〕銅銭や棺に使用した釘から土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕平面形は、長軸 143 cm、短軸 98 cmの楕円形を呈し、確認面から深さ 32 cmを測る。棺上位に盛土と思われる堆積を確認したが、削平等のため規模について計測できなかった。推定頭位は、N-35°-E である。

〔堆積土〕土壌中央と比較して、側面において礫が多く混入していたが、明確に棺内と棺外を認識することができなかった。

〔新旧関係〕土壌 3 より古い。

〔出土遺物〕木棺に使用した釘 15 点、被葬者と思われる人骨（下肢骨）、が出土している。副葬品として、銅製品銭 6 点（熙寧元寶 1 点、景德元寶 2 点、景祐元寶 1 点、永樂通寶 1 点、判読不明 1 点）が出土している。その他、掘削の際混入したと思われる縄文土器 1 点（IV群 a）が出土している。

土壌 5（11 図、PL10-3・4）

〔位置〕調査区東の 2J19・20 グリッドに位置する。

〔性格〕銅銭や棺に使用した釘から土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕平面形は、長軸 118 cm、短軸不明の隅丸方形を呈し、確認面からの深さ 35 cmを測る。盛土は、土壌上位が攪乱・削平を受けているため、規模について確認できなかった。

棺の規模は長軸 65 cm、短軸 52 cmを測る。推定頭位は、E-10°-S である。

〔堆積土〕盛土（表 13-1～4）は、礫混じりの黄褐色土を呈する。土壌内は、棺内で崩落した暗褐色土、棺外で盛土とほぼ同様な質の黄褐色土が堆積する。

〔新旧関係〕溝 1 より古い。

〔出土遺物〕木棺に使用した釘 12 点、副葬品として銅製品銭 3 点（皇宋通寶 1 点、元祐通寶 1 点、永樂通寶 1 点）、その他縄文土器 4 点（IV群 a・群不明）が出土している。その他被葬者と思われる骨片が出土している。

土壌 6（12 図、PL10-5）

〔位置〕調査区南東の 2J19 グリッドに位置する。

〔性格〕不明

〔形態・規模〕平面形は、長軸 72 cm、短軸 48 cm、深さ 36 cmを測る。

〔堆積土〕黒褐色土を多く含み、人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕Pit1 より古い。

〔出土遺物〕縄文土器 1 点（群不明）が出土している。

土壌 16（11 図、PL11-1・2）

〔位置〕調査区南の 2J24 グリッドに位置する。

〔性格〕漆塗膜片や棺に使用した釘から土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕平面形は、直径 88 cmの円形を呈し、確認面からの深さ 18 cmを測る。上面は、礎石建物跡構築に伴う平坦地造成のため、削平されている。棺の規模は、明確にすることができなかった。

推定頭位は、漆片の位置から北～東の間と考えられる。

〔堆積土〕黄褐色土等の礫が多く混じる。

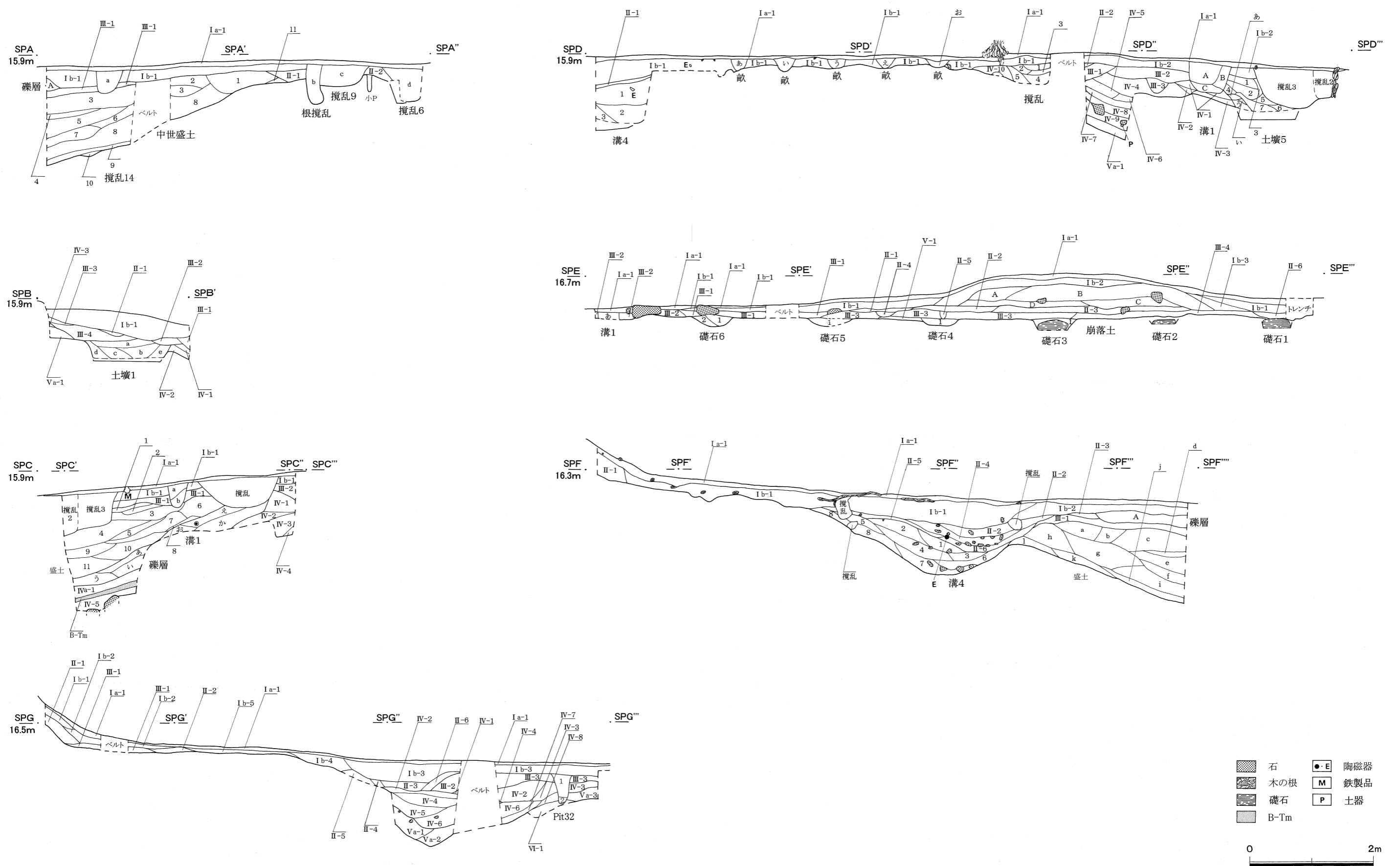
〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕木棺に使用したと思われる釘 3 点、副葬品として漆器（塗膜）1 点が出土している。

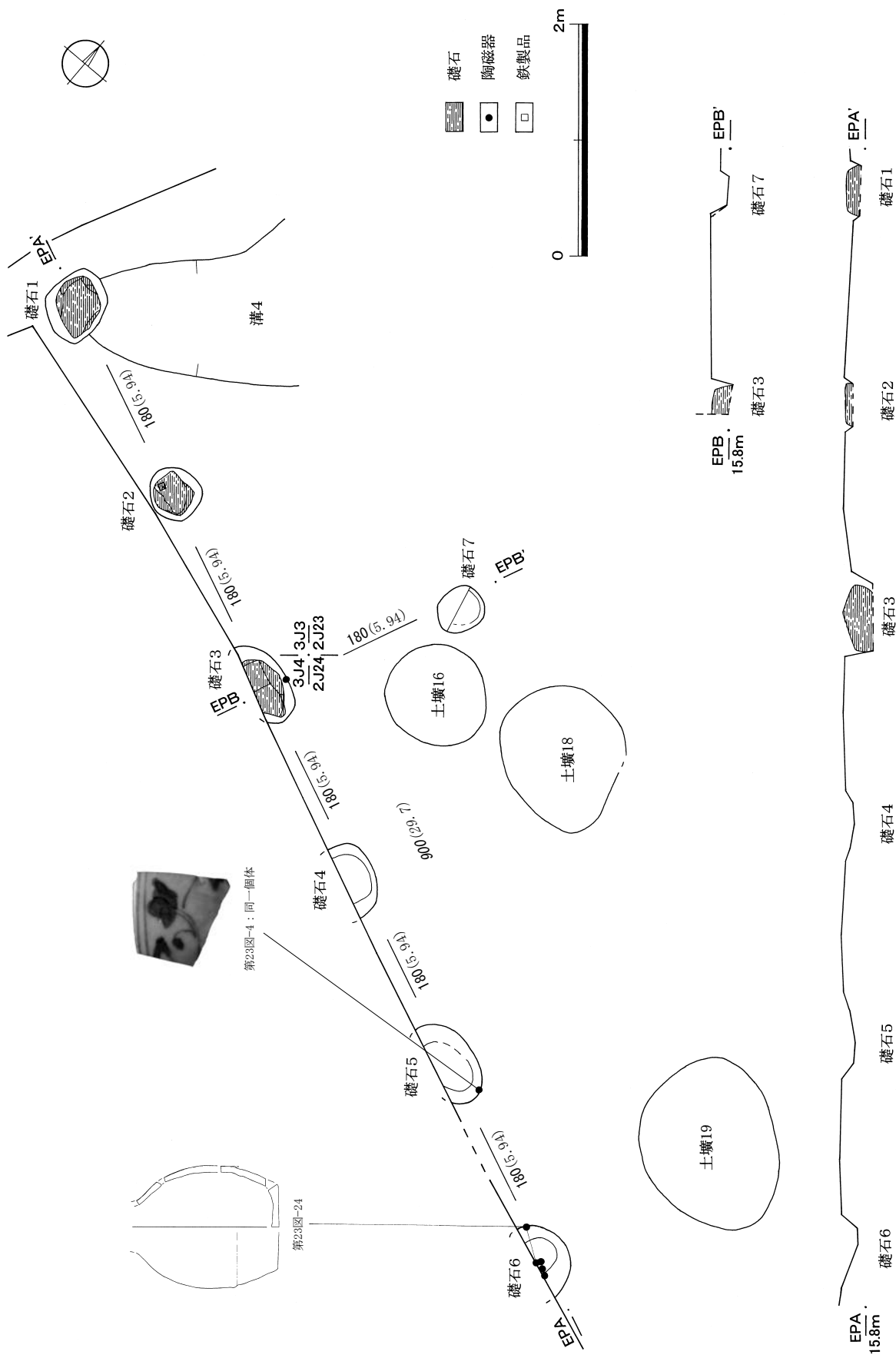
土壌 18（5 図）

〔位置〕調査区南の 2J24 グリッドに位置する。

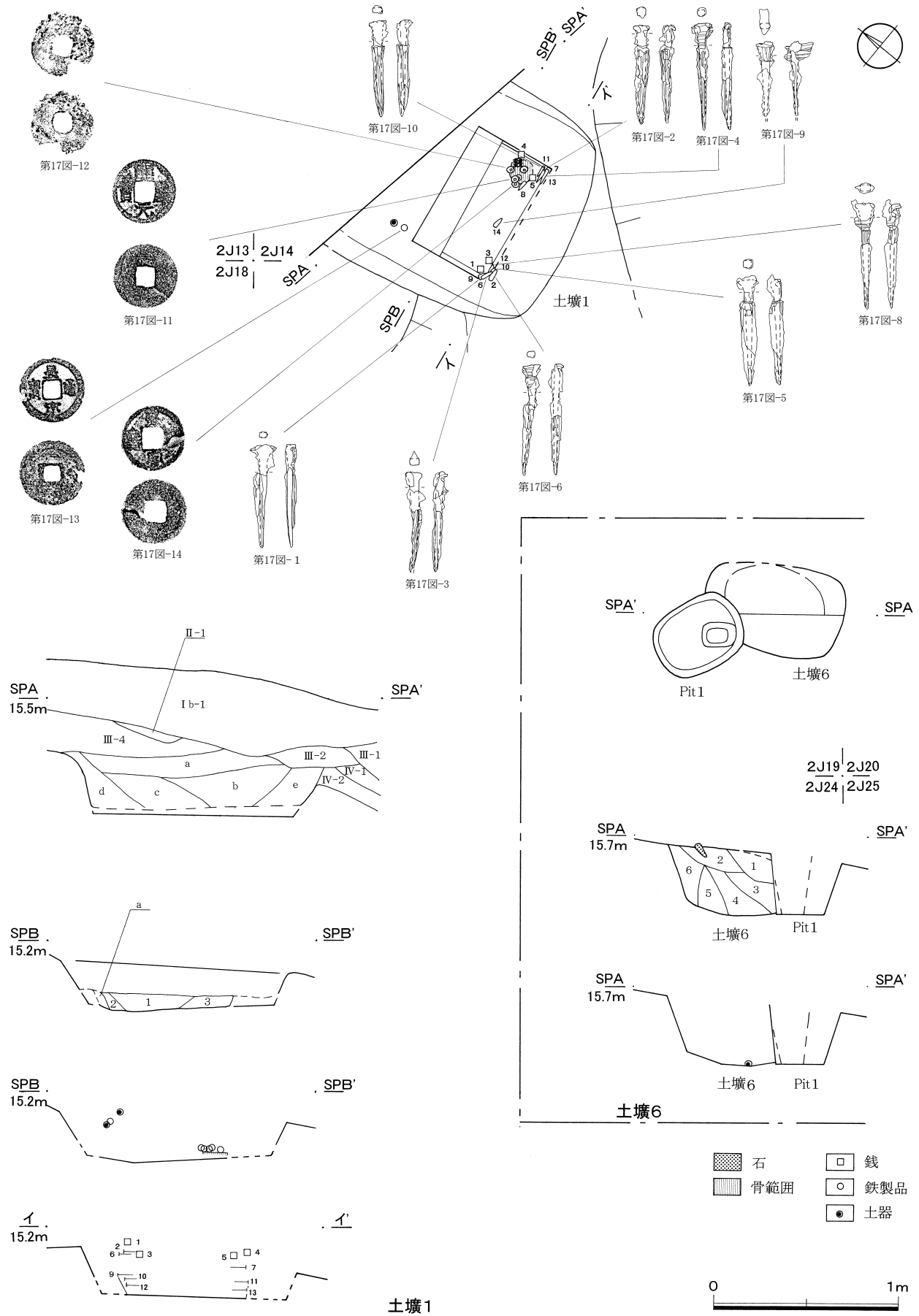
〔性格〕調査は、平面形の確認に留めたため、不明である。



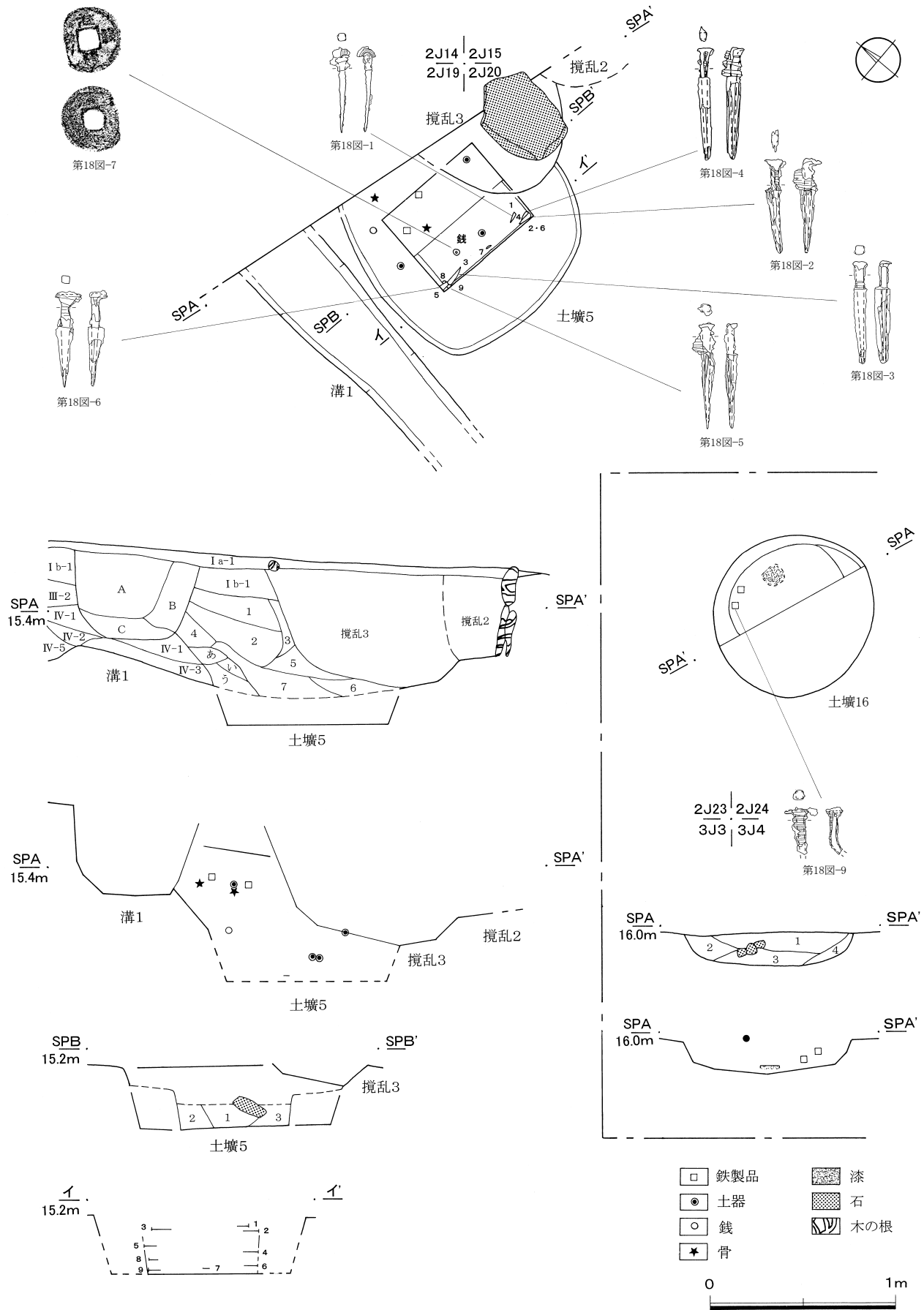
第7図 第1調査区 土層堆積図



第8図 第1調査区 礎石建物跡 平面図他



第10圖 第1調査区 土壌1・6 平面図他



第11図 第1調査区 土壌5・16 平面図他

表1 第1調査区 東西セクション北壁土層観察表 (A~A")

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	草根多量
	I b-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	
	II-1	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややハード	
	II-2	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利微量	シルト ややハード	
	III-1	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
礫層	A	7.5YR4/2	灰オリーブ色	礫ブロック多量	砂質土 ややハード	
攪乱14	a	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
攪乱17	b	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
攪乱9	c	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
攪乱6	d	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
盛土	1	5Y4/1	灰色	礫 10cm大礫多量	ややハード	
	2	5Y4/1	灰色	礫	ハード	
	3	5Y4/2	灰オリーブ色	礫 10cm大礫多量	ややハード	
	4	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	5	5Y4/2	灰オリーブ色	礫	ややハード	
	6	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	7	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	8	5Y4/1	灰色	礫	ややハード	
黒色土	9	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	10	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	11	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	

表2 第1調査区 東西セクション北壁土層観察表 (B~B")

	I b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-1	10YR2/1	黒色		シルト ややソフト	
	III-1	2.5Y5/4	黄褐色		粘土 ソフト	
	III-2	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	III-3	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	III-4	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-1	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	IV-2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-3	7.5YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	V a-1	2Y4/4	オリーブ褐色		粘質土 ややハード	
土壌1 (箱内)	a	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	b	10YR3/2	黒褐色	玉砂利 礫粒少量	シルト ややソフト	
	c	10YR3/2	黒褐色	玉砂利 礫粒少量	シルト ソフト	
	d	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	e	10YR2/3	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
(箱外)						

表3 第1調査区 東西セクション南壁土層観察表 (C~C")

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	草根多量
	I b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	III-1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利微量	シルト ややハード	
	III-2	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	炭粒微量
	IV a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-1	7.5YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-2	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	IV-3	10YR4/3	にぶい黄褐色		粘質土	
	IV-4	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	炭粒微量
	IV-5	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	
溝1	a	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	b	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
盛土	1	2.5Y7/6	明黄褐色		粘土 ややハード	
	2	10YR3/2	黒褐色		シルト ソフト	
	3	2.5Y7/6	明黄褐色		粘土 ややハード	
	4	2.5Y7/4	浅黄色		粘土 ややハード	
	5	10YR3/2	黒褐色	礫粒多量	シルト ややハード	
	6	10YR6/6	明黄褐色		粘土 ハード	
	7	10YR6/6	明黄褐色		粘土 ややハード	
	8	10YR6/6	明黄褐色		粘土 ややソフト	
	9	10YR5/6	黄褐色		粘土 ややハード	
	10	10YR4/4	褐色		粘土 ややハード	
	11	10YR4/4	褐色		粘土 ハード	
礫層	あ	2.5Y6/6	明黄褐色	礫	ハード	
	い	2.5Y6/6	明黄褐色	礫 黒褐色土少量	ハード	
	う	2.5Y6/6	明黄褐色	礫 黒褐色土少量	ややハード	
	え	10YR3/2	黒褐色	5cm大礫少量	シルト ややソフト	
	お	10YR3/3	暗褐色	5cm大礫少量	シルト ややハード	

	か	10YR3/3	暗褐色	5cm大礫多量	シルト ややハード	
--	---	---------	-----	---------	-----------	--

表4 第1調査区 東西セクション北壁土層観察表 (D~D")

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	草根多量
	I b-1	10YR3/3・2/3	暗褐・黒褐色		シルト ややソフト	
	I b-2	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-1	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	II-2	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-1	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	炭粒微量
	III-2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	III-3	10YR4/2	灰黄褐色	ローム 2~3cm大礫少量	ハード	
	IV-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	や やハード
	IV-2	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	IV-3	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ハード	
	IV-4	10YR2/2	黒褐色		シルト ややハード	
	IV-5					
	IV-6	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-7	7.5YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-8	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	IV-9	10YR4/3	にぶい黄褐色		粘質土	
	IV-10	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	V a-1	10YR4/4	褐色		粘質土 ややハード	
溝4	1	10YR3/2	黒褐色	5~10cm大礫少量	シルト ややソフト	
	2	10YR3/2	黒褐色	5~10cm大礫多量	シルト ややソフト	
	3	10YR3/2	黒褐色	5~10cm大礫微量	シルト ややハード	
畝	あ	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	い	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	う	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	え	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	お	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
攪乱	1	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	2	10YR3/4	暗褐色		シルト ややハード	
	3	10YR2/3	黒褐色		シルト ややハード	
	4	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	5	10YR3/2	黒褐色		シルト ソフト	
溝1	A					
	B	10YR2/3	黒褐色	3cm大ロームブロック×1	シルト ややハード	
	C	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
土壌5	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	2~3cm大炭ブロック少量
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	3	10YR2/1	黒色		シルト ややソフト	
	4	2.5Y5/4	黄褐色		シルト ややハード	
	5	10YR3/4	暗褐色		シルト ややハード	
	6	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	シルト ややハード	
	7	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	シルト ややハード	
(箱内崩落土)	あ	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	炭少量
	い	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	
	う	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	
	え	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	お	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	

表5 第1調査区 東西セクション南壁土層観察表 (E~E")

	I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	草根少量
	I b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややハード	
	I b-2	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
	I b-3	10YR3/3	暗褐色	基盤礫多量	シルト 粗 ハード	
	II-1	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト 粗 ソフト	
	II-2	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややソフト	

	II-3	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	
	II-4	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ハード	
	II-5	10YR3/3	暗褐色	玉砂利×2	シルト 密 ハード	
	II-6	10YR3/4	暗褐色	5cm大基盤礫×2 玉砂利少量	シルト 密 ハード	
	III-1	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	III-2	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
	III-3	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	III-4	10YR3/4	暗褐色	1cm大基盤礫粒微量	シルト 粗 ややハード	
溝1	あ	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややハード	
崩落土	A	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ややソフト	
	B	10YR3/3	暗褐色	下部基盤礫中量	シルト 粗 ソフト	炭粒微量
	C	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
	D	10YR3/3	暗褐色	玉砂利微量	シルト 粗 ややハード	
礎石6	1	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ハード	炭粒微量
	2	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ややハード	炭粒微量
礎石5	1	10YR4/3	にぶい黄 褐色	3cm大基盤礫粒微量	シルト 密 ややハード	
礎石4	1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒中量	シルト 粗 ややソフト	
礎石3	1	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	

表6 第1調査区 南北セクション西壁土層観察表 (F~F''')

	I a-1	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	草根多量
	I b-1	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	I b-2	10YR4/3	にぶい黄 褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	
	II-1	10YR5/3	にぶい黄 褐色	礫	ハード	
	II-2	10YR2/3・ 3/3	黒褐・ 暗褐色	5cm大礫少量 10cm大角礫×3	シルト ややハード	
	II-3	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	II-4	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	II-5	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-6	10YR3/3	暗褐色		シルト ソフト	
	III-1	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-2	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
溝4	1	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト ややハード	
	2	10YR4/3	にぶい黄 褐色	5cm大礫微量	シルト ややハード	
	3	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト ややハード	
	4	10YR3/2	黒褐色	5cm大礫微量	砂質土 ややソフト	
	5	10YR4/3	にぶい黄 褐色		砂質土 ややソフト	
	6	10YR2/3	黒褐色		砂質土 ややソフト	
	7	10YR2/3	黒褐色	5cm大礫少量	砂質土 ややソフト	
	8	10YR2/3	黒褐色		砂質土 ややハード	
礫層	A	7.5Y4/2	灰オリーブ 色	礫ブロック多量	砂質土 ややハード	
盛土	a	10YR3/2	黒褐色	礫粒多量	シルト ややハード	
	b	5Y4/1	灰色	礫 10cm大礫多量	ややハード	
	c	5Y4/2	灰オリーブ 色	礫 10cm大礫多量	ややハード	
	d	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	e	5Y4/2	灰オリーブ 色	礫	ややハード	
	f	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	g	2.5Y4/1	黄灰色	礫	ややハード	
	h	2.5Y4/1	黄灰色	礫	ややソフト	
	i	2.5Y4/1	黄灰色	礫	ややソフト	
黒色土	j	10YR3/3	暗褐色		シルト やハード	や

	k	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	シルト や やハード	
	l	10YR3/4	暗褐色		シルト や やハード	

表7 第1調査区 南北セクション西壁土層観察表 (G~G''')

	I a-1	10YR2/3・ 3/2	黒褐色		シルト ややハード	草根多量
	I b-1	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
	I b-2	10YR3/3	暗褐色	2~3mm大基盤礫粒多量	シルト 粗 ややハード	
	I b-3	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	I b-4	10YR3/3	暗褐色	礫粒微量	シルト ややハード	
	I b-5	10YR3/3	暗褐色		シルト ハード	
	II-1	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト 粗 ソフト	
	II-2	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ややソフト	
	II-3	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト ややソフト	
	II-4	10YR4/3	にぶい黄 褐色		シルト ややハード	
	II-5	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	II-6	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややソフト	
	III-2	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	炭粒微量
	III-3	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	IV-1					
	IV-2	7.5YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-3	7.5YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	IV-4	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	IV-5	10YR4/2	灰黄褐色	礫粒中量	粘質土 ややハード	
	IV-6	10YR4/3	にぶい黄 褐色		粘質土	
	IV-7	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	炭粒微量
	IV-8	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	V a-1	2.5Y4/3	オリーブ 褐色		粘質土 ややハード	
	V a-2	2.5Y4/4	オリーブ 褐色		粘質土 ややハード	
	V a-3	2.5Y4/4	オリーブ 褐色		粘質土 ややハード	
	VI-1	7.5YR4/6	褐色	礫	ハード	
Pit32	1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	

表8 土壌1土層観察表 A~A' (第1調査区)

	I b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	I b-2	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	II-1	10YR2/1	黒色		シルト ややソフト	
(盛土)	III-1	2.5Y5/4	黄褐色		粘土 ソフト	
	III-2	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	III-4	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-1	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	IV-2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
土壌1 (箱外)	a	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	b	10YR3/2	黒褐色	玉砂利 礫粒少量	シルト ややソフト	
	c	10YR3/2	黒褐色	玉砂利 礫粒少量	シルト ソフト	
	d	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	e	10YR2/3	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	

表9 土壌1土層観察表 B~B' (第1調査区)

土壌1 (箱内)	1	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	炭粒少量
	2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	3	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
(箱外)	a	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	

表10 土壌3土層観察表 A~A' (第1調査区)

	IV-1	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	IV-2	10YR2/2	黒褐色		シルト や やハード	
土壌3 (盛土)	1	10YR3/2	黒褐色	2~3cm大黄褐色礫中量	シルト やハード	や
(箱内 崩落土)	2	10YR3/3	暗褐色	2~3cm大黄褐色礫少量	シルト やハード	や
	3	10YR3/3	暗褐色	2~3cm大黄褐色礫少量	シルト ややソフト	
	4	10YR3/3	暗褐色	2~3cm大黄褐色礫中量	シルト ややソフト	

(箱内)	5	10YR3/3	暗褐色	黄褐色礫粒少量	シルト ソフト	
	6	10YR3/3	暗褐色	黄褐色礫粒少量	シルト ソフト	
(箱外)	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	黄褐色礫粒少量	シルト ややソフト	人骨片 人骨(歯)
	8	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
(箱外)	あ	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	い	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	a	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	b	10YR2/3	黒褐色	黄褐色礫粒少量	シルト ソフト	
(箱外)	c	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	d	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	

表11 土壌3土層観察表 B~B' (第1調査区)

溝1	A	2.5Y4/3	オリーブ褐色		粘質土 ややハード	
	B	2.5Y4/3	オリーブ褐色		粘質土 ややソフト	
	C	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色		粘質土 ややソフト	
土壌3 (盛土)	1	2.5Y6/3	にぶい黄色		粘土 ややハード	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	にぶい黄色粘土粒中量	シルト ややソフト	
(箱内 崩落土)	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	にぶい黄色粘土粒中量	シルト ややハード	や
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	にぶい黄色粘土粒中量	シルト ややソフト	
(箱外)	5	10YR3/3	暗褐色	にぶい黄色粘土粒少量	シルト ややハード	
	6	2.5Y4/3	オリーブ褐色		粘質土 ややハード	
	7	10YR3/3	暗褐色	にぶい黄色粘土粒少量	シルト ややソフト	
	a	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ソフト	

表12 土壌4土層観察表 (第1調査区)

土壌4 (箱内)	1	10YR3/2	黒褐色	礫粒少量	シルト ややハード	や
	2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
(箱外)	a	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	b	2.5Y4/3	オリーブ褐色		粘質土 ややソフト	

表13 土壌5土層観察表 A~A' (第1調査区)

I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	草根多量
	1 b-1	10YR3/3・2/3	暗褐・黒褐色	シルト ややソフト	
III-2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
IV-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	や
	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	や
	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ハード	

溝1	A	10YR2/2	黒褐色		シルト ややハード	
	B	10YR2/3	黒褐色	3cm大ロームブロック×1	シルト ややハード	
	C	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
土壌5 (盛土)	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	2~3cm大炭ブロック少量
(箱内 崩落土)	3	10YR2/1	黒色		シルト ややソフト	
	4	2.5Y5/4	黄褐色		シルト ややハード	
	5	10YR3/4	暗褐色		シルト ややハード	
	6	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	シルト ややハード	
(箱外)	7	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	シルト ややハード	炭少量
	あ	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	炭少量
(箱外)	い	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	2~3cm大炭ブロック×1
	う	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	

表14 土壌5土層観察表 B~B' (第1調査区)

土壌5 (箱内)	1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト ソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色		シルト ソフト	

表15 土壌6土層観察表 (第1調査区)

土壌6	1	10YR3/3	暗褐色	1cm大玉砂利微量	シルト ややソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色	2~3cm大ロームブロック少量	シルト ややソフト	
(箱外)	3	10YR3/2	黒褐色	1cm大玉砂利微量	シルト ややソフト	
	4	10YR3/2	黒褐色	1cm大玉砂利微量	シルト ややハード	
(箱外)	5	10YR2/2	黒褐色	1cm大玉砂利微量	シルト ややハード	
	6	10YR2/2	黒褐色	1cm大玉砂利微量	シルト ややソフト	

表16 土壌16土層観察表 (第1調査区)

土壌16	1	10YR5/3	にぶい黄褐色		砂質土 ややハード	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色		砂質土 ややハード	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	5cm大礫中量	砂質土 ややハード	
	4	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	

〔形態・規模〕 平面形は、長軸 125 cm、短軸 105 cmの不整楕円形を呈する。上面は、礎石建物跡構築に伴う平坦地造成のため、削平されていると思われる。

〔堆積土〕 不明

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 なし

土壌 19 (5 図)

〔位置〕 調査区南東の 2J25 グリッドに位置する。

〔性格〕 不明

〔形態・規模〕 平面形は、長軸 147 cm、短軸 116 cm、深さ 9 cmを測る。上面は、礎石建物跡構築に伴う平坦地造成のため、削平が予想される。

〔堆積土〕 黄褐色土等の礫が多く混じる。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 なし

溝 1 (5 図、PL12-5・6)

〔位置〕 調査区東の 2J19～25 グリッドに位置する。

〔性格〕 不明

〔形態・規模〕 南北方向に延び、幅約 50 cm、深さ 38～48 cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色土が多くみられる。

〔新旧関係〕 土壌 3・5 より新しい。

〔出土遺物〕 肥前系陶器甕 1 点、鉄製品釘 5 点、縄文土器 4 点 (IV群 a・V群・群不明) が出土している。釘は木質が付着しているため、溝 1 が土葬墓である土壌 3・5 を壊した際に混入したと思われる。

溝 4 (5 図、PL12-1～4)

〔位置〕 調査区西側の 2J22～3J3 グリッドに位置する。

〔性格〕 第一平坦面～荒神堂跡で検出される近世末頃の旧道跡とされる溝と時期・規模が同様のため、本遺構も旧道としての性格が想定された。

〔形態・規模〕 南北～北西方向へ延び、幅 32～60 cm、深さ 9～120 cmを測る。

〔堆積土〕 溝底面に自然堆積の礫層下とした黒色土層 (表 6-7・8) が堆積し、その上位に礫層とした人為的に埋め戻された礫・黄褐色土を多く含んだ堆積がみられる。

〔新旧関係〕 溝底面に炭・礫範囲を伴うため、それよりも古いもしくは同時期と考えられる。礎石 1・Ko-d 火山灰より新しい。

〔出土遺物〕 炭・礫範囲－肥前系陶磁器 (V期) 17 点、瀬戸・美濃染付 3 点、不明陶器 7 点、銅製品釘 9 点が出土している。

礫層－染付碗 (漳州窯系) 1 点、瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗 (連房窯)、鉄製品釘 2 点、火箸? 1 点、銅製品鏝 1 点、瓦 1 点、縄文土器 (V群) 1 点が出土している。

礫層下－唐津碗 1 点、備前すり鉢 1 点、不明磁器蓋 1 点、銅製品鏝 1 点、銭 1 点 (寛永通寶 3 期) が出土している。

盛土 (5 図、PL1-2、13-1・3)

〔位置〕 調査区北西側の 2J17・22 グリッドに位置する。

〔性格〕 平坦地造成のため調査区南側の斜面を削平し、その際に生じた土砂を盛土したと思われる。

〔形態・規模〕 調査区北西方向に延びる斜面を埋め立てている。平面規模は調査区外へ延びるため不明であるが、調査区内の最深部で約 100 cmを測る。

〔堆積土〕 礫を多く含み、人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕 Ko-d 火山灰・溝 4 より古い。

〔出土遺物〕 瀬戸・美濃丸皿 (大 3・4) 1 点、漳州窯系染付碗 3 点、唐津碗 (I期) 6・皿 (I期) 9 点・瓶 1 点・不明 1 点、鉄製品釘 4 点、銅製品輪銭 9 枚、縄文土器 4 点 (IV群 a・不明) が出土している。

礎石建物跡

(8 図、PL1-3、11-3～5・7、13-4～6)

〔位置〕 調査区南側斜面に平行して 2J24・25、3J3・4 グリッドに位置する。

〔性格〕 住居と思われる。

〔形態・規模〕 第 2 平坦面直下の南側斜面付近から東西方向に軸を持つ、柱間寸法約 5.9 尺を測る礎石列 (9.00 m) を確認した。礎石 4～6 では礎石がみられなかったが、礎石 1～3 と同様に礎石が伴っていたと思われる。

建物の規模は、攪乱等によって検出されなかった礎石もあるため不明であるが、東西方向に桁

行、南北方向に梁間をもつ建物が想定される。礎石7としたものは、梁間方向に延びる礎石跡と思われたが、明確にすることができなかった。また、礎石の周囲には深さ5～10cmの浅い掘方を持つことが確認された。

〔堆積土〕礎石列は、礎石上面に1640年に噴火した駒ヶ岳d (Ko-d) 火山灰層が確認されることや礎石掘方部分から勝山館跡でみられない漳州窯系染付碗が出土する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕礎石2－鉄製品和釘1点、礎石3－肥前系陶器壺1点、礎石5－染付碗（漳州窯系）1点、礎石6－唐津瓶7点が出土している。

No.	掘方規模 (cm)			備考
	長軸	短軸	深さ	
礎石1	65	52	不明	
礎石2	45	45	不明	
礎石3	75	不明	不明	
礎石4	65	不明	11	礎石抜き取り
礎石5	75	不明	12	礎石抜き取り
礎石6	75	75	20	礎石抜き取り

Pit1・31・32 (5図、PL1-2、14-5)

〔位置〕調査区南側の2J19・23グリッドに位置する。

〔性格〕掘立柱建物の柱穴であるが、柱列として確認できなかったため、どのような建物に使用されるか検討できなかった。

〔形態・規模〕Pit32は、セクション面のみの検出である。

No.	掘方規模 (cm)			備考
	長軸	短軸	深さ	
Pit1	49	38	32	土壌6より新しい。
Pit31	45	40	55	
Pit32	34	-	47	

〔出土遺物〕なし

畝 (5図、PL10-6)

〔位置〕調査区西側の2J18・23・24グリッドに位置し、5条確認された。

〔性格〕近現代以降の畑の畝と思われる。

〔形態・規模〕北北東方向に延び、長軸450～650cm、短軸20～30cm、深さ10～20cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色のシルト～砂質土がみられ、人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕黒色土範囲・盛土遺構・溝4・Pit31より新しく、攪乱より古い。

〔出土遺物〕ガラス片等が出土している。

黒色土範囲 (5・6図、PL1-1)

〔位置〕調査区中央から東側の2J18・23・24グリッドにかけて位置している。

〔性格〕縄文時代（後期初頭～晩期）の包含層である。

〔形態・規模〕北北東方向に深く堆積し、長軸450～650cm、短軸20～30cm、深さ10～20cmを測る。

〔堆積土〕谷状の地形に堆積したものと考えられる。黒褐色のシルト質を呈し、自然堆積を呈する。

〔新旧関係〕土壌1・3～6・Pit1より古い。

〔出土遺物〕縄文土器118点(IV群a64点・V12点・不明42点)、剥片石器9点が出土している。

第2調査区 (第12～13図、PL1-14～16)

〔立地〕3J4～3I2、3J9～3I7、3J10・15、3I6・11グリッドに位置する。4段の平坦地のうち、下から2段目の標高約20mに立地する。平坦面は台形状を呈し、地山石で南北7m、東西最大で約11mとなり、面積約60㎡を測る。

〔検出遺構〕掘立柱建物跡2棟(中・近世)、集石(近世末～近代)

〔出土遺物〕白磁端反皿E群1点、染付碗C群1点・漳州窯系1点、皿B1群1点、唐津皿(Ⅱ期)1点、肥前系磁器19点(Ⅱ・Ⅲ期1点、Ⅲ・Ⅳ期2点、Ⅴ期13点、近代3点)、肥前系陶器(近世)9点、産地不明磁器(近代)1点、産地不明陶器(近世)1点、瀬戸・美濃染付(近世末～近代)23点、瓦56点、鉄製品釘28点(和釘27点・洋釘1点)・鋸2点・不明6点、銅製品銭4点(皇宋通寶1点、元豊通寶1点、寛永通寶1期1点・2期1点)、木製品杭1点、自然遺物不明骨1点、縄文土器40点(Ⅳ群a16点・不明24点)・剥片石器3点が出土している。

土壌 7 (12 図、PL14-6)

〔位置〕 調査区中央の 3J10 グリッドに位置する。
〔性格〕 不明
〔形態・規模〕 平面形は、長軸 56 cm、短軸 56 cm の隅丸方形を呈し、深さ 8 cm を測る。
〔堆積土〕 暗褐色土が堆積する。
〔新旧関係〕 なし
〔出土遺物〕 鉄製品釘 (洋釘) 1 点が出土している。

土壌 8 (12 図、PL14-6)

〔位置〕 調査区北側斜面際の 3J5 グリッドに位置する。
〔性格〕 不明
〔形態・規模〕 平面形は、長軸 100 cm、短軸 42 cm の隅丸長方形を呈し、深さ 20 cm を測る。
〔堆積土〕 自然堆積と思われる黒褐色土がみられる。
〔新旧関係〕 なし
〔出土遺物〕 縄文土器 (群不明) 1 点が出土している。

土壌 9 (12 図、PL14-6)

〔位置〕 調査区中央やや西側の 3J10 グリッドに位置する。
〔性格〕 不明
〔形態・規模〕 平面形は、長軸 34 cm、短軸 27 cm の隅丸方形を呈し、深さ 14 cm を測る。
〔堆積土〕 自然堆積と思われる黒褐色土がみられる。
〔新旧関係〕 Pit9・16 より古い。
〔出土遺物〕 なし

土壌 10 (12 図、PL14-5・6)

〔位置〕 調査区西側の 3J9 グリッドの建物跡が検出された面より 50 cm 低い場所で確認された。
〔性格〕 土壌底面から銅銭が出土したため、土葬墓としての性格も考えられたが、明確に捉えることができなかった。
〔形態・規模〕 平面形は、長軸不明、短軸 108 cm の隅丸長方形を呈し、深さ 22 cm を測る。
〔堆積土〕 上位に盛土と思われる、中世の堆積土がみられ、土壌内は黒褐色土を呈する。
〔新旧関係〕 なし
〔出土遺物〕 銅製品銭 1 点 (元豊通寶)、その他

縄文土器 27 点 (IV 群 a・群不明)、剥片石器 3 点が出土している。

土壌 11 (12 図、PL14-5)

〔位置〕 3I1・6 グリッドに位置する。
〔性格〕 不明
〔形態・規模〕 平面形は、直径 48 cm の円形を呈し、深さ 5 cm を測る。
〔堆積土〕 暗褐色土を呈する。
〔新旧関係〕 なし
〔出土遺物〕 なし

土壌 12 (12 図、PL14-5・6)

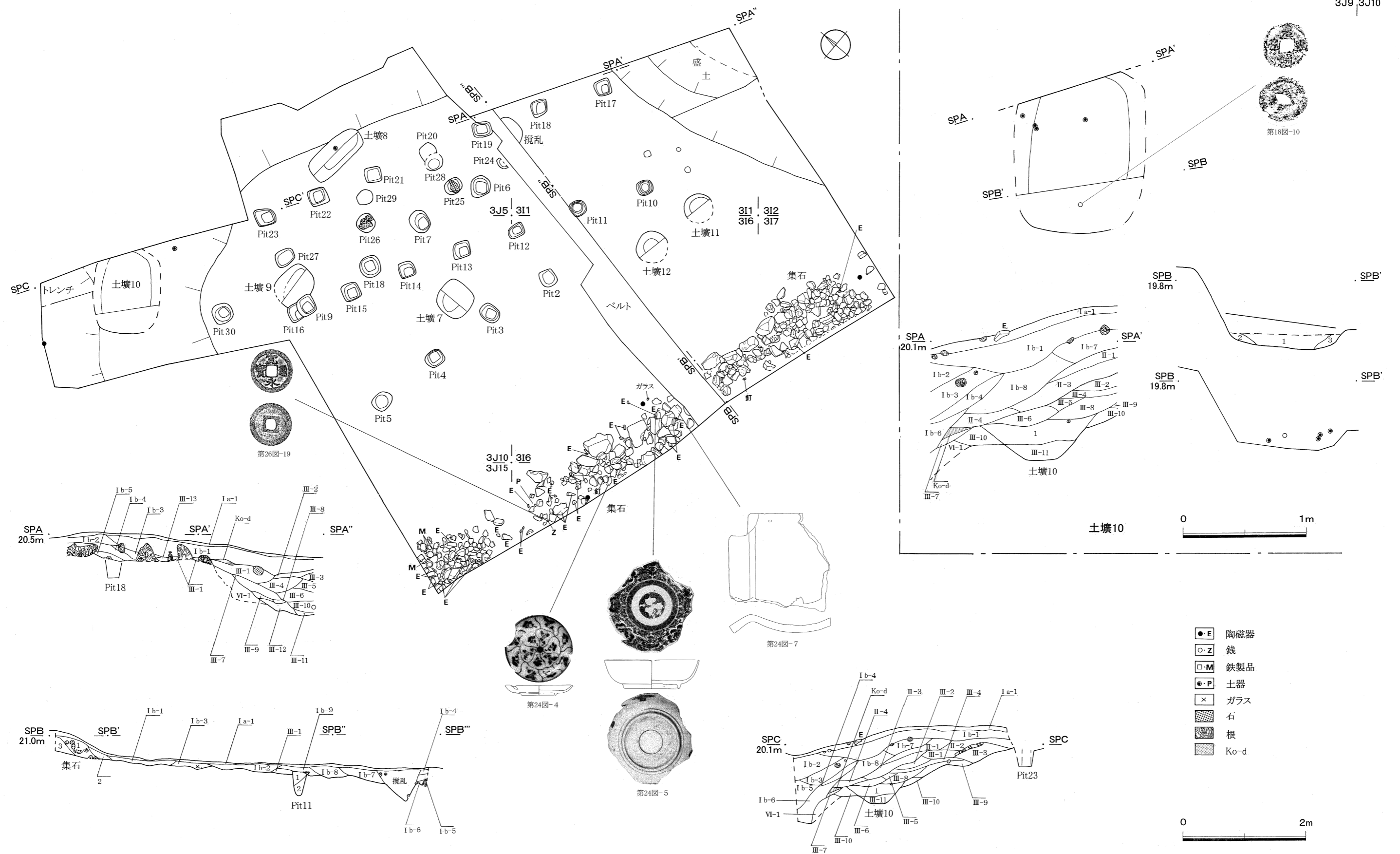
〔位置〕 3I6 グリッドに位置する。
〔性格〕 不明
〔形態・規模〕 平面形は、直径 50 cm の円形を呈し、深さ 11 cm を測る。
〔堆積土〕 暗褐色土を呈する。
〔新旧関係〕 なし
〔出土遺物〕 なし

掘立柱建物跡1 (12・13図、PL1-5、14-4・6、15-1)

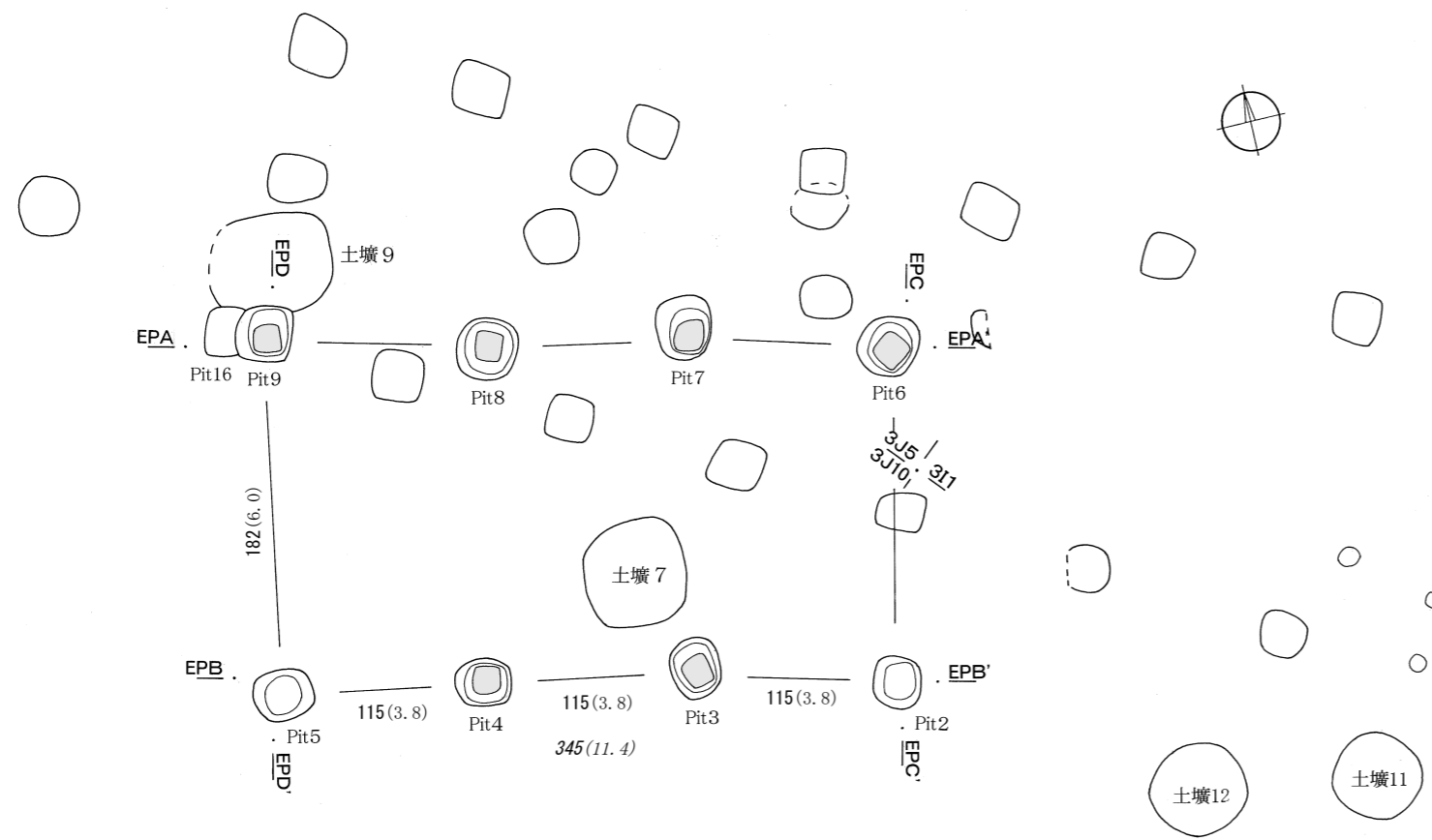
〔位置〕 調査区中央よりやや西側の 3J5・10、3I1・6 グリッドに位置する。
〔性格〕 建物の規模から住居としては小さいため、倉としての利用が考えられ、さらに東西方向に棟を持つ切妻屋根の構造が推測された。
〔形態・規模〕 Pit2～9 で構成され、規模は梁間 1 間・桁行 3 間 (182 × 345 cm、6.3 m²)、柱間寸法が桁行 115 cm (3.8 尺) を測る。柱痕跡は、12～15 cm 角である。

No.	掘方規模 (cm)			備考
	長軸	短軸	深さ	
Pit2	27	26	45	
Pit3	31	26	48	
Pit4	31	26	41	
Pit5	31	27	49	
Pit6	35	32	50	
Pit7	36	30	55	
Pit8	35	35	37	
Pit9	30	30	32	Pit16 より新しい

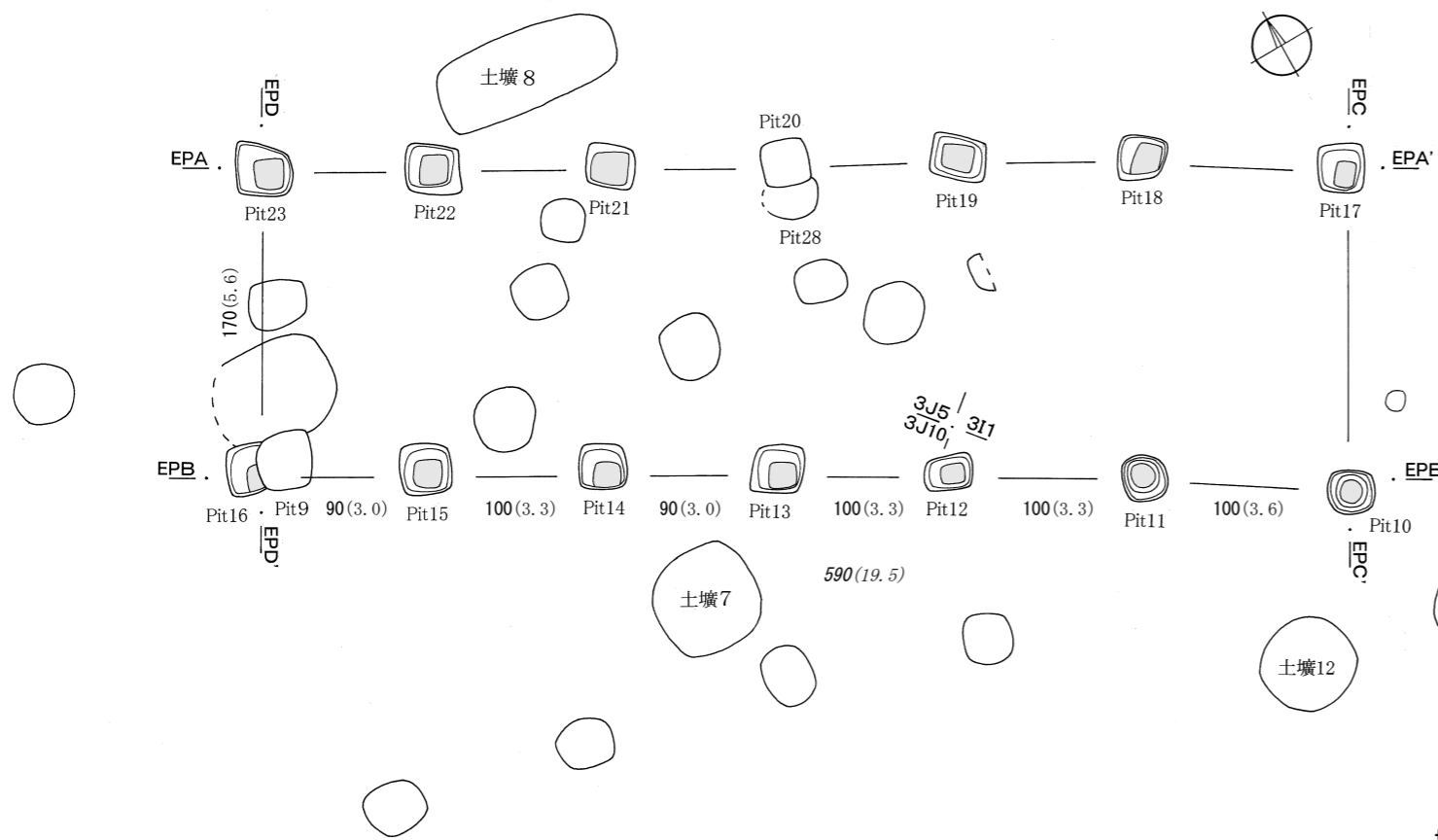
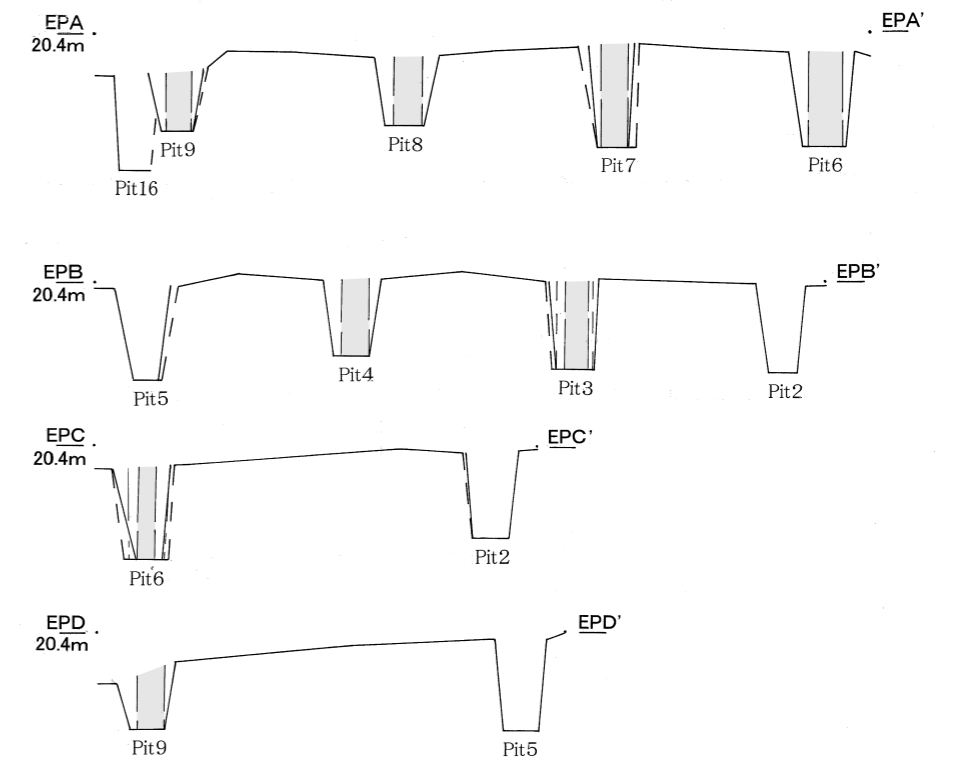
〔堆積土〕 1640 年に噴火した駒ヶ岳 d (Ko-d) 火山灰層を壊して構築されるため、それ以降の年



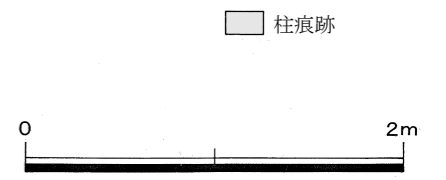
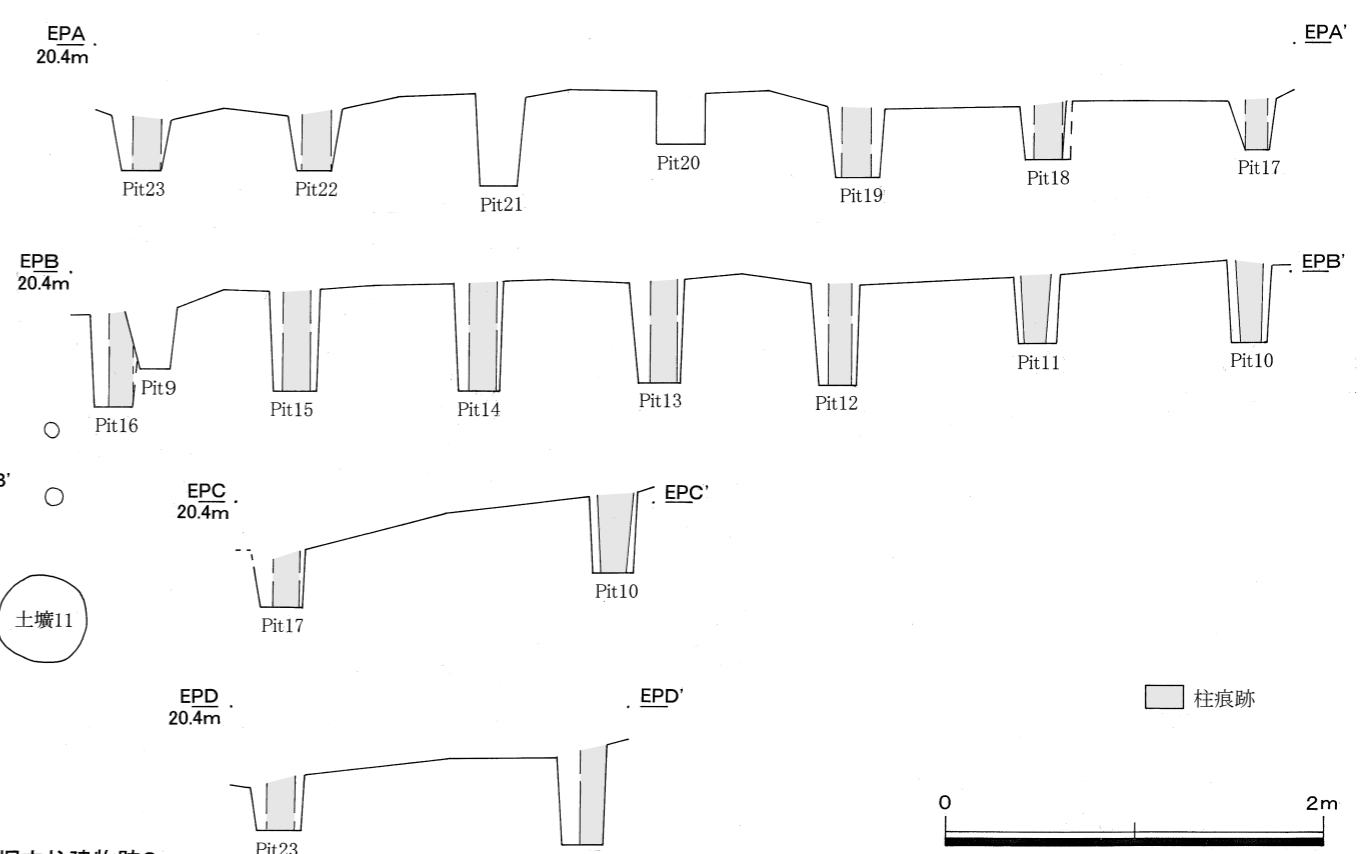
第12図 第2調査区 平面図他



掘立柱建物跡1



掘立柱建物跡2



第13図 第2調査区 掘立柱建物跡 平面図他

代が考えられた。

〔新旧関係〕 柱穴の切り合い (Pit9・16) から、掘立柱建物2より新しい。

〔出土遺物〕 なし

掘立柱建物跡2 (12・13図、PL1-5、14-4・6、15-1)

〔位置〕 調査区中央北側の3J5・10、3I1・6グリッドに位置する。

〔性格〕 過年度の物見跡と同様な規模・立地場所であることから、物見としての可能性が想定された。

〔形態・規模〕 Pit10～23で構成され、規模は梁間1間・桁行6間 (170 cm×590 cm、10.0 m²)、柱間寸法桁行91～109 cm (3.0尺～3.6尺)を測り、長軸が平坦面の北東端部とほぼ平行になる。柱痕跡は、約15 cm角のものが多くみられた。

構造については、棧敷状の高台が付いた見張り台なのか、切妻の屋根がつく見張り小屋のようなものか検討できなかった。

No.	掘方規模 (cm)			備考
	長軸	短軸	深さ	
Pit10	25	25	43	
Pit11	25	25	36	
Pit12	26	19	54	
Pit13	28	27	54	
Pit14	26	25	57	
Pit15	28	28	54	
Pit16	26	-	51	土壇9より新しくPit9より古い
Pit17	26	26	33	
Pit18	25	23	30	
Pit19	30	25	36	
Pit20	25	25	25	Pit28より新しい
Pit21	26	24	48	
Pit22	30	27	32	
Pit23	30	26	29	

〔堆積土〕 検出された層位が1640年に噴火した駒ヶ岳d (Ko-d) 火山灰の下位であった。中世城館に伴う遺構の可能性が高く、勝山館の時代に相当する建物跡と推測された。

〔新旧関係〕 掘立柱建物跡1より古い。

〔出土遺物〕 なし

Pit24～30 (12図、PL1-5、14-7)

〔位置〕 調査区中央よりやや西側の3J5・9グリッドに位置する。

〔性格〕 掘立柱建物の柱穴であるが、柱列として確認できなかったため、どのような建物に使用されるか検討できなかった。

〔形態・規模〕

No.	掘方規模 (cm)			備考
	長軸	短軸	深さ	
Pit24	22	-	31	
Pit25	28	23	30	
Pit26	30	30	不明	
Pit27	31	26	31	
Pit28	30	26	32	Pit20より新しい
Pit29	23	23	12	
Pit30	34	34	38	

〔出土遺物〕 Pit28—鉄製品釘1点、木製品杭片1点、Pit26—鉄製品釘2点が出土している。

集石 (12図、PL14-6・8)

〔位置〕 調査区南壁沿いの3I6・7、3J15・16グリッドに位置する。

〔性格〕 近世末～近代に当地点に廃棄されたと推測され、詳細についてはIV小括で述べているのでそちらを参照されたい。

〔形態・規模〕 平面形は、検出した範囲で約1 m、長さ約8 m、厚さ20～30 cmを測る。礫は、10～15 cmの角礫が多くみられた。

〔堆積土〕 暗褐色土を呈する。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 瀬戸・美濃染付 (近世末～近代) 4点、肥前染付 (V期) 2点、不明陶器 (近世) 2点、瓦84点、鉄製品釘2点、不明4点、銅製品銭1点 (寛永通寶I期) が出土している。

盛土 (12図、PL14-16、16-3)

〔位置〕 調査区北東側の3I1・2グリッドに位置する。

〔性格〕 平坦面を造成するために南側斜面を削平し、その際に生じた残土を廃棄したものと考えられる。堆積が1640年降下のKo-d火山灰より

上位でみられるため、平坦面を造成した年代もそれ以降であることが予想される。

〔形態・規模〕 斜度 20～25° で北東方向へ傾斜する。

〔堆積土〕 Ko-d 火山灰上位に明横褐色を呈するローム質の盛土が堆積する。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 なし

第3調査区 (14 図、PL2・15・16・17)

〔立地〕 3I12～14・16～19・21～23 グリッドに位置する。4 段の平坦地のうち、下から 3 段目の標高約 25 m に立地し平面形は台形を呈する。地山での平坦面の規模は、南北約 5 m、東西は調整区外へ延びるため不明である。

〔検出遺構〕 なし

〔出土遺物〕 瀬戸美濃染付皿 (近世末～近代) 2 点、瓦 15 点、肥前系磁器瓶 (V 期) 3 点、肥前系陶器 (近世) 3 点、産地不明染付 1 点、鉄製品釘 94 点 (和釘 26 点・洋釘 68 点)・鋤 2 点、鍋 1 点・不明 6 点、銅製品釘 1 点・不明 1 点、石製品不明 1 点、縄文土器 (群不明) 1 点、剥片石器 (石鏃) 1 点が出土している。

貼床範囲 (14 図、PL17-1・3)

〔位置〕 調査区中央やや南側の 3I17・18・22・23 グリッドに位置する。

〔性格〕 人為的に平坦地を造成していることが予想され、建物などの存在が考えられたため、貼床範囲とした。

〔形態・規模〕 平面形は、長軸約 400、短軸役 250 cm の不整形を呈し、深さ約 5 cm を測る。

〔堆積土〕 粘土質の灰黄褐色土を呈し、周辺と比較して締まっている。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 なし

第4調査区 (15・16 図、PL2・17～20)

〔立地〕 3I25、4I3～5・7～10・13～15 グリッドに位置する。4 段の平坦地のうち、下から 4 段目の標高約 30 m に立地し平面形は三角形を呈する。地山面での規模は南北 11 m、東西が最大 8 m で、面積約 44 m² を測る。

〔検出遺構〕 土壌 17

〔出土遺物〕 肥前系陶器 (近世) 2 点、鉄製品 26 点 (和釘 25 点・不明 1 点)、銅製品飾金具 1 点・銭 18 点 (開元通寶 1 点、熙寧元寶 3 点、皇宋通寶 1 点、至道元寶 1 点、洪武通寶 2 点、永樂通寶 3 点、宣徳通寶 1 点、判読不明 4 点、寛永通寶 1 期 1 点・2 期 1 点) 縄文土器 7 点 (Ⅲ群 1 点・群不明 6 点)、剥片石器 1 点、擦文土器? (Ⅶ群) 2 点が出土している。

土壌 17 (16 図、PL2-3・4、19-1～6)

〔位置〕 調査区北西側の 4I7・8 グリッドに位置する。

〔性格〕 銅銭や棺に使用した釘から土葬墓と思われる。

〔形態・規模〕 平面形は、長軸 121 cm、短軸 98 cm の円形を呈し、確認面からの深さ 28 cm を測る。深さ 36 cm を測る。

棺の規模は長軸 88 cm、短軸 45 cm を測る。推定頭位は、N-40°-E である。

〔堆積土〕 盛土と思われる堆積は、確認することができなかった。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 木棺に使用した釘 19 点、副葬品として銅製品銭 8 点 (開元通寶 1 点、皇宋通寶 1 点、熙寧元寶 1 点、元豊通寶 1 点、洪武通寶 1 点、判読不明 3 点)、その他縄文土器 1 点 (群不明) が出土している。

盛土 (15 図、PL18-5～8、20-1～7)

〔位置〕 調査区西側の、4I3・4・7・8・12・13・14 グリッドに位置する。

〔性格〕 調査区の東側を削平し、平坦面を造成した際に生じた残土を廃棄したものと考えられる。堆積が 1640 年降下の Ko-d 火山灰より上位でみられるため、平坦面を造成した年代もそれ以降であることが予想される。

〔形態・規模〕 斜度 25～30° で西方向へ傾斜する。

〔堆積土〕 Ko-d 火山灰上位に明横褐色を呈するローム質の盛土が堆積する。

〔新旧関係〕 なし

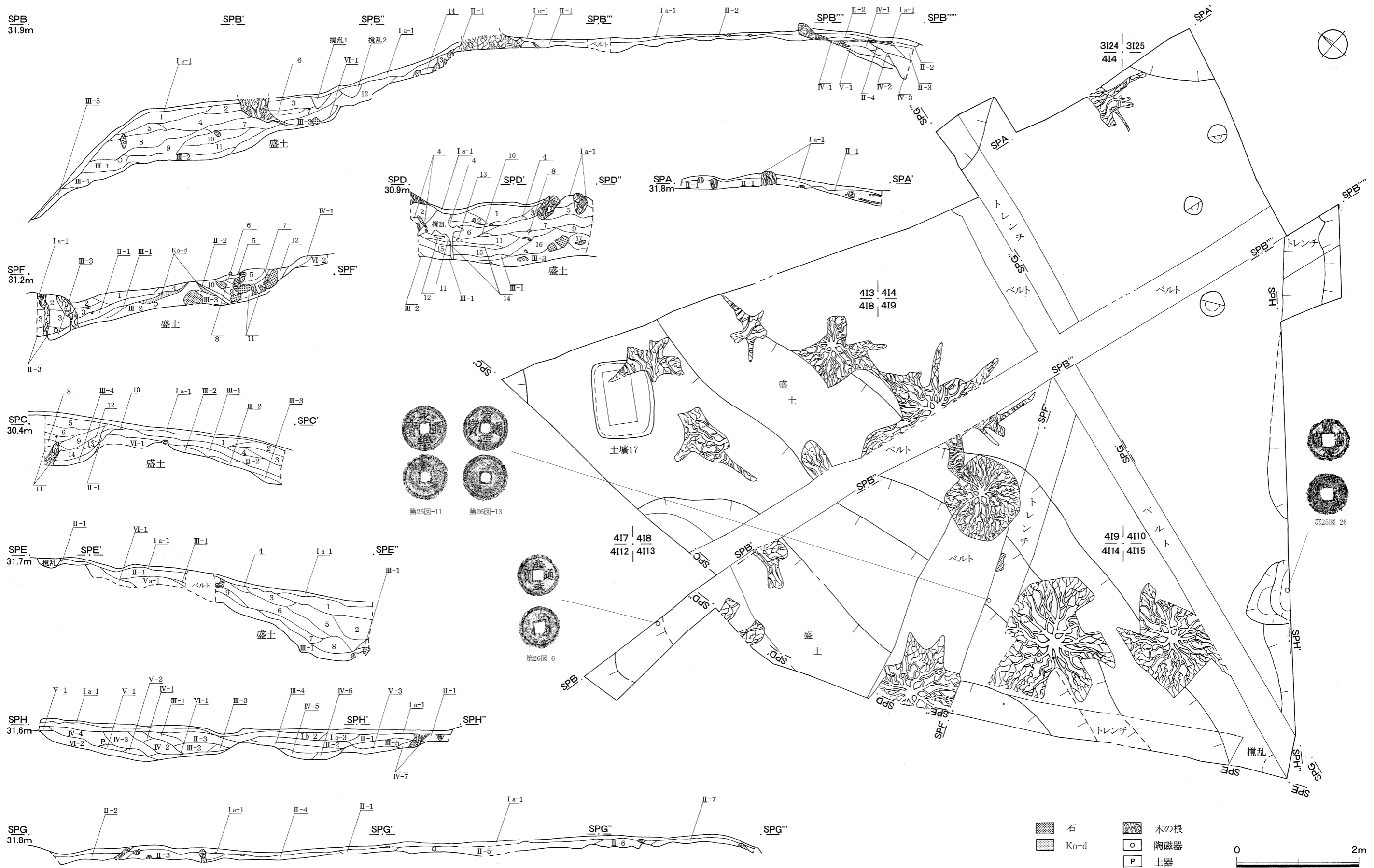
〔出土遺物〕 なし

(2) 旧道跡の調査 (第3・19～22 図)

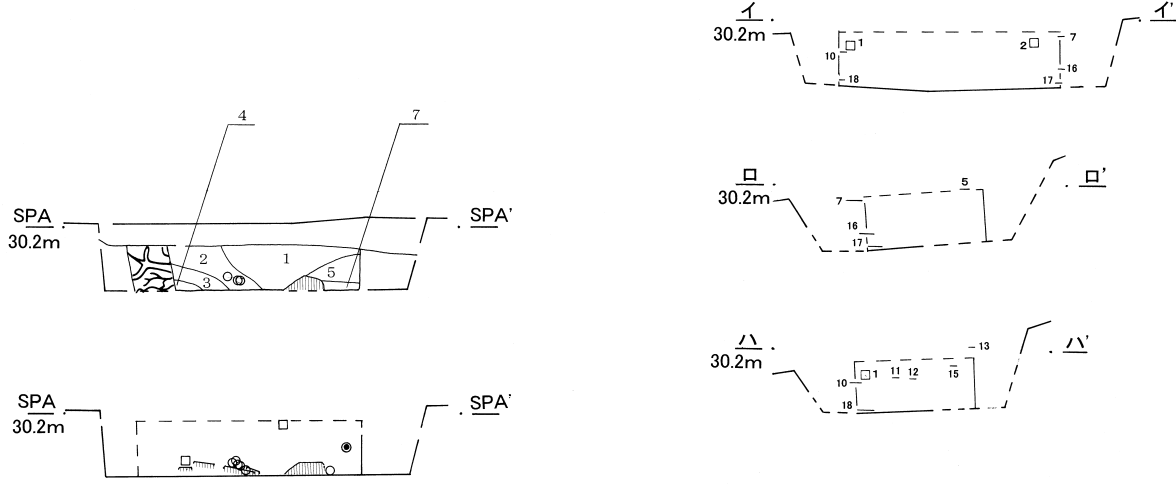
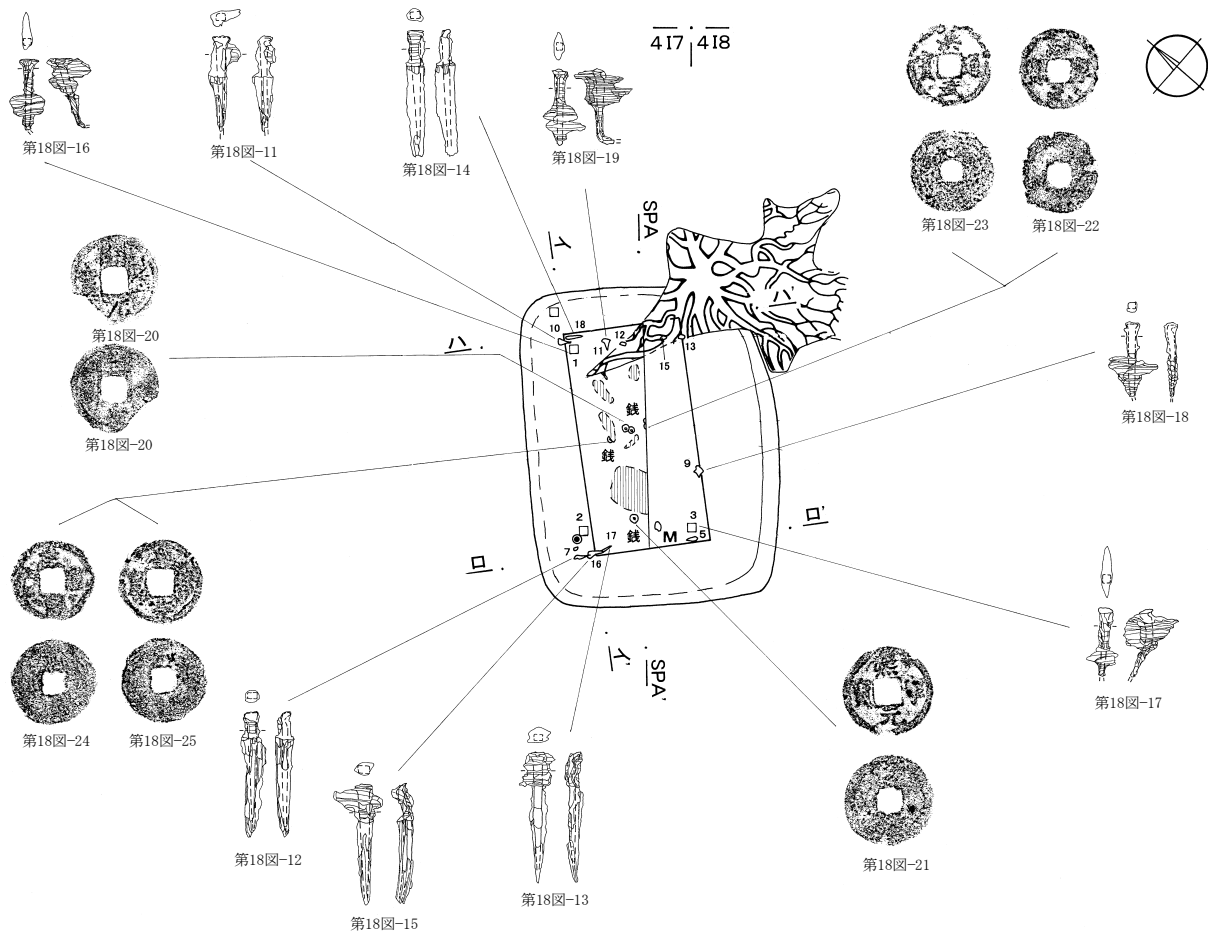
第5調査区 (19 図、PL3・21)



第14図 第3調査区 平面図他



第15図 第4調査区 平面図他

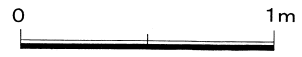


土壤17

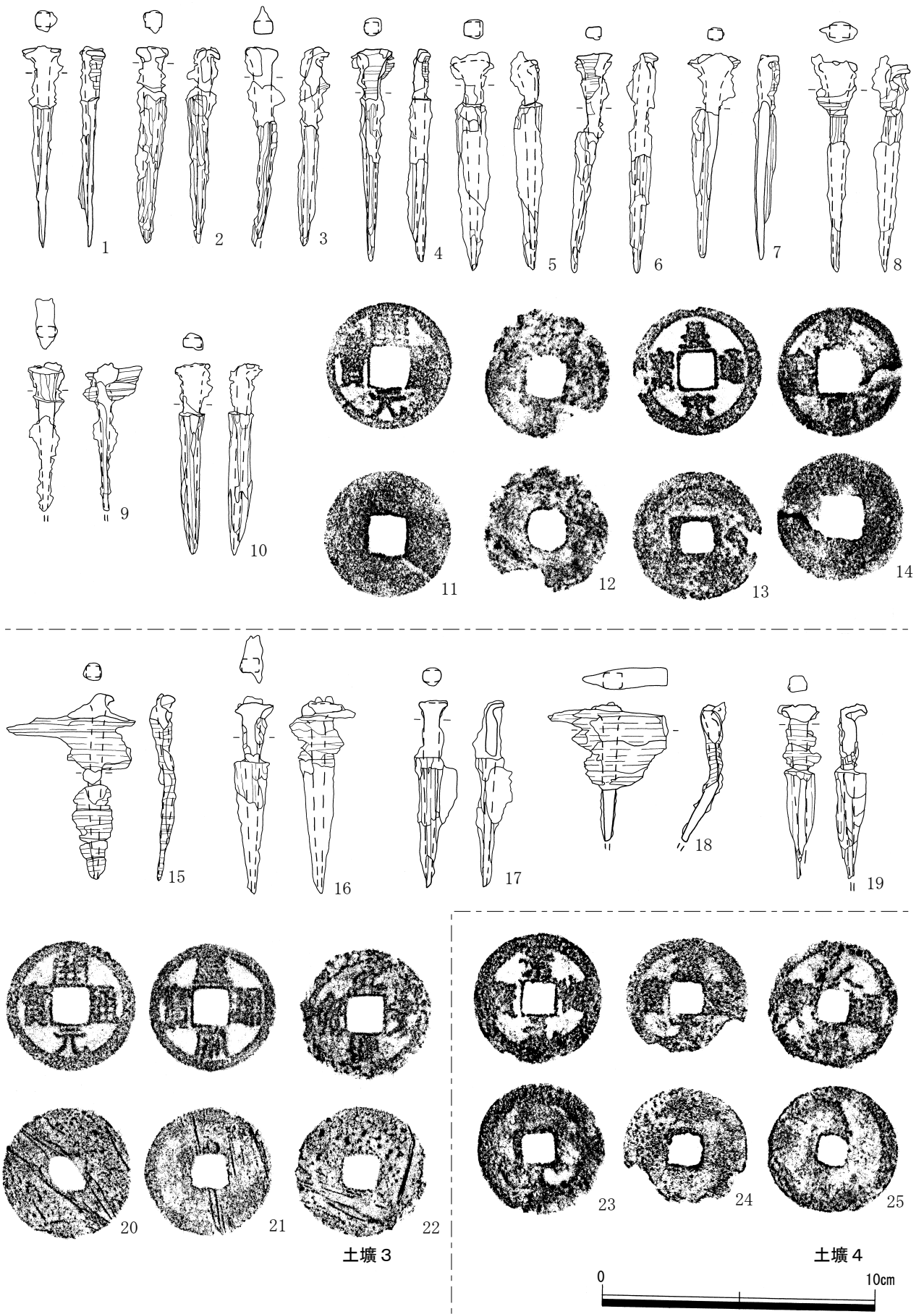
表17 土壤17土層観察表

土層17 (箱内)	1	10YR4/4	褐色	2cm大玉砂利少量	シルト 粗 ソフト	
	2	7.5YR2/3 <th>極暗褐色</th> <td>5mm大玉砂利少量</td> <td>シルト 粗 ややソフト</td> <td></td>	極暗褐色	5mm大玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	3	7.5YR3/3 <th>暗褐色</th> <td></td> <td>シルト 粗 極ソフト</td> <td>骨</td>	暗褐色		シルト 粗 極ソフト	骨
	4	7.5YR3/4 <th>暗褐色</th> <td></td> <td>シルト 粗 極ソフト</td> <td>骨</td>	暗褐色		シルト 粗 極ソフト	骨
	5	10YR3/4 <th>暗褐色</th> <td></td> <td>シルト 密 ソフト</td> <td></td>	暗褐色		シルト 密 ソフト	
	6	10YR4/4 <th>褐色</th> <td></td> <td>粘質土 やや密 ややソフト</td> <td></td>	褐色		粘質土 やや密 ややソフト	

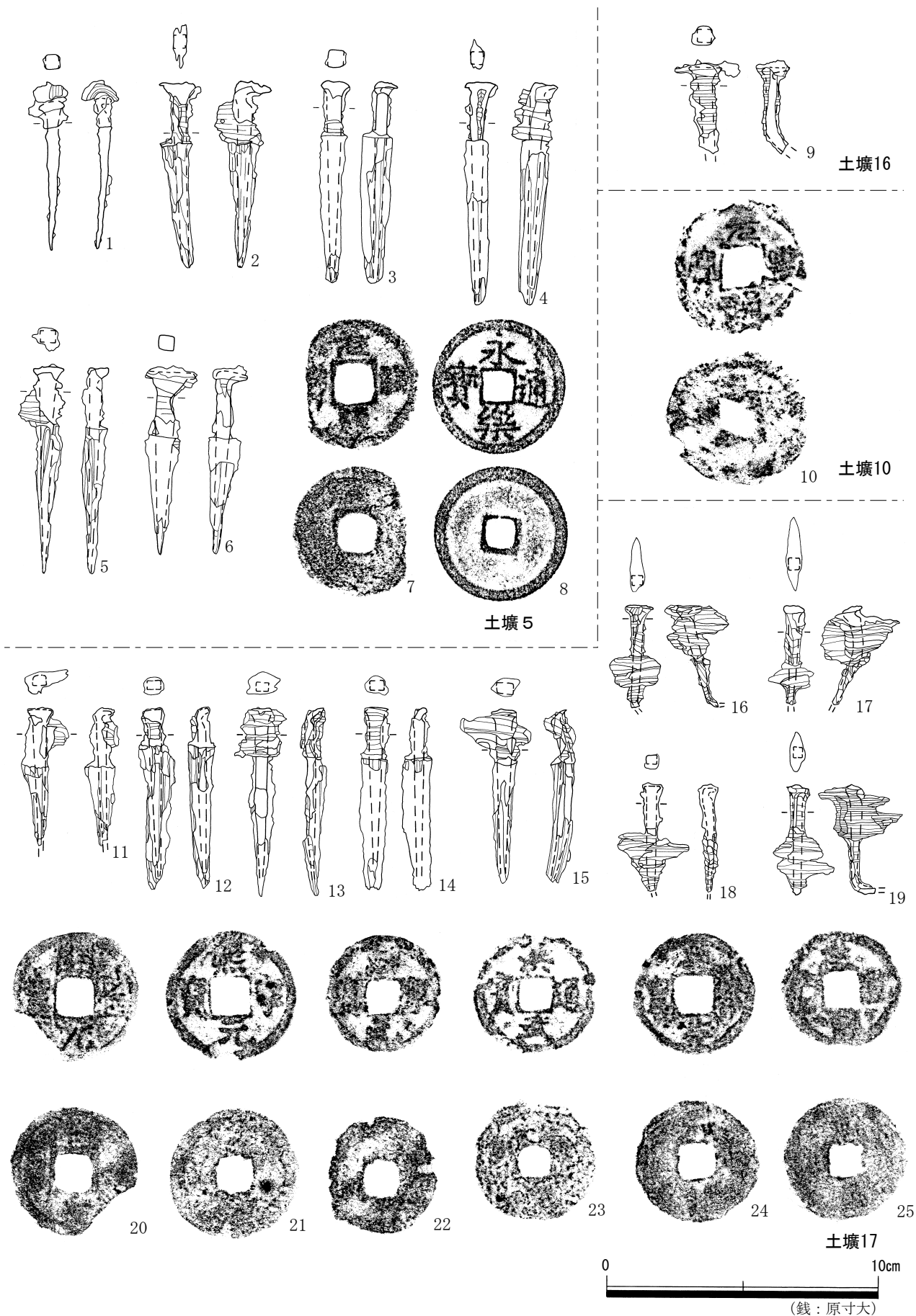
- 鉄製品
- 銭
- 土器
- 鉄製品
- 木の根
- 骨範囲



第16図 第4調査区 土壤17 平面図他



第17圖 土壙 1・3・4 (土葬墓) 出土遺物



第18図 土壤5・10・16・17(土葬墓)出土遺物

表18 勝山館跡 土壇(土葬墓)出土遺物観察表

図版No.	PLNo.	調査区	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
17図-1	PL34-3	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.35×幅0.74×厚さ0.66cm 重量4.1g	10K32J14土壇1M-12
17図-2	PL34-4	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.22×幅(0.67~1.04)×厚さ(0.82×1.01)cm 重量5.1g	10K32J14土壇1M-3
17図-3	PL34-5	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.28×幅0.78×厚さ0.69cm 重量5.9g	10K32J14・19土壇1M-4
17図-4	PL34-6	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.78×幅0.65×厚さ0.52cm 重量5.0g	10K32J14土壇1M-11
17図-5	PL34-7	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.84×幅0.79×厚さ0.6cm 重量8.0g	10K32J14・19土壇1M-8
17図-6	PL34-8	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ8.10×幅0.64×厚さ0.49cm 重量4.9g	10K32J14・19土壇1M-1
17図-7	PL34-9	1	2J19	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.56×幅0.57×厚さ0.47cm 重量5.9g	10K32J19土壇1M-7
17図-8	PL34-10	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.65×幅1.16×厚さ0.75cm 重量5.9g	10K32J14土壇1M-10
17図-9	PL34-11	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ5.48×幅0.92×厚さ0.54cm 重量5.3g	10K32J14・19土壇1M-5
17図-10	PL34-12	1	2J14	土壇1	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.96×幅0.82×厚さ(0.62×0.76)cm 重量5.2g	10K32J14土壇1M-9
17図-11	PL35-2	1	2J14	土壇1	覆土	銅製品	銭	開元通寶 銭径2.38(2.38)×内径2.02(2.02)cm 量目2.5g	10K32J14土壇1Z-2
17図-12	PL35-4	1	2J14	土壇1	覆土	銅製品	銭	開元通寶 量目2.1g	10K32J14土壇1Z-4
17図-13	PL35-7	1	2J14・19	土壇1	覆土	銅製品	銭	皇宋通寶(真書) 銭径2.4(2.44)×内径1.9(1.89)cm 量目2.8g	10K32J14・19土壇1Z-7
17図-14	PL35-9	1	2J14	土壇1	覆土	銅製品	銭	皇宋通寶(篆書) 銭径2.44(2.42)×内径2.0(2.05)cm 量目2.3g	10K32J14土壇1Z-3
17図-15	PL34-13	1	2J20	土壇3	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.83×幅0.65×厚さ0.62cm 重量5.7g	10K32J20土壇3M-5
17図-16	PL34-14	1	2J20	土壇3	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.15×幅0.76×厚さ0.44cm 重量6.9g	10K32J20土壇3M-3
17図-17	PL34-15	1	2J20	土壇3	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.87×幅0.72×厚さ0.66cm 重量9.8g	10K32J20土壇3M-9
17図-18	PL34-16	1	2J20	土壇3	覆土	鉄製品	和釘	長さ5.13×幅4.31×厚さ0.79cm 重量5.8g	10K32J20土壇3M-8
17図-19	PL34-17	1	2J20	土壇3	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.32×幅0.7×厚さ0.57cm 重量4.6g	10K32J20土壇3M-10
17図-20	PL35-1	1	2J20	土壇3	覆土	銅製品	銭	開元通寶 銭径2.47(2.44)×内径1.94(2.0)cm 量目3.1g	10K32J20土壇3Z-1②
17図-21	PL35-8	1	2J20	土壇3	覆土	銅製品	銭	皇宋通寶(篆書) 銭径2.42(2.4)×内径1.9(1.96)cm 量目3.0g	10K32J20土壇3Z-1①
17図-22	PL35-13	1	2J20	土壇3	覆土	銅製品	銭	元豊通寶(行書) 銭径2.45(2.46)×内径1.85(1.94)cm 量目3.0g	10K32J20土壇3Z-1③
17図-23	PL35-5	1	2J20	土壇4	覆土	銅製品	銭	景德元寶 銭径2.42(2.41)×内径1.79(1.85)cm 量目2.1g	10K32J20土壇4Z-1
17図-24	PL35-6	1	2J20	土壇4	覆土	銅製品	銭	景德元寶 銭径(2.34)×内径(1.8)cm 量目1.2g	10K32J20土壇4Z-5
17図-25	PL35-24	1	2J20	土壇4	覆土	銅製品	銭	永樂通寶 銭径2.4(2.4)×内径2.05(2.1)cm 量目2.0g	10K32J20土壇4Z-3
18図-1	PL34-18	1	2J20	土壇5	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.20×幅0.74×厚さ0.52cm 重量3.8g	10K32J20土壇5M-1
18図-2	PL34-19	1	2J20	土壇5	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.92×幅0.59×厚さ0.75cm 重量6.6g	10K32J20土壇5M-2
18図-3	PL34-20	1	2J19	土壇5	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.46×幅0.79×厚さ0.69cm 重量7.4g	10K32J19土壇5M-3
18図-4	PL34-21	1	2J20	土壇5	覆土	鉄製品	和釘	長さ8.19×幅0.66×厚さ1.5cm 重量7.4g	10K32J20土壇5M-4
18図-5	PL34-22	1	2J20	土壇5	覆土	鉄製品	和釘	長さ7.62×幅0.96×厚さ0.82cm 重量6.1g	10K32J20土壇5M-9
18図-6	PL34-23	1	2J19	土壇5	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.88×幅0.58×厚さ0.59cm 重量7.1g	10K32J19土壇5M-5
18図-7	PL35-16	1	2J19	土壇5	覆土	銅製品	銭	元祐通寶(篆書) 銭径2.5×内径2.12cm 量目2.1g	10K32J19土壇5Z-2
18図-8	PL35-22	1	2J19	土壇5	覆土	銅製品	銭	永樂通寶 銭径2.54(2.55)×内径2.16(2.12)cm 量目3.4g	10K32J19・20土壇5Z-3
18図-9	PL34-24	1	2J24	土壇16	覆土	鉄製品	和釘	長さ3.45×幅0.9×厚さ0.6cm 重量3.7g	10K32J24土壇16M-1②
18図-10	PL35-14	2	3J9	土壇10	覆土	銅製品	銭	元豊通寶(篆書) 銭径2.59(2.6)×内径2.06(2.06)cm 量目2.4g	10K33J9土壇10Z-1
18図-11	PL34-25	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ5.04×幅1.63×厚さ0.78cm 重量4.1g	10K34I7土壇17M-10
18図-12	PL34-26	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.64×幅0.7×厚さ0.66cm 重量4.9g	10K34I7土壇17M-7
18図-13	PL34-27	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.87×幅1.64×厚さ0.8cm 重量4.8g	10K34I7土壇17M-17
18図-14	PL34-28	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.62×幅0.74×厚さ0.64cm 重量5.3g	10K34I7土壇17M-18
18図-15	PL34-29	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.40×幅1.12×厚さ0.64cm 重量5.4g	10K34I7土壇17M-16
18図-16	PL34-30	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ4.12×幅0.55×厚さ2.04cm 重量2.9g	10K34I7土壇17M-1
18図-17	PL34-31	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ3.74×幅0.53×厚さ2.76cm 重量2.5g	10K34I7土壇17M-3
18図-18	PL34-32	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ3.94×幅0.52×厚さ0.5cm 重量2.0g	10K34I7土壇17M-9
18図-19	PL34-33	4	4I7	土壇17	覆土	鉄製品	和釘	長さ4.03×幅0.55×厚さ1.45cm 重量2.9g	10K34I7土壇17M-11
18図-20	PL35-3	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	開元通寶 裏月 銭径2.41(2.4)×内径2.08(2.05)cm 量目1.5g	10K34I7土壇17Z-1
18図-21	PL35-10	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	熙寧元寶(真書) 銭径(2.46)×内径2.0(2.02)cm 量目3.3g	10K34I7土壇17Z-4
18図-22	PL35-12	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	熙寧元寶(真書) 銭径2.2(2.13)×内径1.8(1.8)cm 量目2.6g	10K34I7土壇17Z-7
18図-23	PL35-20	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	洪武通寶 銭径(2.3)×内径1.83(1.86)cm 量目2.4g	10K34I7土壇17Z-6
18図-24	PL35-27	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	判読不明 銭径2.3(2.36)×内径1.9(1.9)cm 量目2.3g	10K34I7土壇17Z-3②
18図-25	PL35-28	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	判読不明 銭径2.29(2.32)×内径1.79(1.77)cm 量目2.3g	10K34I7土壇17Z-3①

表19 第2調査区 東西セクション北壁土層観察表 (A~A')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根多量
	I b-1	10YR3/2	黒褐色	1.5cm大玉砂利微量	シルト やや粗 ややソフト	草根多量
	I b-2	10YR3/3	暗褐色	2cm大玉砂利微量	シルト 粗 ソフト	
	I b-3	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒微量	シルト やや粗 ややハード	
	I b-4	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	I b-5	10YR3/3	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ややソフト	
	III-1	10YR4/4	褐色	15cm大礫×1	シルト 粗 ややハード	
	III-2	10YR4/4	褐色	3~10cm大基盤礫×3 基盤礫粒中量	シルト 粗 ややハード	
	III-3	10YR3/4	暗褐色	5mm大玉砂利・基盤礫微量	シルト 粗 ややハード	
	III-4	10YR2/3	黒褐色	5cm大礫×1 基盤礫粒微量	シルト やや粗 ソフト	
	III-5	7.5YR2/3	黒褐色	Ko-d微量	シルト やや密 ややソフト	
	III-6	7.5YR2/3	黒褐色	1cm大玉砂利微量	シルト 粗 ややソフト	
	III-7	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト 極粗 ややソフト	
	III-8	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト 極粗 ソフト	
	III-9	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ややソフト	
	III-10	10YR3/3	暗褐色	10cm大基盤礫×1	シルト 極粗 極ソフト	
	III-11	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒多量	シルト 極粗 ややハード	
	III-12	10YR4/4	褐色	基盤礫層		
	III-13	10YR3/3	暗褐色	基盤礫中量	シルト 粗 ややソフト	
	VI-1	10YR3/3	暗褐色	基盤礫層		

表20 第2調査区 南北セクション西壁土層観察表 (B~B')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	草根多量
	I b-1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	I b-2	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ソフト	
	I b-3	10YR3/4	暗褐色	1~3cm大玉砂利微量	シルト 密 ハード	ガラス片×1
	I b-4	10YR3/3	暗褐色	2cm大玉砂利微量	シルト 粗 ソフト	
	I b-5	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	I b-6	10YR3/2	黒褐色		シルト 極粗 極ソフト	
	I b-7	10YR4/3	にぶい黄褐色	0.5~3cm大玉砂利少量	シルト 粗 ハード	木の根少量
	I b-8	10YR3/4	暗褐色	1~2cm大玉砂利微量	シルト やや密 ハード	
	I b-9	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
Pit11	1	10YR4/4	褐色	基盤礫粒少量	シルト 粗 ややソフト	
	2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	基盤礫少量	シルト やや密 ハード	
集石1	1	10YR3/3	暗褐色	0.5~1.5cm大玉砂利少量	シルト やや密 ややハード	
	2	10YR3/4	暗褐色	5mm大玉砂利 基盤礫微量	シルト やや粗 ややソフト	
	3	10YR3/4	暗褐色	2cm大玉砂利微量	シルト やや粗 ややハード	

表21 第2調査区 東西セクション北壁土層観察表 (C~C')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	I b-1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	
	I b-2	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	シルト ややハード	
	I b-3	10YR3/3	暗褐色	礫ブロック多量	シルト ややハード	
	I b-4	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	I b-5	10YR3/3	暗褐色	礫ブロック多量	シルト ややハード	
	I b-6	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	I b-7	10YR3/4	暗褐色	礫粒多量	シルト ややハード	

	I b-8	10YR3/3	暗褐色	礫粒多量	シルト ややハード	
	II-1	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト ややソフト	
	II-3	10YR3/4	暗褐色	Ko-dブロック少量	シルト ややソフト	
	II-4	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	III-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	III-2	10YR3/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	
	III-3	10YR4/4	褐色		シルト ややハード	
	III-4	10YR4/4	褐色	礫粒中量	シルト ややハード	
	III-5	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	III-6	10YR2/1	黒色	黒色土層	シルト ややソフト	
	III-7	10YR2/1	黒色	黒色土層	シルト ややソフト	
	III-8	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-9	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	III-10	10YR2/3	黒褐色		シルト ややハード	
	III-11	10YR2/3	黒褐色	礫粒多量	シルト ややハード	
	VI-1	5Y5/2	灰オリーブ色	礫	ややハード	
土壌10	1	10YR2/3	黒褐色		シルト ややハード	

表22 土壌10土層観察表 A~A' (第2調査区)

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	I b-1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	
	I b-2	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	シルト ややハード	
	I b-3	10YR3/3	暗褐色	礫ブロック多量	シルト ややハード	
	I b-4	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	I b-6	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	I b-7	10YR3/4	暗褐色	礫粒多量	シルト ややハード	
	I b-8	10YR3/3	暗褐色	礫粒多量	シルト ややハード	
	II-1	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-3	10YR3/4	暗褐色	Ko-dブロック少量	シルト ややソフト	
	II-4	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	III-2	10YR3/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	
	III-3	10YR4/4	褐色		シルト ややハード	
	III-5	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	III-6	10YR2/1	黒色	黒色土層	シルト ややソフト	
	III-7	10YR2/1	黒色	黒色土層	シルト ややソフト	
	III-8	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-9	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	III-10	10YR2/3	黒褐色		シルト ややハード	
	III-11	10YR2/3	黒褐色	礫粒多量	シルト ややハード	
	VI-1	5Y5/2	灰オリーブ色	礫	ややハード	
土壌10	1	10YR2/3	黒褐色		シルト ややハード	

表23 土壌10土層観察表 B~B' (第2調査区)

土壌10	1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	2	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	3	10YR2/2	黒褐色		シルト ソフト	

表24 第3調査区 東西セクション南壁土層観察表 (A~A')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	I b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	I b-2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	I b-3	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	I b-4	10YR4/4	褐色		シルト ややソフト	
	I b-5	10YR4/4	褐色		シルト ややハード	
	II-1	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややハード	
	II-2	10YR5/3	にぶい黄褐色	礫ブロック少量	シルト ややソフト	
	II-3	10YR5/3	にぶい黄褐色	礫ブロック中量	シルト ややソフト	
	II-4	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	VI-1	10YR3/4	暗褐色	礫ブロック多量	シルト ハード	
貼床範囲	1	10YR4/2	灰黄褐色		砂質土 ややハード	
	2	10YR4/4	褐色		シルト ハード	

表25 第3調査区 南北セクション西壁土層観察表 (B~B')

	I a-1	10YR2/2	黒褐色		シルト ややハード	
	I b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	I b-2	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	I b-3	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	II-1	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-2	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	
	II-3	10YR5/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	
	II-4	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-5	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	II-6	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	II-7	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	II-8	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-1	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	
	III-2	2.5Y4/3	オリーブ褐色		シルト ややソフト	
	V a-1	5Y5/2	灰オリーブ色		シルト ややハード	
	V a-2	5Y5/2	灰オリーブ色		シルト ややソフト	
盛土	a	10YR6/6	明黄褐色	玉砂利少量	粘質土 ややソフト	
	b	10YR6/6	明黄褐色	玉砂利少量	粘質土 ややハード	
	c	10YR5/3	にぶい黄褐色		粘質土 ややソフト	
貼床範囲	1	10Y4/2	灰黄褐色		砂質土 ややハード	
	2	10Y4/4	褐色		シルト ハード	

表26 第3調査区 南北セクション西壁土層観察表 (C~C')

	I a-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	I b-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	II-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-2	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	II-3	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-4	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	II-5	10YR3/4	暗褐色		シルト ソフト	
	II-6	10YR3/4	暗褐色		シルト ややハード	
	II-7	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	II-8	10YR3/3	暗褐色		シルト ソフト	
	II-9	10YR3/4	暗褐色		シルト ソフト	
	II-10	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	III-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-3	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	III-4	10YR2/2	黒褐色	Ko-dブロック混入	シルト ややソフト	
	III-5	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	V a-1	10YR4/2	灰黄褐色		シルト ややソフト	

盛土	a	10YR5/6	黄褐色		粘土 ハード	
	b	10YR5/6	黄褐色		粘土 ややハード	
	c	10YR5/8	黄褐色		粘土 ややハード	
	d	10YR4/4	褐色		シルト ややハード	

表27 第3調査区 南北セクション西壁土層観察表 (D~D')

	II-1	10YR3/4	暗褐色		シルト ソフト	
	II-2	10YR3/4	暗褐色	Ko-dブロック少量	シルト ややハード	
	II-3	10YR3/4	暗褐色	Ko-dブロック少量	シルト ややソフト	
	II-4	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-5	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト	炭粒少量
	III-1	10YR2/3	黒褐色	Ko-dブロック微量	シルト ややハード	
	III-2	10YR4/4	褐色		シルト ややソフト	
	III-3	10YR7/4	にぶい黄褐色	玉砂利少量	粘質土 ややソフト	
	III-4	10YR7/4	にぶい黄褐色	玉砂利多量	粘質土 ややソフト	
	III-5	10YR7/4	にぶい黄褐色	2~3cm大礫少量	粘質土 ややハード	
盛土	1	10YR7/4	にぶい黄褐色	玉砂利少量	粘質土 ややソフト	
	2	10YR7/4	にぶい黄褐色		粘質土 ややソフト	
	3	10YR7/3	にぶい黄褐色		粘質土 ややソフト	
	4	10YR7/3	にぶい黄褐色	玉砂利少量	粘質土 ややソフト	
	5	10YR5/4	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	
	6	10YR5/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	

表28 第3調査区 東西セクション北壁土層観察表 (E~E')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	I b-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	II-1	10YR3/4	暗褐色		シルト	
	III-1	10YR2/3	黒褐色	Ko-dブロック微量	シルト ややハード	
	III-2	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
	III-3	10YR7/4	にぶい黄褐色	2~3cm大礫少量	粘質土 ややハード	
盛土	1	10YR7/4	にぶい黄褐色		粘質土 ややソフト	
	2	10YR7/3	にぶい黄褐色		粘質土 ややソフト	

表29 第3調査区 南北セクション西壁土層観察表 (F~F')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	I b-1	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	
	I b-2	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	II-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ソフト	
	II-2	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ソフト	
	II-3	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト	
	II-4	10YR3/2	黒褐色		シルト ソフト	
	III-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ソフト	
	III-2	10YR3/3	暗褐色		シルト ソフト	
	III-3	10YR6/4	にぶい黄褐色		粘質土 ローム質 ややハード	
	III-4	10YR6/3	にぶい黄褐色		粘質土 ローム質 ややハード	
	III-5	10YR5/3	にぶい黄褐色		粘質土 ローム質 ややハード	
	III-6	10YR6/4	にぶい黄褐色		粘質土 ローム質 ややハード	
	III-7	10YR6/6	明黄褐色		粘質土 ローム質 ややハード	
	III-8	2.5Y5/3	黄褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	III-9	2.5Y5/3	黄褐色		シルト ややソフト	
	III-10	2.5Y5/3	黄褐色	礫粒少量	シルト ややソフト	
	III-11	10YR4/6	褐色		シルト ややハード	
	III-12	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	
	III-13	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	VI-1	2.5Y7/4	浅黄色	礫	ハード	
盛土	1	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	2	10YR2/3	黒褐色		シルト ややハード	

表30 第4調査区 東西セクション北壁土層観察表 (A~A')

I-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
II-1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利多量	シルト やや密 ややソフト	

表31 第4調査区 東西セクション北壁土層観察表 (B~B''')

I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 極粗 極ソフト	草根多量
II-1	10YR3/4	暗褐色	1cm大玉砂利微量	シルト やや粗 ややソフト	
II-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややハード	
II-3	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ソフト	
II-4	10YR2/3	黒褐色	玉砂利微量	シルト やや粗 ソフト	
III-1	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
III-2	10YR3/4	暗褐色	5mm大玉砂利微量	シルト 粗 ハード	
III-3	7.5YR2/3	極暗褐色	15~20cm大礫×1	シルト やや粗 ややハード	
III-4	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
III-5	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト やや密 ややソフト	
IV-1	10YR3/3	暗褐色	3~5cm大基盤礫微量	シルト 粗 極ソフト	
IV-2	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト	
IV-3	10YR2/3	黒褐色	基盤礫 玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	
V-1	10YR4/4	褐色	5cm大基盤礫×5	シルト 極粗 ソフト	
VI-1	10YR5/4	にぶい黄褐色	ハードローム		
盛土	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	極小基盤礫粒少量 5mm大玉砂利微量	シルト やや粗 ややハード
	2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト 粗 ややハード
	3	7.5YR4/4	褐色	0.2~1cm大玉砂利少量	シルト やや粗 ハード
	4	10YR3/4	暗褐色	2~3cm大玉砂利微量	粘質土 粗 ややハード
	5	10YR3/4	暗褐色	2~3cm大玉砂利×3	シルト やや粗 ソフト
	6	10YR3/3	暗褐色	0.5~5cm大基盤礫少量	シルト 粗 ハード
	7	10YR3/4	暗褐色	0.5~1cm大玉砂利少量 10cm大基盤礫×1	粘質土 粗 ハード
	8	7.5YR4/4	褐色		粘質土 密 ややソフト
	9	10YR3/4	暗褐色		シルト 極粗 ソフト
	10	10YR4/6	褐色	2~3mm大基盤礫粒少量	シルト 粗 ややハード
	11	10YR3/4	暗褐色	基盤礫・5mm大玉砂利・~3cm大ソフトローム少量	シルト 粗 ややソフト
	12	7.5YR3/4	暗褐色	2~3cm大基盤礫×4	シルト 粗 ややハード
	13	10YR4/4	褐色	2cm大玉砂利微量	シルト やや粗 ややハード
	14	10YR4/4	褐色		粘質土 密 ややハード
攪乱1	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	草根多量
攪乱2	10YR2/3	黒褐色	玉砂利	シルト 粗 ややハード	草根少量

表32 第4調査区 南北セクション西壁土層観察表 (C~C')

I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややソフト	草根多量
II-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
II-2	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ソフト	
III-1	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 密 ソフト	
III-2	7.5YR3/3	暗褐色	玉砂利少量	シルト 密 ソフト	
III-3	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 極ソフト	
III-4	10YR2/3	黒褐色		シルト 密 ややハード	
VI-1	10YR4/4	褐色	3cm大玉砂利中量	粘質土 粗 ハード	
盛土	1	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト やや密 ややソフト

2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト やや粗 ややソフト	
3	10YR4/4	褐色	玉砂利微量	シルト やや密 ややハード	
4	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 極ソフト	
5	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 極ソフト	
6	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	粘質土 やや粗 ハード	
7	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	粘質土 粗 ハード	
8	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
9	10YR3/4	暗褐色	玉砂利 基盤礫粒少量	粘質土 やや粗 ややソフト	
10	10YR3/4	暗褐色		粘質土 粗 ややハード	
11	10YR4/4	褐色	基盤礫粒微量	粘質土 粗 ハード	
12	10YR4/6	褐色		粘質土 粗 ソフト	
13	10YR4/4	褐色	下部基盤礫少量	粘質土 粗 ソフト	
14	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	粘質土 粗 ハード	

表33 第4調査区 南北セクション西壁土層観察表 (D~D')

I a-1	7.5YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
III-1	10YR3/4	暗褐色	1~2cm大玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	
III-2	7.5YR2/3	極暗褐色	2~3mm大玉砂利微量	シルト やや密 ややソフト	
III-3	7.5YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ソフト	
盛土	1	10YR4/4	褐色	玉砂利中量	シルト 粗 ややハード
	2	10YR4/4	褐色	1~2cm大玉砂利少量	粘質土 粗 ソフト
	3	10YR3/4	暗褐色	1.5cm大玉砂利少量	粘質土 粗 ややハード
	4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	基盤礫粒・玉砂利少量	粘質土 粗 ソフト
	5	10YR3/4	暗褐色	2cm大玉砂利少量	粘質土 粗 ややソフト
	6	10YR4/4	褐色	0.5~2cm大玉砂利少量	粘質土 やや粗 ややハード
	7	10YR4/4	褐色	2cm大玉砂利微量	粘質土 やや密 ややソフト
	8	10YR3/4	暗褐色	5cm大基盤礫×2	粘質土 やや密 ややソフト
	9	10YR3/4	暗褐色	玉砂利微量	シルト やや密 ややハード
	10	10YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト
	11	10YR4/4	褐色	基盤礫粒・玉砂利微量	粘質土 粗 ソフト
	12	10YR2/2	黒褐色		シルト やや密 ややハード
	13	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト やや密 ややハード
	14	2.5Y4/4	オリーブ褐色	基盤礫少量 玉砂利微量	粘質土 粗 ややハード
	15	7.5YR3/4	暗褐色	5cm大基盤礫・玉砂利少量	粘質土 粗 ややハード
	16	10YR4/4	褐色	ソフトローム 基盤礫中量	
	17	10YR4/4	褐色	20cm大基盤礫×1 cm大玉砂利微量	粘質土 密 ハード

表34 第4調査区 南北セクション西壁土層観察表 (E~E')

I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 極粗 ソフト	草根多量
II-1	7.5YR2/3	極暗褐色	0.5~1.5cm大玉砂利少量	粗 ソフト	
III-1	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 密 ややハード	
V a-1	10YR7/4	にぶい黄褐色		シルト 極粗 ソフト	
VI-1	5Y4/4	暗オリーブ色	1cm大玉砂利少量	粘質土 粗 ややソフト	
盛土	1	10YR3/4	暗褐色	玉砂利・基盤礫粒少量	シルト 粗 ややソフト
	2	10YR3/3	暗褐色		シルト 極粗 ソフト
	3	10YR4/4	褐色	基盤礫・5cm大玉砂利微量	シルト 粗 ややハード

4	7.5YR3/4	暗褐色	1cm大玉砂利少量	シルト 粗 ややハード
5	10YR4/4	褐色	2~3cm大基盤礫少量	粘質土 粗 ややハード
6	10YR4/6	褐色	1cm大基盤礫粒少量	シルト 粗 ソフト
7	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト
8	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややハード
9	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ややソフト

表35 第4調査区 東西セクション北壁土層観察表 (F~F')

II-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト
II-2	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 粗 極ソフト
II-3	10YR4/3	にぶい黄褐色	基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト
III-1	10YR3/4	暗褐色	1.5cm大玉砂利少量	シルト 粗 極ソフト
III-2	10YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ソフト
III-3	10YR3/3	暗褐色	2cm大玉砂利微量	シルト 粗 ややソフト
VI-1	10YR6/6	明黄褐色	2~5cm大基盤礫少量	シルト 粗 ややハード
VI-2	10YR5/4	にぶい黄褐色	基盤礫層	
盛土 1	10YR5/4	にぶい黄褐色	玉砂利中量	シルト やや粗 ややソフト
2	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト
3	10YR4/4	褐色	玉砂利・5cm大基盤礫少量	シルト やや粗 ハード
4	10YR4/6	褐色	基盤礫粒微量	シルト 粗 極ソフト
5	10YR3/4	暗褐色	5cm大基盤礫微量	シルト やや密 ややソフト
6	10YR3/4	暗褐色	1cm大基盤礫粒微量	シルト 粗 ややソフト
7	7.5YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト
8	7.5YR2/3	極暗褐色	5mm大玉砂利少量 Ko-d微量	シルト やや粗 ややソフト
9	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	シルト 極粗 ソフト
10	10YR3/4	暗褐色	玉砂利・基盤礫微量	シルト やや粗 ややソフト
11	10YR4/6	褐色	15cm大基盤礫×2	シルト 粗 極ソフト
12	7.5YR4/6	褐色	15cm大基盤礫×1	シルト 粗 ややソフト

表36 第4調査区 南北セクション西壁土層観察表 (G~G')

I-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
II-1	10YR4/6	褐色	玉砂利少量	シルト やや密 ややソフト	

〔立地〕 標高約 27 m の第 4 調査区から自然研究路を挟んだ東側の台地の 4J10・15、4I11・16 グリッドに位置する。

〔検出遺構〕 土壌 2、道路跡

〔出土遺物〕 鉄製品釘 2 点が出土している。

土壌 2 (19 図、PL21-4)

〔位置〕 調査区南西側の 4J15、4I16 グリッドに位置する。

〔性格〕 土壌上位に盛土と思われる堆積や木棺に使用したと思われる和釘が出土したことから土葬墓としての性格が考えられた。

〔形態・規模〕 平面形は、完掘していないため不

II-2	10YR3/3	暗褐色	5mm大玉砂利少量	シルト ややソフト
II-3	10YR3/4	暗褐色	1mm大砂利中量	シルト 粗 極ソフト
II-4	2.5Y4/4・ 10YR4/4	オリーブ 褐・褐色	1~15cm大基盤礫中量 玉砂利微量	シルト やや粗 ソフト
II-5	10YR3/4	暗褐色	2~5cm大基盤礫微量 玉砂利 基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややハード
II-6	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒 玉砂利少量 10cm大基盤礫×2	シルト 粗 ややソフト
II-7	10YR4/4	褐色	基盤礫粒 玉砂利少量	シルト 粗 ハード

表37 第4調査区 東西セクション南壁土層観察表 (H~H')

I a-1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード
I b-1	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト
I b-2	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト
I b-3	10YR3/4	暗褐色		シルト ややハード
II-1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト
II-2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト
II-3	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト
III-1	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややハード
III-2	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト
III-3	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード
III-4	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード
III-5	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード
IV-1	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト
IV-2	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト
IV-3	2.5Y5/3	黄褐色		砂質土 ハード
IV-4	2.5Y5/4	黄褐色		砂質土 ハード
IV-5	10YR4/4	褐色		シルト ややソフト
IV-6	10YR4/4	褐色		シルト ややハード
IV-7	10YR4/4	褐色		シルト ややハード
V-1	2.5Y6/3	黄褐色	Ko-dブロック状混入	砂質土 ややハード
V-2	2.5Y6/4	黄褐色		砂質土 ややハード
V-3	10YR5/4	にぶい黄褐色		砂質土 ややハード
VI-1	10YR5/6	黄褐色		砂質土 ややハード
VI-2	2.5Y5/4	黄褐色		砂質土 ややハード

明である。

〔堆積土〕 土壌上位に盛土状の堆積土が確認された。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 木質の付着した鉄製品釘 2 点が出土している。

道路跡 (19 図、PL3-1、21-5)

〔位置〕 現在の散策路であるコンクリート製の階段下で確認され、調査区東側の 4I11・16 グリッドに位置する。

〔性格〕 中世の道路跡と考えられた。

〔形態・規模〕 平面形は、幅約 123 cm、深さ 12

cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色土を呈し、玉石が多く混入し、固く締まっている。

〔新旧関係〕現在の階段より古い。

〔出土遺物〕なし

第6調査区 (20 図、PL3・22・24)

〔立地〕標高 30～32 m の 4I23・24、5I4 グリッドの緩斜面に位置する。

〔検出遺構〕溝 2 〔出土遺物〕なし

溝 2 (20 図、PL3-3、22-2～4、25-2・3)

〔位置〕4I23・24 グリッドに位置している。

〔形態・規模〕北西から北東方向へ延び、幅 45～90 cm、深さ 5～15 cm を測る。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

第7調査区 (20 図、PL22・23・25)

〔立地〕標高約 38 m の緩斜面の 5I10・11・15・16 グリッドに位置する。

〔検出遺構〕溝 2

〔出土遺物〕肥前系陶器 (近世) 6 点、鉄製品刀子 1 点が出土している。

溝 2 (20 図、PL22-5・6、23-1)

〔位置〕調査区中央の 5I10・11・15・16 グリッドに位置している。

〔形態・規模〕東～北東方向へ延び、幅 45～90 cm、深さ 5～15 cm を測る。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕肥前系陶器 (近世) 6 点、鉄製品刀子 1 点が出土している。

第8調査区 (21 図、PL3・23・25)

〔立地〕標高約 40～41 m の緩斜面の 5I8・9・13・14・18・19 グリッドに位置する。

〔検出遺構〕溝 2・3 〔出土遺物〕なし

溝 2 (21 図、PL3-4、23-4・5、25-5)

〔位置〕調査区北西～北東の 5I8・9・13・14 グリッドに位置している。

〔形態・規模〕東～北東方向へ延び、幅 45～90 cm、深さ 5～15 cm を測る。

〔新旧関係〕溝 2 の掘上げ土 (表 41-a・b) が溝

3 の上位に堆積するため、溝 3 より新しい。

〔出土遺物〕なし

溝 3 (21 図、PL23-8、25-5)

〔位置〕調査区南西側の 5I13・14～18・19 グリッドに位置している。

〔形態・規模〕西～東へ延び、幅 114～230 cm、深さ 30 cm を測る。

〔堆積土〕玉砂利が多く混入する黒褐色土を呈する。

〔新旧関係〕溝 2 の掘上げ土 (表 41-a・b) が溝 3 の上位に堆積するため、溝 2 より古い。

〔出土遺物〕なし

第9調査区 (22 図、PL3・24・25)

〔位置〕標高 46 m の平坦面から第 8 調査区へ至る緩斜面の 5I22、6I1・2・7 グリッドに位置する。

〔検出遺構〕溝 2

〔出土遺物〕鉄製品釘 (洋釘) 3 点、自然遺物不明獣骨 1 点が出土している。

溝 2 (22 図、PL3-5・24-2・3・5、25-6)

〔位置〕調査区東側の 5I22、6I2・3・7 グリッドに位置している。

〔形態・規模〕南西から北東方向へ延び、幅約 45 cm、深さ 15～20 cm を測る。

〔堆積土〕暗褐色土を呈する。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕鉄製品釘 (洋釘) 3 点、自然遺物不明獣骨 1 点が出土している。

盛土 (22 図、PL24-4、25-9)

〔位置〕調査区西側の 6I1・2 グリッドに位置している。

〔形態・規模〕寺の沢へ至る斜面と考えられ、深さ 130 cm を測る。

〔堆積土〕黒褐色～暗褐色土を呈する。人為的な堆積と考えられ、Ko-d を境にして上位をⅡ層、下位をⅢ層と分層した (表 42)。

そのうちのⅢ層は、溝 2 が検出された平坦面を造成した際に生じた排土、Ⅱ層は溝 2 を構築した際に生じた排土と考えられ、2 時期の堆積が想定された。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

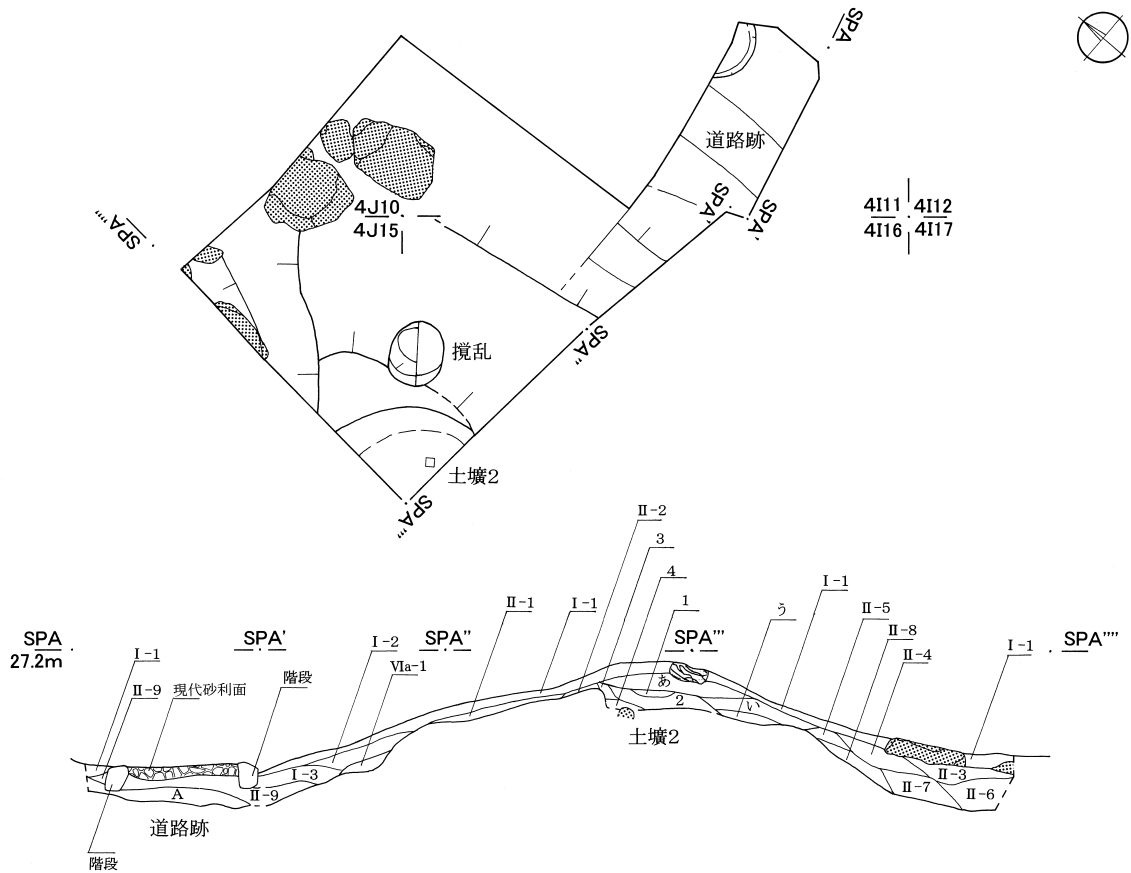


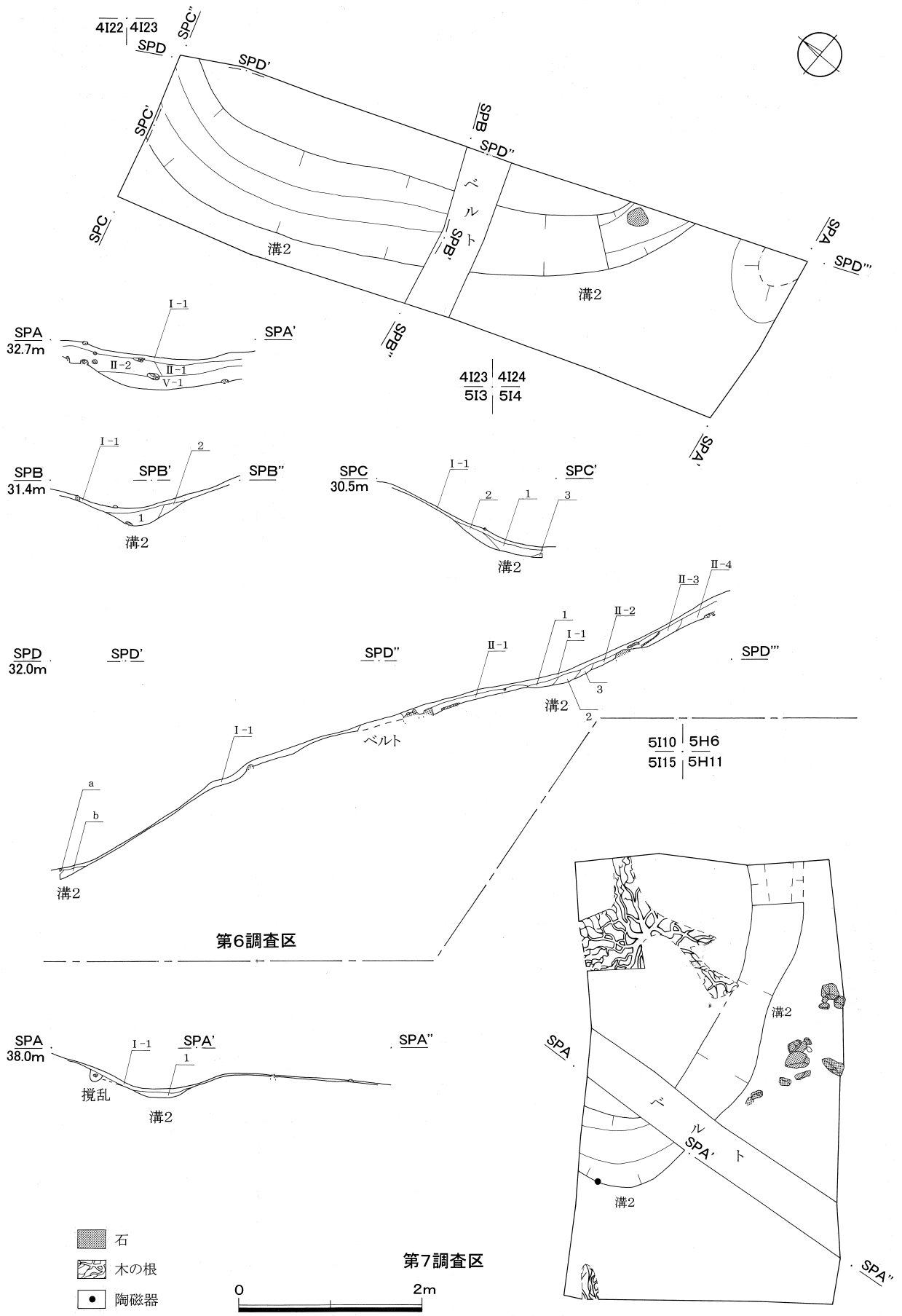
表38 東西セクション南壁～南北セクション西壁土層観察表 (A～A''')

I-1	10YR2/1	黒色		シルト 粗 極ソフト	草根多量
I-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫 玉砂利微量	シルト 粗 ややハード	
I-3	10YR4/4・ 3/3	褐・暗褐色	基盤礫 1.5～2cm大玉砂利中量	シルト 粗 ややハード	
II-1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利微量	シルト 粗 ややハード	
II-2	10YR4/4	褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ややソフト	
II-3	10YR2/3	黒褐色	15～20cm大礫×3	シルト 極粗 極ソフト	草根多量
II-4	10YR3/3	暗褐色		シルト 粗 ややハード	
II-5	7.5YR3/4	暗褐色		シルト 粗 ややソフト	
II-6	7.5YR3/4	暗褐色		シルト やや密 ややソフト	草根多量
II-7	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
II-8	7.5YR2/3	極暗褐色		シルト やや密 ややソフト	
II-9	10YR3/3	暗褐色	3cm大玉砂利・5cm大基盤礫 中量	粘質土 粗 ややハード	
VIa-1	2.5Y4/3	オリーブ 褐色	基盤礫粒少量	やや密 ややハード	
現代 砂利面	10YR2/2	黒褐色	砂利層		
道路跡 A	10YR3/3	暗褐色	5cm大玉石少量 cm以下大玉砂利中量	1 シルト やや粗 ややハード	

土壌2 (盛土)	あ	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ソフト
	い	10YR3/3	暗褐色		シルト やや密 ややソフト
	う	10YR3/3	暗褐色		シルト 極粗 極ソフト
(覆土)	1	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 や やソフト
	2	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ソ フト
	3	10YR4/4	褐色	5～6cm大礫×1	シルト やや密 ややソフト
	4	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト



第19図 第5調査区 平面図他



第20図 第6・7調査区 平面図

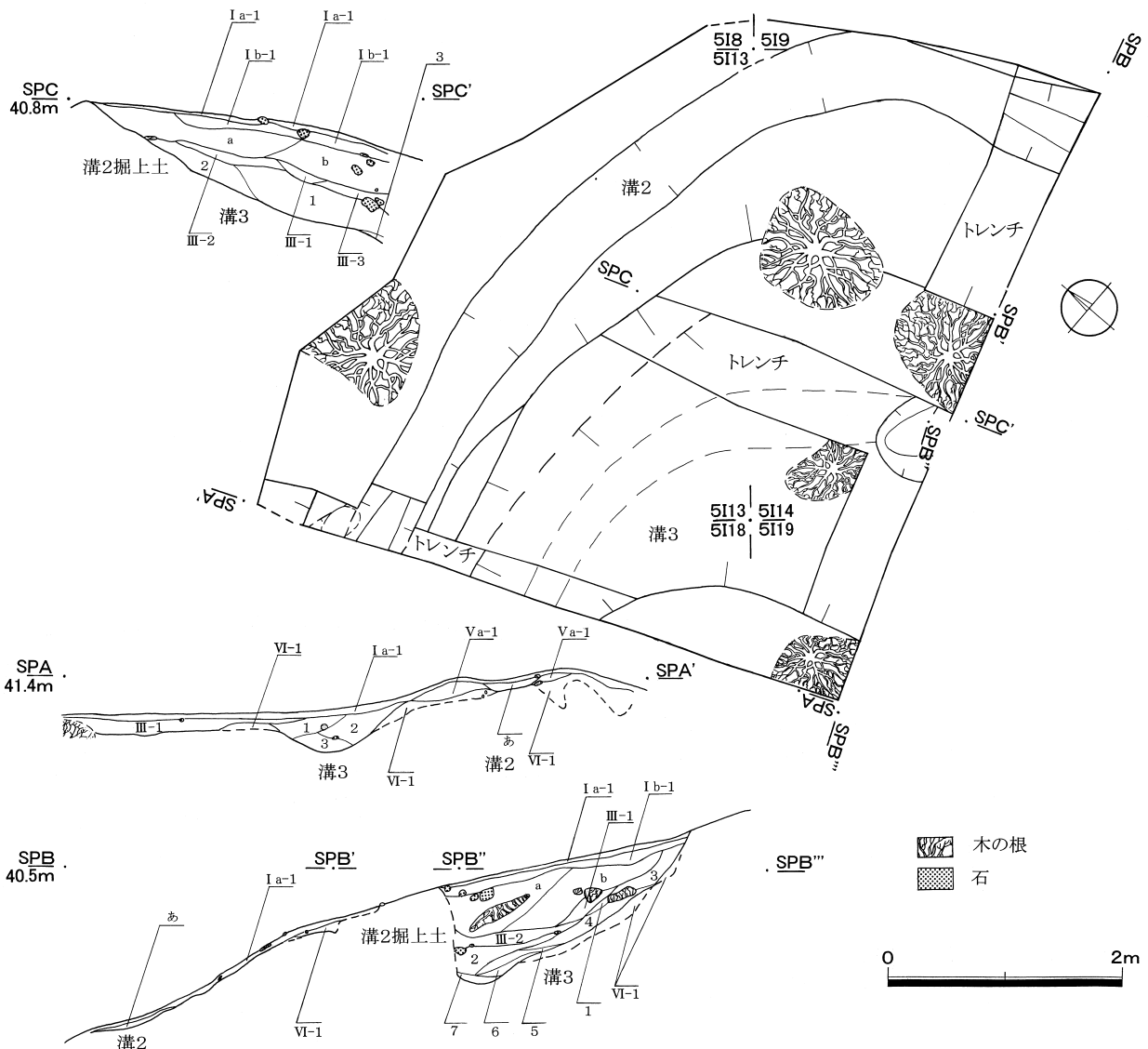


表39 南北セクション東壁土層観察表 (A~A')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利多量	シルト ややソフト	草根多量
	III-1	10YR2/2	黒褐色	玉砂利多量	シルト ややハード	
	V a-1	10YR4/6	褐色		シルト ややハード	
	VI-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利多量	シルト ハード	
溝3	1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利多量	シルト ややハード	
	2	10YR3/3	暗褐色	玉砂利多量	シルト ややハード	
	3	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	
溝2	あ	10YR3/1	黒褐色		シルト ややソフト	

表40 東西セクション南壁土層観察表 (B~B')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利多量	シルト ややソフト	草根多量
	I b-1					
	III-1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利多量	シルト ややソフト	
	III-2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	VI-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利多量	シルト ハード	
溝2	あ	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	
溝2掘上土	a	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利多量	粘質土 ややハード	
	b	10YR5/3	にぶい黄褐色		粘質土 ややハード	

溝3	1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	草根多量
	2	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
	3	10YR3/2	黒褐色	玉砂利多量	シルト ややハード	
	4	10YR2/2	黒褐色		シルト ややハード	
	5	10YR2/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	
	6	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	
	7	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	

表41 南北セクション西壁土層観察表 (C~C')

	I a-1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利多量	シルト ややソフト	草根多量
	I b-1					
	III-1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	
	III-2	10YR2/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	
	III-3	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	
溝2掘上土	a	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利多量	粘質土 ハード	
	b	10YR4/3	にぶい黄褐色	玉砂利多量	粘質土 ややハード	
溝3	1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	
	2	10YR3/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややハード	

第21図 第8調査区 平面図他

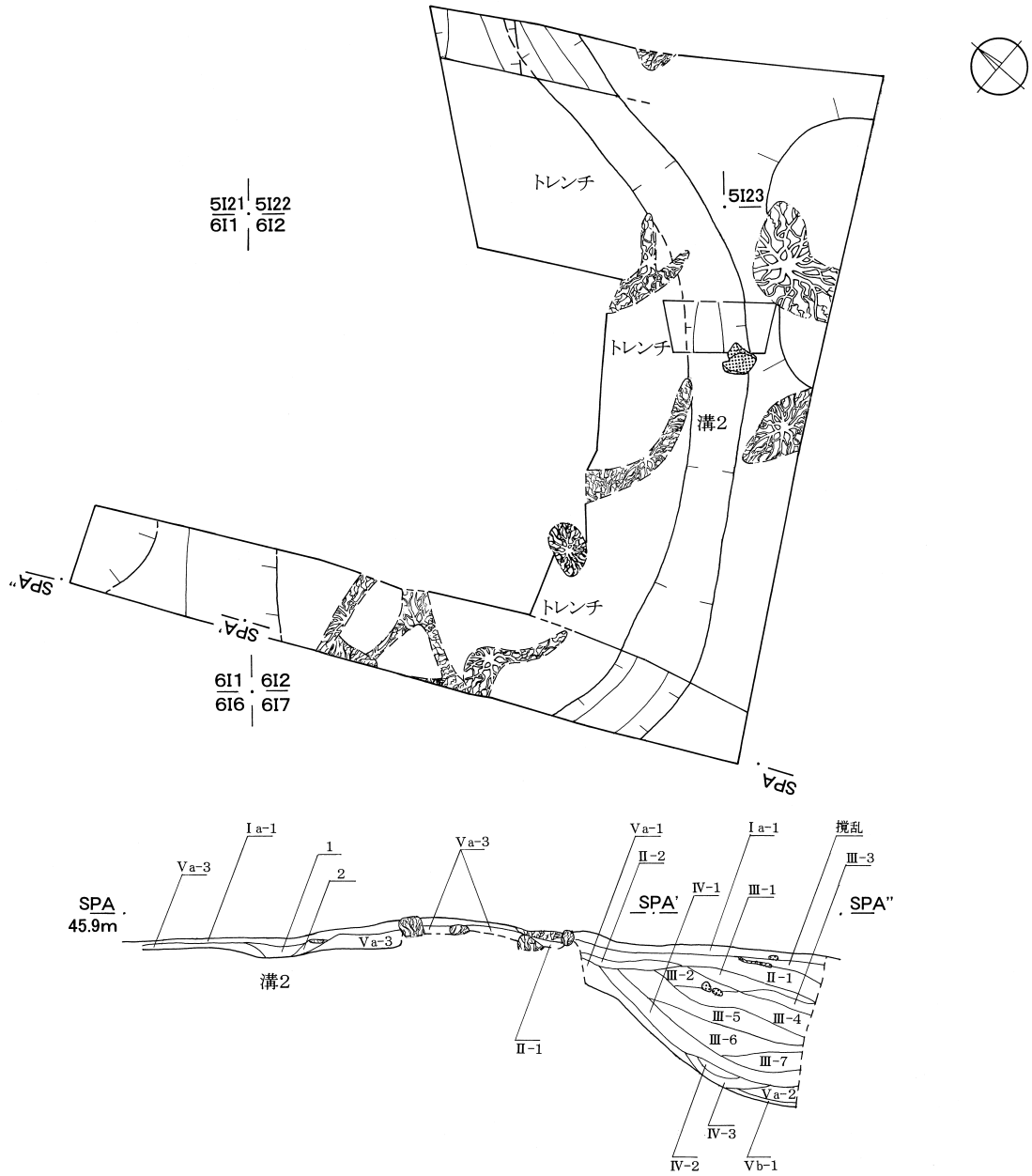


表42 南北セクション西壁土層観察表 (A~A'')

	I a-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ソフト	草根多量
(盛土)	II-1	7.5YR2/3	極暗褐色	5cm大基盤礫×1	シルト 極粗 極ソフト	
	II-2	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	草根多量
(盛土)	III-1	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ややハード	
	III-3	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-4	10YR3/4	暗褐色	基盤礫少量	シルト やや粗 ソフト	
	III-5	10YR2/3	黒褐色	基盤礫少量	シルト 粗 ソフト	
	III-6	10YR2/3	黒褐色	基盤礫多量	シルト 粗 ややソフト	
	III-7	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややハード	
	IV-1	10YR2/1	黒色		シルト やや密 ややソフト	
	IV-2	5YR3/4	暗赤褐色		シルト やや密 ややソフト	

	IV-3	7.5YR2/2	黒褐色	2~3cm大黒色基盤礫少量 (被熱か?)	シルト 粗 ややソフト	
	V a-1	7.5YR4/4	褐色	ソフトローム	やや粗 ややソフト	
	V a-2	7.5YR3/4	暗褐色	ソフトローム	極密 極ハード	草根少量
	V a-3	10YR3/3	暗褐色	ソフトローム	やや粗 ややソフト	
	V b-1	7.5YR4/6	褐色	ハードローム層	粘土	
溝2	1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫極小粒少量	シルト やや粗 ややソフト	



0 2m

第22図 第9調査区 平面図他

表43 第6調査区 東西セクション南壁土層観察表 (A~A')

	I-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	草根多量
	II-1	10YR3/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	草根少量
	II-2	10YR3/4	暗褐色	基盤礫粒 玉砂利中量	シルト やや密 ややソフト	
	V-1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	基盤礫粒 玉砂利多量	粗 ソフト	

表44 第6調査区 東西セクション南壁土層観察表 (B~B')

	I-1	10YR2/3	黒褐色	玉砂利中量	シルト 粗 ソフト	
溝2	1	10YR2/2	黒褐色	玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	
	2	10YR2/3	黒褐色	基盤礫 玉砂利少量	シルト 粗 ややソフト	

表45 第6調査区 東西セクション北壁土層観察表 (C~C')

	I-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや密 ややソフト	
溝2	1	10YR2/3	黒褐色	玉砂利 基盤礫少量	シルト やや密 ややソフト	
	2	10YR2/3	黒褐色	基盤礫粒少量	シルト やや密 ややソフト	
	3	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	

表46 第6調査区 南北セクション東壁土層観察表 (D~D')

	I-1	10YR2/3	黒褐色		シルト 粗 極ソフト	
	II-1	10YR3/4	暗褐色	基盤礫 玉砂利少量	シルト やや粗 ややソフト	
	II-2	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	シルト 粗 や やソフト	
	II-3	10YR3/2	黒褐色	玉砂利 基盤礫粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	II-4	10YR3/3	暗褐色	玉砂利 基盤礫粒中量	シルト 粗 や やソフト	
溝2	a	10YR2/3	黒褐色	玉砂利 基盤礫少量	シルト やや密 ややソフト	
	b	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	1	10YR3/2	黒褐色	基盤礫微量	シルト やや密 ソフト	
	2	10YR3/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	
	3	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	

表47 第7調査区 南北セクション東壁土層観察表 (A~A')

	I-1	10YR2/2	黒褐色		シルト 粗 ソフト	草根多量
溝2	1	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	シルト やや密 ややソフト	

2. 出土遺物

遺物は、総計 1,397 点で勝山館に併行する以外に縄文・擦文時代・江戸時代のものが出土している(表 48)。

各時期の遺物の内訳は、勝山館併行が 266 点(中世陶磁器 40 点、鉄製品 148 点、銅製品 56 点、石製品 11 点、土製品 7 点、木製品 1 点、自然遺物 3 点)である。

その他、縄文時代の遺物が 380 点(縄文土器 353 点・石器 27 点)、擦文土器が 2 点、江戸時代が 597 点(陶磁器 397 点、鉄製品 73 点、銅製品 25 点、真鍮製品? 1 点、瓦器 86 点、木製品 2 点、自然遺物 13 点)、近代では 152 点(陶磁器 78 点、鉄製品 74 点)である。

a. 陶磁器・瓦 (23・24 図、PL8-1・2、33、34-1・2)

陶磁器は合計 515 点が確認され、そのほとんどが第 1 調査区からの出土である。

遺物の年代は、勝山館跡が機能した 15 世紀末～16 世紀末、勝山館跡終末～廃絶直後の 16 世紀

末～17 世紀初頭、近世末～近代の大きく 3 時期(I～III 期)に分かれている。各時期の破片数(比率%)は、I 期(青磁・白磁・染付・赤絵・瀬戸・美濃大窯・越前・志野)が破片数 40 点(7.8%)、II 期(漳州窯系染付・唐津・備前)で 153 点(29.7%)、III 期(肥前系陶磁器、瀬戸・美濃染付)で 267 点(51.8%)、時期不明で 55 点(10.7%)となり、III 期の近世末～近代の遺物が約半数を占めて高い割合を示している。次いで、II 期とした中世末～近世初頭の遺物が多くみられ、本調査での主体的な土地利用の時期が中世末以降の近世に行われていたことを窺うことができる。

また、中世～近世初頭(I・II 期)の陶磁器 193 点について、種類別に集計を行った(図 1・2、表 50)。遺物の集計は、破片数について接合前の破片数で行い、個体数の算出については口縁部計測法を用いた。なお、口縁部計測法は宇野隆夫氏の方法を参考としている(宇野 1992)。

貿易陶磁は、青磁、白磁、染付(漳州窯系含む)、赤絵で構成され、破片数 70 点(2.03 個体)となり、

全体の36.3%を占める。その中では漳州窯系染付が大半を占め、逆に青磁・白磁の比率が少ない。

国産陶磁は、瀬戸・美濃、珠洲、越前、備前、志野、唐津で構成され、破片数123点(3.13個体)となり、全体の63.7%を占める。国産陶磁の中では、唐津が大半を占めている。

本調査では、過年度の勝山館跡主体部の調査と比較して、全体に占める国産陶磁の割合が高い傾向にある。以下、種類別に出土遺物の概要を述べる。

青磁 (23図-1、PL8-1、33-1)

腰折皿1点のみの出土で2次被熱を受けている。

白磁

細片のため図示していないが、皿E群の端反皿2点・丸皿1点が出土している。

染付 (23図-2～11、PL8-1)

器種は、碗・皿が出土している。

碗は、端反碗のB群、C群、C・E群、漳州窯系碗が出土している。破片数では漳州窯系の碗が全体の約9割を占めている(表53)。

碗B群は、2次被熱を受け、外面胴部に唐草文を施す。

漳州窯系碗は、外面胴部に唐草文、見込に折花文を施すものが多く、高台に砂が付着し、見込が饅頭心状に盛り上げるものと盛り上げられないものがみられる。また、第23図-10では高台の断面が台形状で、高台裏の釉を剥ぎ取っている。

皿は、端反皿B1群、漳州窯系のものが出土している。皿B1群は、外面胴部に牡丹唐草を施すものがみられた。

赤絵

表面が摩耗して、不明瞭であるが、唐草文様を施した端反碗と思われる。

瀬戸・美濃鉄釉 (23図-12・13、PL8-1、33-2～5)

大窯第4段階や近世の連房窯段階に相当する天目茶碗が出土している。

瀬戸・美濃灰釉 (23図-14・15、PL8-1、33-4・5)

大窯第1段階に相当する端反皿、大窯第3・4段階に相当する丸皿が出土している。

志野 (23図-16・17、PL8-1、33-6・7)

大窯第4段階後半と分類される皿が出土している。

越前 (23図-18、PL8-1、PL33-8)

器種は、壺・甕・播鉢が出土している。播鉢は、口縁部が内傾するIV群相当のものが出土している。

唐津 (23図-19～25、PL8-1、33-9～15)

胎土目段階と砂目段階に相当する碗や皿が出土している。

備前 (23図-26、PL8-1、33-16)

播鉢1点が出土している。

肥前系磁器 (24図-1～3、PL8-1)

器種は、碗、皿、瓶で構成され、碗が多く確認される。時期は、古伊万里などの17世紀のものはほとんどみられず、V期とされる19世紀前半の資料が大半を占めている。

肥前系陶器

器種は、碗、皿、甕、壺、播鉢などがみられ、甕が半分近くを占めている。ほとんどが18世紀後半～19世紀前半ごろの資料である。

瀬戸・美濃染付 (24図-4、PL8-1)

近世末～近代の年代観を示し、器種は碗・皿で構成される。出土地点は、第1調査区や第2調査区の集石からまとまって出土している。

瓦 (24図-7・8、PL8-2、34-1・2)

ほとんどが第1・3調査区の表面採集のものであるが、第2調査区では調査区南側の集石に伴って出土している。色調は赤褐色を呈する。

b. 鉄製品 (17図-1～10・15～19、18-1～6・9・11～19、25-1～14、PL8-3、34-3～47)

器種は、釘・刀子・鍋等が出土している。木質の付着した釘が多く確認され、土葬墓の木棺に使用したものと思われる。

c. 銅製品 (17図-11～14・20～25、18図-7・8・20～25、25図-15～27、26図、PL8-4～7、34-48、35)

器種は、釘・煙管・銭が確認される。銅製の釘は、1点のみの出土であるが、断面長方形の先端が屈曲している。

中世出土銭は56点確認され、主に土葬墓からのものである。銭種は、開元通寶5点、皇宋通寶6点、聖宋元寶1点、熙寧元寶4点、景德元寶2点、景祐元寶1点、元豐通寶4点、元祐通寶1点、至道元寶1点、宣徳通寶1点、洪武通寶5点、永樂通寶6点、無文銭2点、輪銭9点、判読不明8点

が確認されている。

近世出土銭では、寛永通寶 15 点（1 期 5 点・2 期 2 点・3 期 7 点・四文銭 1 点）が出土している。また、副葬品として納められた土葬墓の銭貨については、表 49 に示した。

d. 石製品

器種は、硯・砥石が出土している。砥石は、中砥・仕上げ砥の 2 種類がみられた。

e. 木製品

第 1 調査区の土壌 16 の底面より、漆の塗膜片がみつまっている。

杭と思われる棒状の製品が第 1 調査区、第 2 調査区 Pit28 の掘方から出土している。いずれも、腐食が著しい。

f. 縄文土器（27 図 -1 ～ 13、PL8-8、36-1 ～ 13）

出土したほとんどが第 1 調査区の IV 層から出土したものである。

IV 群 a とした後期前葉の時期を中心として、次いで V 群とした晩期の土器が出土している。

g. 石器（27 図 -14 ～ 18、PL36-14 ～ 18）

剥片石器の石鏃・スクレイパー、礫石器の磨製石斧などが出土している。

表48 勝山館跡 出土遺物集計表

時期	種類	器種	破片数
勝山館跡併行期	陶磁器	舶載	21
		国産	19
	小計		40
	鉄製品	釘	133
		刀子	1
		鍋	2
		鋏	1
		不明	11
	小計		148
	銅製品	銭	56
	石製品	砥石	9
		硯	1
		不明	1
	小計		11
土製品	土錘	1	
	不明	6	
小計		7	
木製品	漆	1	
	自然遺物	人骨他	3
小計		4	
合計			266
縄文時代	縄文土器	III群	3
		IV群a	175
		V群	25
		群不明	150
	小計		353
石器	剥片石器	26	
	礫石器	1	
小計		27	
合計			380
擦文時代	擦文土器	VII群	2
		合計	2

表49 土葬墓 出土銭貨集計表

No.	銭名	時代	破片数
土壌 1	開元通寶	唐	2
	皇宋通寶	北宋	2
	元豊通寶	北宋	1
	判読不明		2
	小計		7
土壌 3	開元通寶	唐	1
	皇宋通寶	北宋	1
	元豊通寶	北宋	1
小計		3	
土壌 4	熙寧元寶	北宋	1
	景德元寶	北宋	2
	景祐元寶	北宋	1
	永樂通寶	明	1
	判読不明		1
小計		6	
土壌 5	皇宋通寶	北宋	1
	元祐通寶	北宋	1
	永樂通寶	明	1
	小計		3
土壌 17	開元通寶	唐	1
	皇宋通寶	北宋	1
	熙寧元寶	北宋	1
	元豊通寶	北宋	1
	洪武通寶	明	1
判読不明		3	
小計		8	
合計			27

時期	種類	器種	破片数
江戸時代	陶磁器	漳州窯系	49
		瀬戸美濃	33
		唐津	86
		肥前系	169
		備前	5
		その他	55
		小計	
	鉄製品	釘	54
		鋸	4
		鑊	1
		鍋	1
		火箸	1
		不明	12
	小計		73
	銅製品	鏡	1
		飾金具	1
		煙管	1
		釘	2
		針金	1
		不明	2
		鉏	2
		銭	15
		小計	
瓦器		瓦	86
真鍮	煙管	1	
木製品	杭	2	
自然遺物	不明骨	12	
	炭化物	1	
小計		102	
合計			597
近代	陶磁器		78
	鉄製品	釘(洋釘)	74
合計			152
総計			1,397

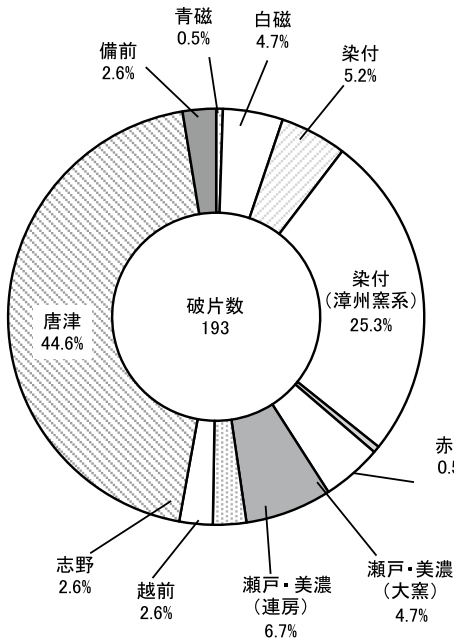


図1 中世～近世初頭 陶磁器 種類別組成比(破片数)

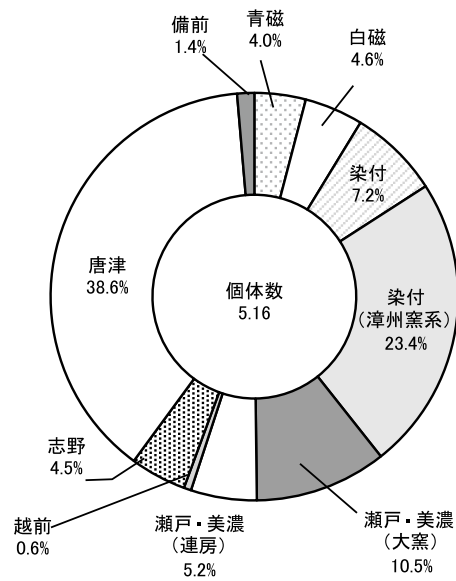


図2 中世～近世初頭 陶磁器 種類別組成比(個体数)

表50 中世～近世初頭 陶磁器 種類・器種別組成表(全体)

種類	器種	破片数	個体数
青磁	皿	1 [0.5%]	0.21 [4.0%]
白磁	皿	9 [4.7%]	0.24 [4.6%]
染付	碗・皿	10	0.37
染付(漳州窯系)	碗・皿	49	1.21
小計		59 [30.5%]	1.58 [30.6%]
赤絵	碗	1 [0.5%]	0.00 [0.0%]
瀬戸・美濃鉄釉	碗(大窯)	3	0.22
瀬戸・美濃灰釉	皿(大窯)	6	0.32
小計		9 [4.7%]	0.54 [10.5%]
瀬戸・美濃鉄釉	碗(連房)	13 [6.7%]	0.27 [5.2%]
越前	甕	3	0.00
	播鉢	1	0.03
	壺	1	0.00
小計		5 [2.6%]	0.03 [0.6%]
志野	皿	5 [2.6%]	0.23 [4.5%]
唐津	碗	56	1.04
	皿	22	0.95
	瓶	8	0.00
小計		86 [44.6%]	1.99 [38.6%]
備前	播鉢	5 [2.6%]	0.07 [1.4%]
合計		193 [100%]	5.16 [100%]

表51 青磁 器種・分類別組成表

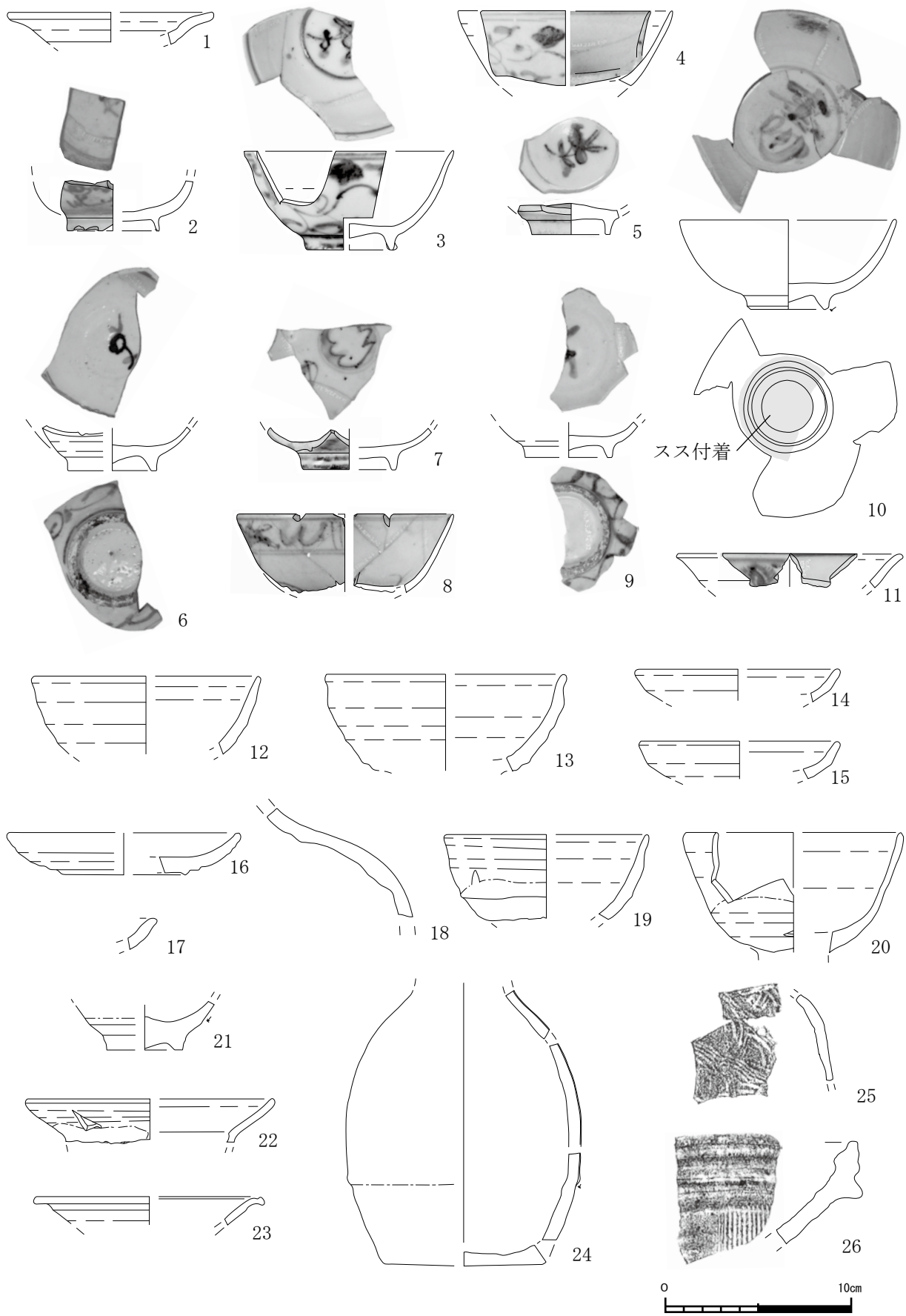
種類	器種	分類	破片数	個体数
青磁	皿	腰折皿	1 [100%]	0.21 [100%]
合計			1	0.21

表52 白磁 器種・分類別組成表

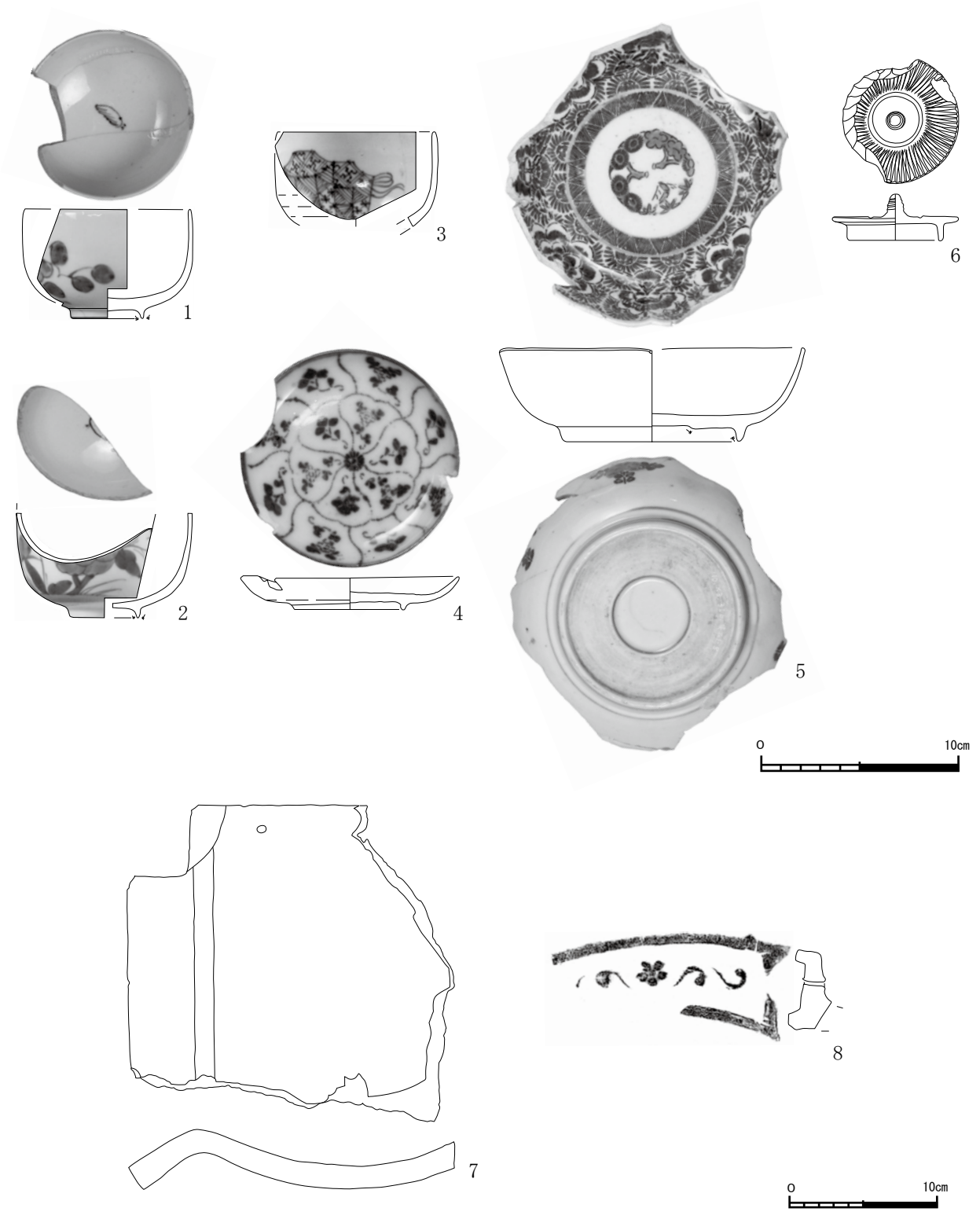
種類	器種	分類	破片数	個体数
白磁	皿	E群	9 [100%]	0.24 [100%]
合計			9	0.24

表53 染付 器種・分類別組成表

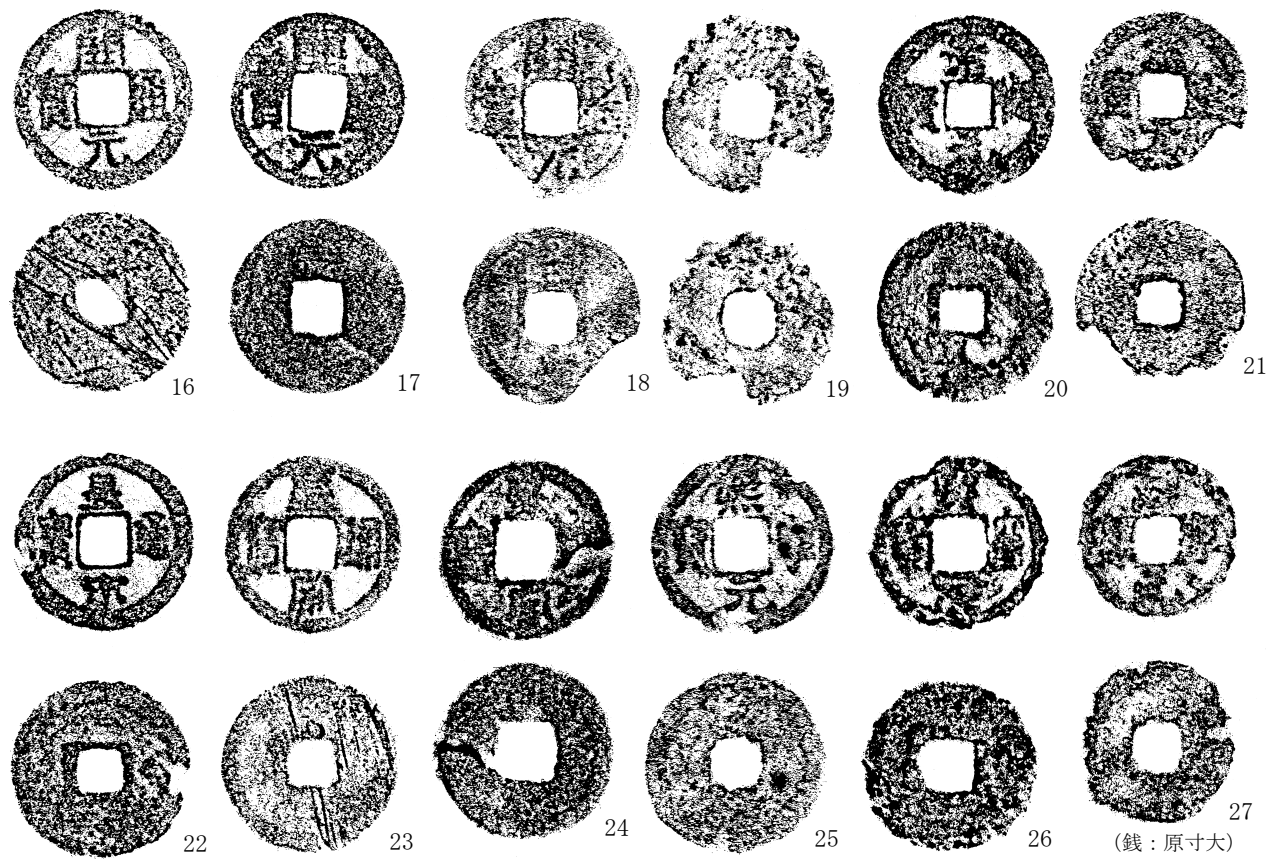
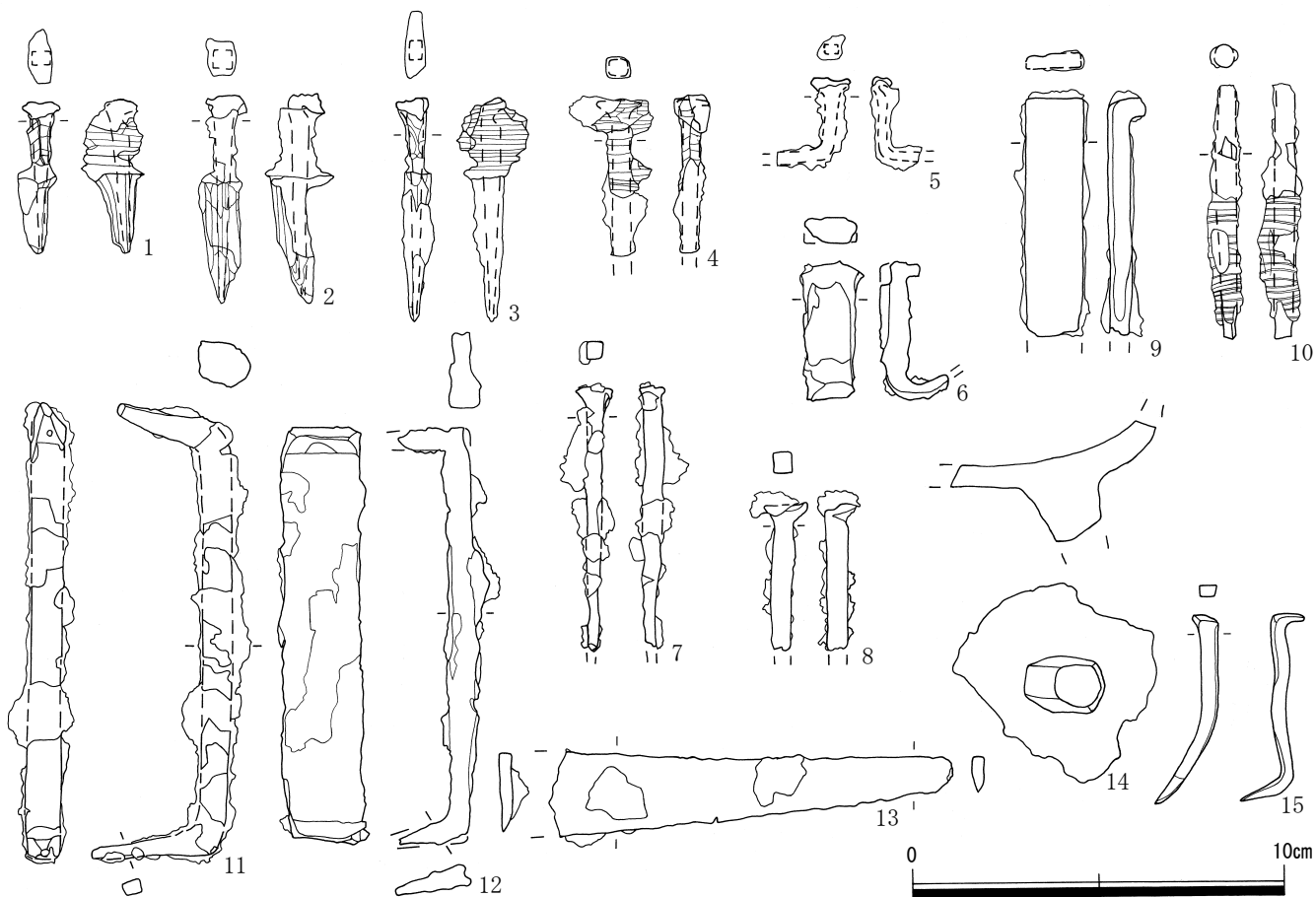
種類	器種	分類	破片数	個体数
染付	碗	B群	2 [3.9%]	0.00 [0.0%]
		C群	2 [3.9%]	0.08 [6.0%]
		C・E群	1 [1.9%]	0.05 [3.7%]
		漳州窯系	47 [90.3%]	1.21 [90.3%]
	皿	B1群	2 [28.6%]	0.15 [62.5%]
	C群	3 [42.8%]	0.09 [37.5%]	
	漳州窯系	2 [28.6%]	0.00 [0.0%]	
合計			59	



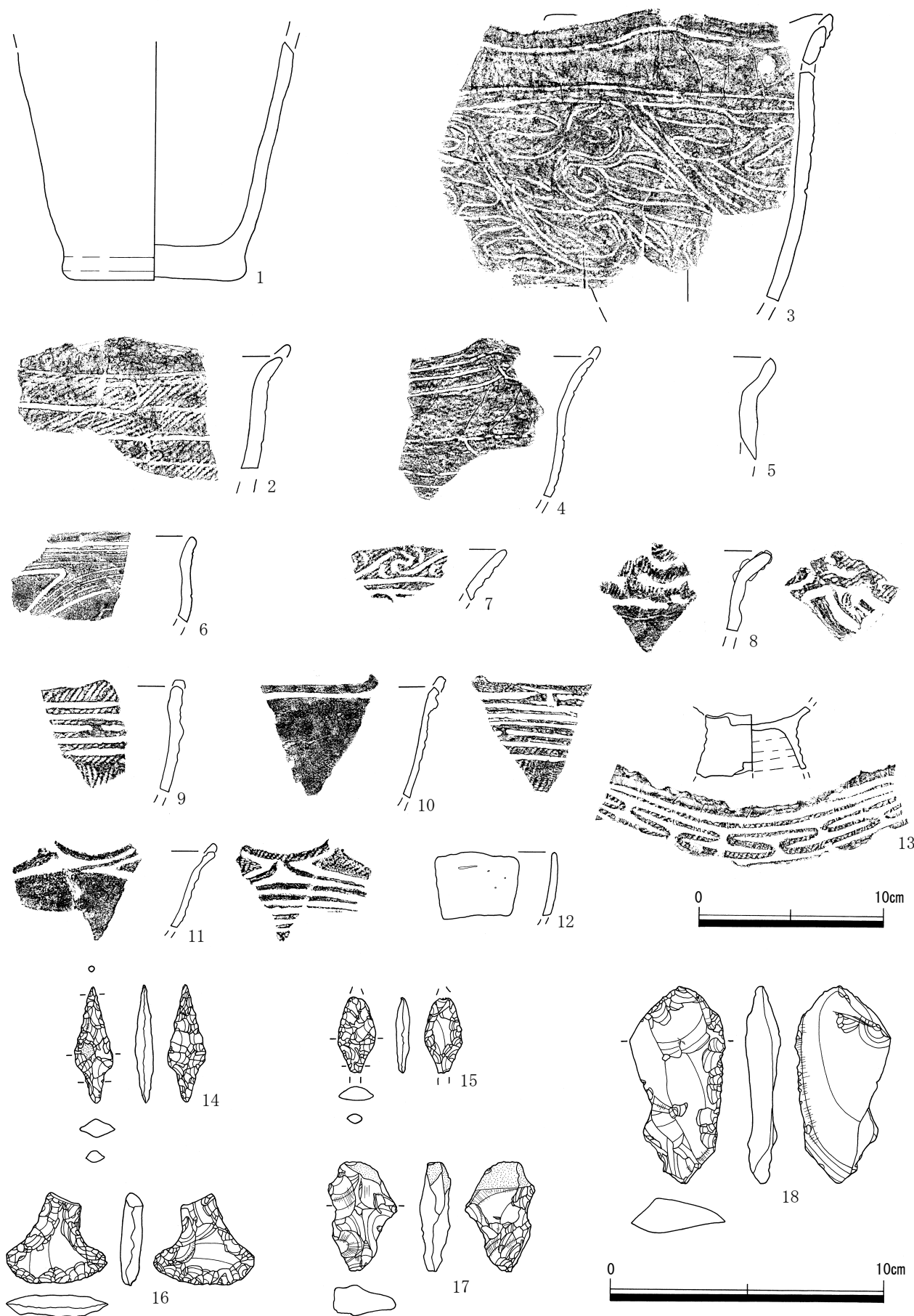
第 23 図 出土遺物（青磁、染付、瀬戸美濃鉄釉・灰釉、志野、越前、唐津、備前）



第 24 図 出土遺物（肥前系染付、瀬戸・美濃染付、不明磁器、瓦）



第25圖 出土遺物（鉄製品、銅製品、錢貨）



第27図 出土遺物（縄文土器・石器）

表54 勝山館跡 出土遺物観察表

図版No.	PLNo.	調査区	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
23図-1	PL33-1	1	2J24		II	青磁	皿	腰折皿 口径11.0cm 2次被熱	10K32J24 II E-2
23図-2		1	2J22		II	染付	碗	端反碗 B群 外面-胴部花唐草文 腰部圏線3条 見込圏線2条 ○文底径4.9cm	接合No.4684
23図-3		1	2J17		III	染付	碗	漳洲窯系 外面-口縁部圏線2条 胴部唐草文 腰部圏線1条 内面-口縁部圏線1条 見込○文 口径11.2×器高5.3×底径4.6cm	接合No.4659
23図-4		1	2J22		I	染付	碗	漳洲窯系 外面-口縁部圏線2条 胴部唐草文 内面-口縁部圏線1条 口径11.5cm	接合No.4675
23図-5		1	2J20		II	染付	碗	漳洲窯系 外面-腰部圏線1条 見込○花文 底径4.2cm 見込擦痕有	10K32J20 II E-1
23図-6		1	2J19		II	染付	碗	漳洲窯系 外面-胴部草花文 腰部圏線2条 見込圏線2条 折花文底径4.6cm 高台下砂付着	接合No.4705
23図-7		1	2J24		I	染付	碗	漳洲窯系 外面-腰部圏線2条 見込圏法螺貝 底径5.0cm	接合No.4692
23図-8		1	2J24		I	染付	碗	漳洲窯系 外面-口縁部略波濤文 胴部○文 内面-口縁部圏線2条 胴部○文 口径11.5cm	接合No.4630
23図-9		1	2J25		I	染付	碗	漳洲窯系 見込○文字文 底径4.6cm 高台下砂付着	接合No.4649
23図-10		1	2J22	溝4	覆土	染付	碗	漳洲窯系 内面-高台裏スス付着 口径11.6×器高4.8×底径5.0cm	接合No.4681
23図-11		2	3J10		I	染付	皿	端反皿 B1群 外面-口縁部圏線1条 胴部牡丹唐草文 内面-口縁部圏線1条 口径12.0cm	10K33J10 I E-5
23図-12	PL33-2	1	2J25		I	鉄釉	碗	天目茶碗 連房 I 期 口径12.0cm	10K32J25 I E-19
23図-13	PL33-3	1	2J22	溝4	覆土	鉄釉	碗	天目茶碗 連房 I 期 口径12.8cm	10K32J22溝4E-30
23図-14	PL33-4	1	2J17		III	灰釉	皿	丸皿 大窯第3・4(～連房 I 期?) 口径10.6cm	10K32J17 III E-9
23図-15	PL33-5	1	2J17・18		攪乱12	灰釉	皿	丸皿 大窯第3・4(～連房 I 期?) 口径10.6cm	10K32J17・18攪乱12E-2
23図-16	PL33-6	1	2J23		II	志野	皿	大窯第4段階後半 口径12.2×器高2.3×底径6.6cm 2次被熱	接合No.4683
23図-17	PL33-7	1	2J19		II	志野	皿	大窯第4段階後半	10K32J19 II E-3
23図-18	PL33-8	1	2J19		II	越前	壺・甕		接合No.4703
23図-19	PL33-9	1	2J17		III	唐津	碗	I 期 口径10.8cm	接合No.4658
23図-20	PL33-10	1	2J24		II	唐津	碗	I・II 期 口径11.6cm	接合No.4632
23図-21	PL33-11	1	不明		表採	唐津	碗	I・II 期	10K3表採E-121
23図-22	PL33-12	1	2J17		III	唐津	皿	I・II 期 口径13.2cm	接合No.4653
23図-23	PL33-13	2	3I1		II	唐津	皿	II 期 口径12.0cm	10K33I1 II E-1
23図-24	PL33-14	1	2J25	礎石6	覆土	唐津	瓶	16世紀末～17世紀初頭	10K32J25礎石6E-1～4・6・7 10K32J25 II E-2
23図-25	PL33-15	1	2J24		I	唐津	壺	16世紀末～17世紀初頭	接合No.4725
23図-26	PL33-16	1	2J22	溝4	覆土	備前	插鉢	16世紀末～17世紀初頭	10K32J22溝4E-31
24図-1		1	2J23	溝4	覆土	肥前系染付	碗	V 期 口径8.3×器高5.55×底径3.5cm	接合No.4678
24図-2		1	2J23	溝4	覆土	肥前系染付	碗	V 期 底径3.4cm	10K32J23溝4E-21
24図-3		1	2J23	溝4	覆土	肥前系染付	碗	V 期 口径8.0cm	接合No.4677
24図-4		2	3I1	集石	覆土	瀬戸・美濃染付	皿	幕末～近代 口径10.9×器高(1.75～1.8)×底径5.5cm	10K33I1集石1E-15
24図-5		2	3I6	集石	覆土	肥前系染付	皿	V 期～明治 見込松竹梅 蛇1目凹形高台 口径15.4×器高4.7×底径8.8cm	接合No.4643
24図-6	PL33-17	1	2J22	溝4	覆土	不明磁器	蓋	口径4.7cm	10K32J22溝4E-33
24図-7	PL34-1	2	3I6	集石	覆土	瓦	棧瓦	赤褐色 厚さ1.60cm	10K33I6集石1E-4・6
24図-8	PL34-2	2	3J5		表採	瓦	棧瓦	赤褐色	10K33J5表採E-24・25
25図-1	PL34-34	1	2J19	溝1	覆土	鉄製品	和釘	長さ4.05×幅0.56×厚さ1.54cm 重量2.8g	10K32J19溝1M-2
25図-2	PL34-35	1	2J19	溝1	覆土	鉄製品	和釘	長さ5.64×幅0.71×厚さ1.02cm 重量5.2g	10K32J19溝1M-4
25図-3	PL34-36	1	2J19	溝1	覆土	鉄製品	和釘	長さ6.08×幅1.93×厚さ0.59cm 重量4.8g	10K32J19溝1M-1
25図-4	PL34-37	1	2J23	溝4	覆土	鉄製品	和釘	長さ4.24×幅0.72×厚さ0.56cm 重量5.6g	10K32J23溝4M-5
25図-5	PL34-38	1	2J23	溝4	覆土	鉄製品	和釘	長さ3.7×幅0.75×厚さ0.68cm 重量2.1g	10K32J23溝4M-9
25図-6	PL34-39	2	3J10		I	鉄製品	平釘	長さ3.6×幅1.39×厚さ0.7cm 重量8.8g	10K33J10 I M-1
25図-7	PL34-40	2	3J9		II	鉄製品	和釘	長さ7.15×幅0.66×厚さ0.56cm 重量6.9g	10K33J9 II M-6
25図-8	PL34-41	2	3J9		II	鉄製品	和釘	長さ4.14×幅0.59×厚さ0.59cm 重量5.7g	10K33J9 II M-1
25図-9	PL34-42	1	2J20		I	鉄製品	平釘	長さ6.52×幅1.63×厚さ0.69cm 重量25.9g	10K32J20 I M-1
25図-10	PL34-43	3	3I3		II	鉄製品	和釘	長さ6.86×幅0.5×厚さ0.35cm 重量7.9g	10K33I3 II M-1
25図-11	PL34-44	3	3I19		II	鉄製品	角錠	長さ12.04×幅1.0×厚さ1.13cm 重量67.0g	10K33I19 II M-1
25図-12	PL34-45	3	不明	表採	鉄製品	平錠	長さ11.4×幅2.2×厚さ0.95cm 重量80.9g	10K3表採M-3	

図版No.	PLNo.	調査区	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
25図-13	PL34-46	7	5I23		I	鉄製品	刀子	長さ10.93×幅2.4×厚さ0.42~0.16cm 重量20.3g	10K35I23 I M-1
25図-14	PL34-47	1	2J19		I	鉄製品	鉄鍋	底部足部分 重量65.9g	10K32J19 I M-3
25図-15	PL34-48	1	2J19		II	銅製品	釘	角釘 長さ4.98×幅0.52×厚さ0.38cm 重量6.4g	10K32J19 II Cu-2
25図-16	PL35-1	1	2J20	土壇3	覆土	銅製品	銭	開元通寶 銭径2.47(2.44)×内径1.94(2.0)cm 量目3.1g	10K32J20土壇3Z-1②
25図-17	PL35-2	1	2J14	土壇1	覆土	銅製品	銭	開元通寶 銭径2.38(2.38)×内径2.02(2.02)cm 量目2.5g	10K32J14土壇1Z-2
25図-18	PL35-3	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	開元通寶 裏月 銭径2.41(2.4)×内径2.08(2.05)cm 量目1.5g	10K34I7土壇17Z-1
25図-19	PL35-4	1	2J14	土壇1	覆土	銅製品	銭	開元通寶 量目2.1g	10K32J14土壇1Z-4
25図-20	PL35-5	1	2J20	土壇4	覆土	銅製品	銭	景德元寶 銭径2.42(2.41)×内径1.79(1.85)cm 量目2.1g	10K32J20土壇4Z-1
25図-21	PL35-6	1	2J20	土壇4	覆土	銅製品	銭	景德元寶 銭径(2.34)×内径(1.8)cm 量目1.2g	10K32J20土壇4Z-5
25図-22	PL35-7	1	2J14・19	土壇1	覆土	銅製品	銭	皇宋通寶(真書) 銭径2.4(2.44)×内径1.9(1.89)cm 量目2.8g	10K32J14・19土壇1Z-7
25図-23	PL35-8	1	2J20	土壇3	覆土	銅製品	銭	皇宋通寶(篆書) 銭径2.42(2.4)×内径1.9(1.96)cm 量目3.0g	10K32J20土壇3Z-1①
25図-24	PL35-9	1	2J14	土壇1	覆土	銅製品	銭	皇宋通寶(篆書) 銭径2.44(2.42)×内径2.0(2.05)cm 量目2.3g	10K32J14土壇1Z-3
25図-25	PL35-10	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	熙寧元寶(真書) 銭径(2.46)×内径2.0(2.02)cm 量目3.3g	10K34I7土壇17Z-4
25図-26	PL35-11	4	4I15		III	銅製品	銭	熙寧元寶(篆書) 銭径(2.39)×内径1.84(1.94)cm 量目2.7g	10K34I15 III Z-1
25図-27	PL35-12	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	熙寧元寶(真書) 銭径2.2(2.13)×内径1.8(1.8)cm 量目2.6g	10K34I7土壇17Z-7
26図-1	PL35-13	1	2J20	土壇3	覆土	銅製品	銭	元豊通寶(行書) 銭径2.45(2.46)×内径1.85(1.94)cm 量目3.0g	10K32J20土壇3Z-1③
26図-2	PL35-14	2	3J9	土壇10	覆土	銅製品	銭	元豊通寶(篆書) 銭径2.59(2.6)×内径2.06(2.06)cm 量目2.4g	10K33J9土壇10Z-1
26図-3	PL35-15	1	不明		表採	銅製品	銭	元豊通寶(篆書) 銭径2.5(2.5)×内径2.15(2.06)cm 量目2.7g	10K3表採Z-2①
26図-4	PL35-16	1	2J19	土壇5	覆土	銅製品	銭	元祐通寶(篆書) 銭径2.5×内径2.12cm 量目2.1g	10K32J19土壇5Z-2
26図-5	PL35-17	1	不明		表採	銅製品	銭	聖宋元寶(行書) 銭径2.47(2.43)×内径2.05(2.04)cm 量目2.2g	10K3表採Z-2②
26図-6	PL35-18	4	4I13		III	銅製品	銭	洪武通寶 銭径2.38(2.37)×内径1.98(1.94)cm 量目3.2g	10K34I13 III Z-1
26図-7	PL35-19	1	2J19		III	銅製品	銭	洪武通寶 銭径(2.46)×内径2.13(2.13)cm 量目2.2g	10K32J19 III Z-2
26図-8	PL35-20	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	洪武通寶 銭径(2.3)×内径1.83(1.86)cm 量目2.4g	10K34I7土壇17Z-6
26図-9	PL35-21	1	不明		表採	銅製品	銭	洪武通寶 銭径2.34(2.34)×内径1.86(1.77)cm 量目3.4g	10K3表採Z-2③
26図-10	PL35-22	1	2J19	土壇5	覆土	銅製品	銭	永樂通寶 銭径2.54(2.55)×内径2.16(2.12)cm 量目3.4g	10K32J19・20土壇5Z-3
26図-11	PL35-23	4	4I14		III	銅製品	銭	永樂通寶 銭径2.56(2.53)×内径2.14(2.13)cm 量目2.5g	10K34I14 III Z-2
26図-12	PL35-24	1	2J20	土壇4	覆土	銅製品	銭	永樂通寶 銭径2.4(2.4)×内径2.05(2.1)cm 量目2.0g	10K32J20土壇4Z-3
26図-13	PL35-25	4	4I14		III	銅製品	銭	宣徳通寶 銭径2.59(2.54)×内径2.08(2.1)cm 量目2.7g	10K34I14 III Z-1
26図-14	PL35-26	1	2J14		II	銅製品	銭	無文銭 量目0.5g	10K32J14 II Z-1
26図-15	PL35-27	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	判読不明 銭径2.3(2.36)×内径1.9(1.9)cm 量目2.3g	10K34I7土壇17Z-3②
26図-16	PL35-28	4	4I7	土壇17	覆土	銅製品	銭	判読不明 銭径2.29(2.32)×内径1.79(1.77)cm 量目2.3g	10K34I7土壇17Z-3①
26図-17	PL35-29	1	2J19		II	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.48(2.48)×内径2.0(2.0)cm 量目3.1g	10K32J19 II Z-2
26図-18	PL35-30	1	2I16		I	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径(2.46)×内径1.98(1.98)cm 量目2.1g	10K32I16 I Z-1
26図-19	PL35-31	3	3I11	集石1	覆土	銅製品	銭	寛永通寶1期 銭径2.37(2.36)×内径1.86(1.85)cm 量目3.3g	10K33I11集石1Z-1
26図-20	PL35-32	3	3J9		I	銅製品	銭	寛永通寶2期 銭径2.54(2.55)×内径2.09(2.0)cm 量目2.8g	10K33J9 I Z-1
26図-21	PL35-33	1	不明		表採	銅製品	銭	寛永通寶3期 銭径2.46(2.47)×内径2.0(1.97)cm 量目3.9g	10K3表採Z-3
26図-22	PL35-34	1	2J18		I	銅製品	銭	寛永通寶3期 銭径2.48×内径2.04(2.0)cm 量目2.2g	10K32J18 I Z-1
27図-1	PL36-1	1	2J19		IV	縄文土器	深鉢	IV群 底径8.6cm 外面削り(ヘラ?) 内面縦位ミガキ	10K32J19IVP17①~⑥ 10K32J19IVP2・3・16・28・30・35
27図-2	PL36-2	1	2J20		IV	縄文土器	深鉢	IV群a-2 外胴部スス付着	10K32J20IVP-8 10K32J20 II P-6
27図-3	PL36-3	1	2J19		IV	縄文土器	深鉢	IV群a-2 外・内面共にスス付着	10K32J19IVP-18・19・33
27図-4	PL36-4	1	2J19		IV	縄文土器	深鉢	IV群a-2	10K32J19IVP-50・51
27図-5	PL36-5	1	2J19		IV	縄文土器	深鉢	IV群a-2 外面スス付着 指ハケなで有	10K32J19IVP-6
27図-6	PL36-6	1	2J19		IV	縄文土器	深鉢	IV群a-2 外・内面胴部スス付着	10K32J19IVP-59
27図-7	PL36-7	1	2J14		II	縄文土器	深鉢	IV群a-2	10K32J14 II P-1
27図-8	PL36-8	1	2J19		II	縄文土器	深鉢	IV群a-2	10K32J19 II P-74
27図-9	PL36-9	1	2J17・18		攪乱12	縄文土器	深鉢	V群 口縁から内面胴部にかけてスス付着	10K32J17・18攪乱12P-1
27図-10	PL36-10	1	2J18		IV	縄文土器	浅鉢	V群	10K32J18IVP-4・9
27図-11	PL36-11	1	2J18		IV	縄文土器	浅鉢	V群	10K32J18IVP-3・6
27図-12	PL36-12	1	2J19	溝1	覆土	縄文土器	坏	V群 無文 ベンガラ付着	10K32J19溝1P-2
27図-13	PL36-13	1	2J19		II	縄文土器	坏	V群 晩期	10K32J19 II P-50
27図-14	PL36-14	1	2J19		II	剥片石器	石鏃	有茎 長さ4.3×幅1.3×厚さ0.65cm 重量2.6g	10K32J19 II SJ-1
27図-15	PL36-15	1	2J19		II	剥片石器	石鏃	有茎 長さ2.75×幅1.3×厚さ0.49cm 重量2.0g	10K32J19 II SJ-3
27図-16	PL36-16	1	2J19		IV	剥片石器	石匙	長さ3.35×幅3.15×厚さ0.75cm 重量8.3g	10K32J19IVSJ-8
27図-17	PL36-17	1	2J19		IV	剥片石器	不明	長さ4.0×幅2.2×厚さ1.05cm 重量8.9g	10K32J19IVSJ-2
27図-18	PL36-18	1	2J19		I	剥片石器	スレイパー	長さ3.48×幅7.22×厚さ1.26cm 重量26.2g	10K32J19 I SJ-4

Ⅲ 整備事業

ここでは、平成19年～22年度に実施された史跡上ノ国館跡の整備事業の概要についてを述べる。

1. 平成19年度

平成19年度の整備は、勝山館跡において誘導標識と櫓門跡の平面表示を行っている。

誘導標識 (29 図、PL4-1～6)

誘導標識は、勝山館跡散策ルート沿いの5箇所に設置した。設置箇所は、主に散策ルートの分岐点に行っている。

デザインは、周囲の景観と適合するよう配慮するものとし、材質についてヒバ材を用いた。

防腐処理は、柱頂部に銅版キャップを被せている。設置箇所は以下のとおりである。

- ① 勝山館跡の登り口 (PL4-1・2)
- ② 華ノ沢倉庫群への分岐点 (PL4-3)
- ③ ゴミ捨て場跡への分岐点 (PL4-4)
- ④ 勝山館跡とレストハウスと勝山館跡ガイダンス施設への分岐点 (PL4-5)
- ⑤ 勝山館跡の下り口 (PL4-6)

基礎は、地表面から約50cmの深さで実施した。そのため、基礎が遺構面に達する場合は盛土をすることで対処している。

なお、盛土は上記の②～④について行なっている。

櫓門跡表示 (30 図、PL4-7・8)

平成5年度に勝山館跡の中央通路部分を発掘調査した際、検出された櫓門跡について整備をしている。

櫓門の柱根と同様の30cm四方の平面規模で角を面取りした厚さ2～2.3cmのミカゲ石製の板を使用している。設置は、中央通路の土舗装されている舗装面をカットして、上端が舗装面と同レベルになるように実施している。板の間隔は270cm(9尺)×220cm(7尺3寸)の四隅に行っている。

同じく、櫓門跡と掘り込まれたミカゲ石製のプレートを作成して設置している。

また、その脇には平成18年に設置した櫓門の

説明版が置かれ、散策者が説明版を見て実際の櫓門の位置が認識できるよう配慮している。

2. 平成20年度

平成20年度は、勝山館跡のエントランス(入口)周辺にあたる上ノ国八幡宮社務所北側の敷地について、来訪者に勝山館跡の散策口であることが認識できるようエントランス広場として整備を行っている。エントランスの整備は、上ノ国八幡宮社務所改築に伴い、社務所北側の石積の新設、砂利舗装、樹木の撤去等を行っている。

その他、上ノ国八幡宮本殿西側の法面保護とその周辺の石積を整備している。

エントランス石積 (31・33 図、PL5-1～4)

既設の石積は、上ノ国八幡宮社務所基礎の盛土に雨水が染み込むことで緩み、一部崩落していた。整備にあたっては、石積を撤去、基礎コンクリート及び法面に裏込コンクリートを打設して地盤の安定を図っている。また、幅18.15m、高さ1.79mの規模で石を積み上げ、排水用の塩化ビニル管を差し込み、隙間にモルタルを詰めて仕上げを行っている。

さらに、雨水を排水する幅15cmのU型側溝を石積に沿って平行に埋設し、砂利を敷いて整備を行っている。

法面保護 (32・34 図、PL5-5～8)

法面保護は、上ノ国八幡宮拝殿西側にあたる物見跡の調査が行われた、下から3段目の平坦面に至る標高10～18mの斜面において実施している。

上ノ国八幡宮本殿は、かつて勝山館上に所在し、安永9年(1780)に著された『福山秘府』に文明5年(1473)の造立が記録される。

上ノ国町史跡整備検討委員である鈴木亘氏と宮本長二郎氏の調査では、本殿が古記録や様式等から元禄12年(1699)の建物であることが考えられ、現存する建造物として北海道最古として位置付けられている(上ノ国町教育委員会2008)。

法面保護の整備では、事前にボーリング調査を実施し、「表層を礫混じり土砂が覆う。裸地であ

るため、浸食により表層の土砂の流出、岩盤緩み部の抜け落ちの可能性あり。」という結果がでている。

そのため、斜面に約 14 m 四方の植生マットを敷き、アンカーピン等で固定して斜面を養生することで法面の保護を行っている。

斜面下に設置されている石積についても、社務所北側同様一部崩落している箇所があり、石積を撤去し、基礎コンクリート及び裏込コンクリートを打設して石を積み直している。また、その石積に沿って幅 15 cm の U 型側溝を埋設し、排水処理を行えるよう整備をしている。

3. 平成 21 年度

平成 21 年度は、昭和 46 年に自然研究路沿いに設置した手摺の撤去及び新設、勝山館跡の標柱の設置について実施している。

手摺 (35 図、PL6-1～4)

既設のコンクリート製の手摺の老朽化に伴い、国道 228 号線脇の勝山館跡登り口付近の手摺を撤去し、ステンレス製の手摺を新設している。

コンクリート製の手摺は、昭和 46 年に現在の自然研究路に敷設されているコンクリート製の階段と同時期に設置されている。

手摺の仕様は、総延長約 25 m で、ステンレス製の支柱に樹脂製の手摺を幅広い年齢層に対応するよう、87 cm・67 cm と異なる高さで 2 段に取り付けている。

標柱 (36 図、PL6-5～8)

平成 20 年 4 月に上ノ国町が史跡上之国館跡の管理団体に指定されたのに伴い、標柱を設置している。

設置箇所は、勝山館跡ガイダンス施設横に位置する駐車場の散策路入口である。

標柱の仕様は、石材に（白）ミカゲ石を用いて、地表面からの高さ 180 cm、30 cm 四方の角を 5 mm 面取りしたものである。

4. 平成 22 年度

平成 22 年の整備工事は、老朽化に伴う昭和 60 年度に整備された搦め手柵列の撤去及び新設、花沢館跡・洲崎館跡標柱の撤去及び新設、勝山館跡

案内板の設置について実施している。

案内板 (37 図、PL7-1～2)

案内板は、勝山館跡主郭で設置されている説明版とほぼ同様のものを採用し、デザインの統一を図っている。

設置箇所は、平成 22 年 3 月に竣工した旧笹浪家住宅向いの海浜を造成した勝山館跡散策者用の駐車場である。

標柱 (38・39 図、PL7-3～6)

平成 20 年 4 月に上ノ国町が史跡上之国館跡の管理団体に指定されたのに伴い、標柱を設置している。

設置箇所は、既設のものと同様とし、花沢館跡入口脇と洲崎館跡に位置する砂館神社玉垣西側である。

標柱の仕様は、勝山館跡の標柱と統一して石材に（白）ミカゲ石を用いて、地表面からの高さ 180 cm、30 cm 四方の角を 5 mm 面取りしたものである。

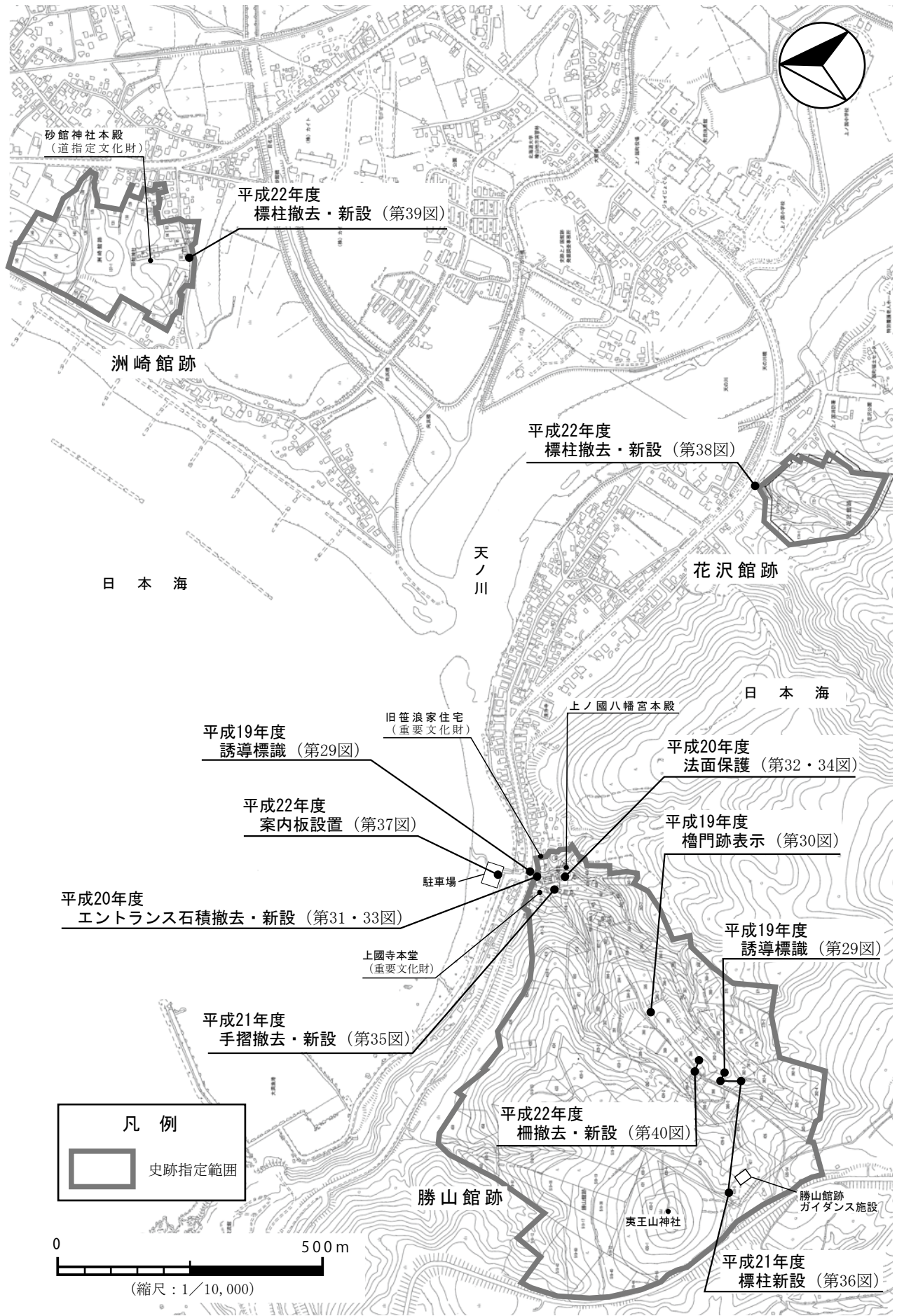
柵列 (40 図、PL7-7・8)

勝山館において昭和 60 年度に復元された搦め手柵列は、昭和 58 年度の発掘調査で検出されたものである。

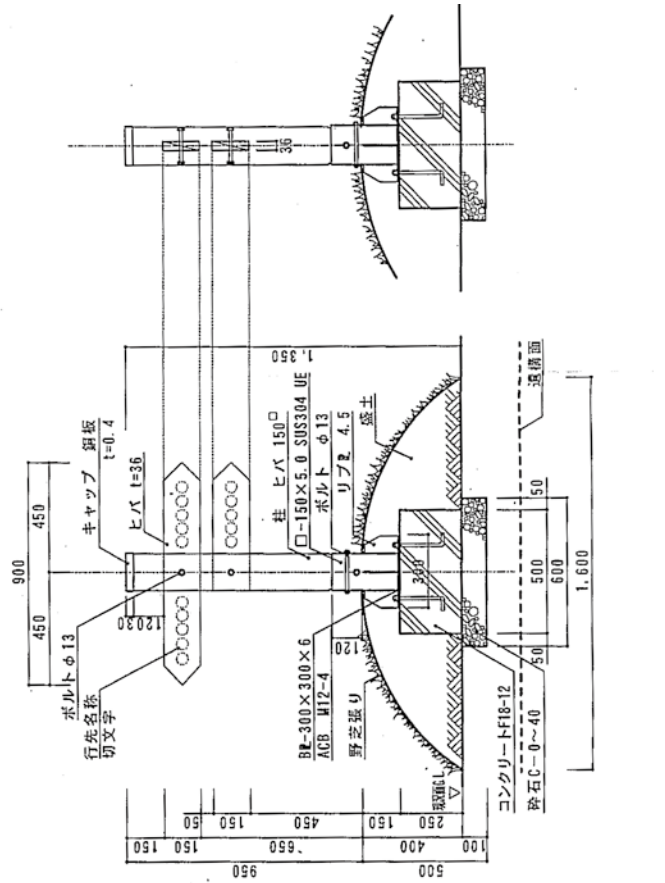
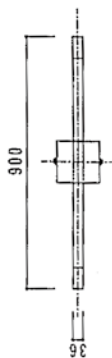
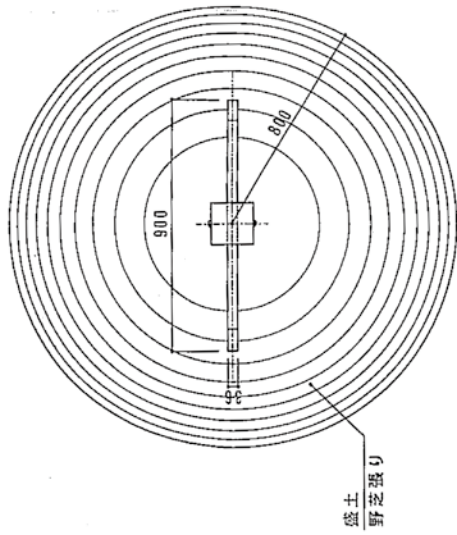
昭和 60 年度の柵列の仕様は、杭同士をボルトで連結して、直径 12 cm の地上高 1.35 m、中央通路の左右に全長 21.7 m（西側：10.8 m、東側：10.9 m）の規模で施工されている。材質はヒバ材を用いている。また、丸太には防腐処理として、頂部に銅版キャップ、丸太下端より 90 cm（控えは 70 cm）に焼処理をしている。撤去に際しては、盛土及び遺構面を壊さないよう細心の注意を払って実施している。

平成 22 年度に新設した柵列は、平成 15 年度の勝山館跡大手に復元された柵列の仕様を参考にしている。平成 15 年度の柵列の仕様は、発掘調査の成果並びに永禄 8 年（1565）の『築城記』を基にして、先端を円錐状に尖らせ、杭の間隔を空けて施工されているものである（埜 1960）。

さらに、平成 22 年度では防腐処理として杭と地面が設置する箇所に銅版を巻いて整備を行っている。

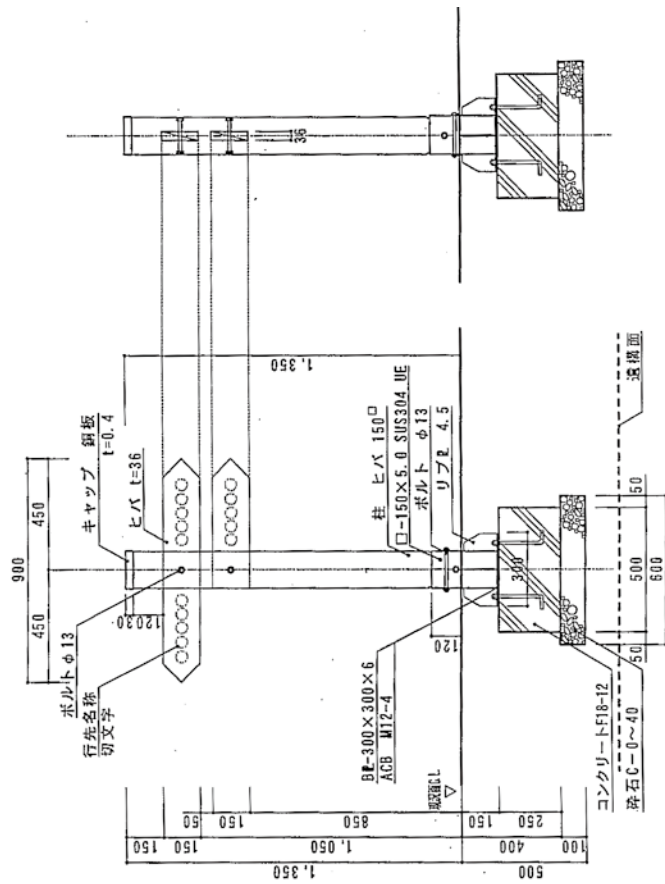


第28図 史跡上之國館跡 平成19~22年度整備箇所 位置図



側面図

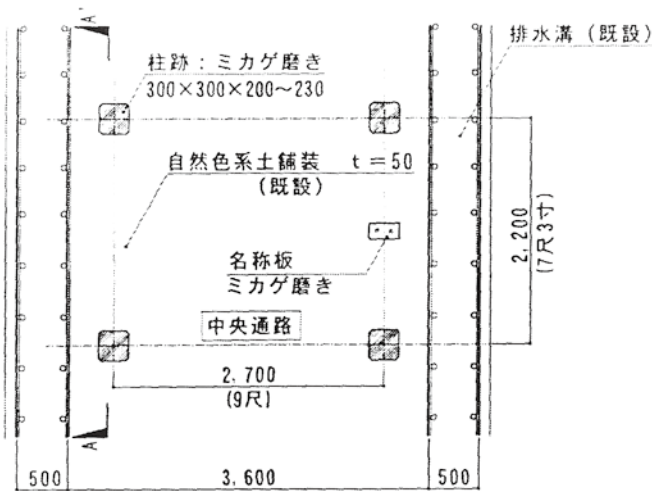
正面図



側面図

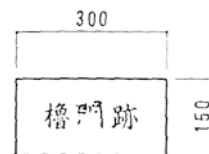
正面図

第 29 図 平成 19 年度 史跡上之国館跡 (勝山館跡) 誘導標識 整備立面図他

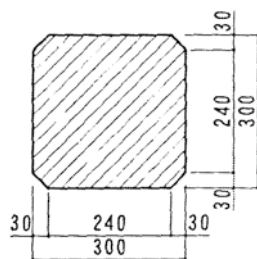


櫓跡整備 (表示) 平面図

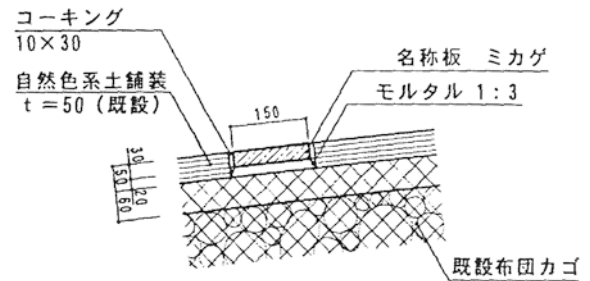
t = 30 ミカゲ磨き
名称彫込 1ヶ所



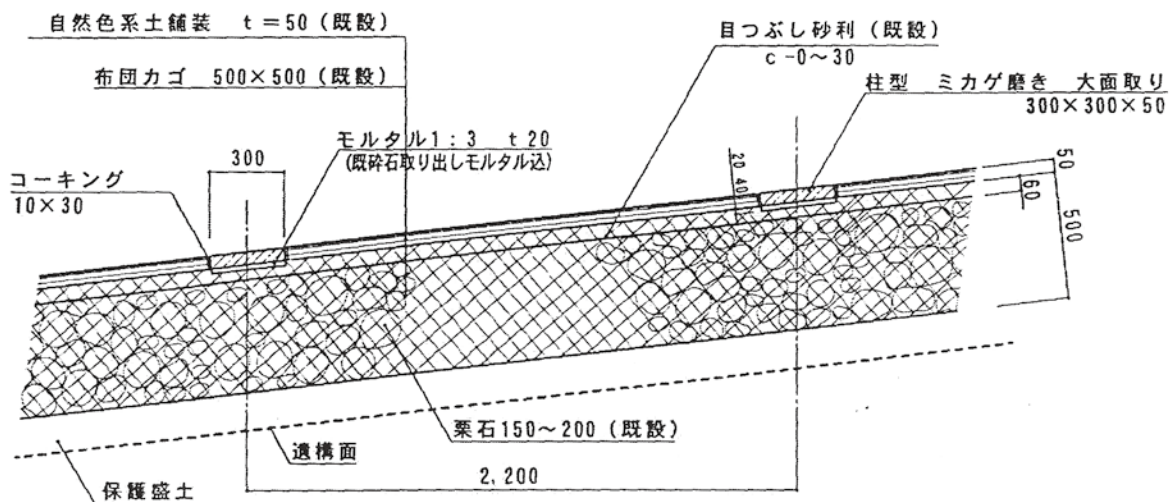
名称板平面図



柱型詳細図

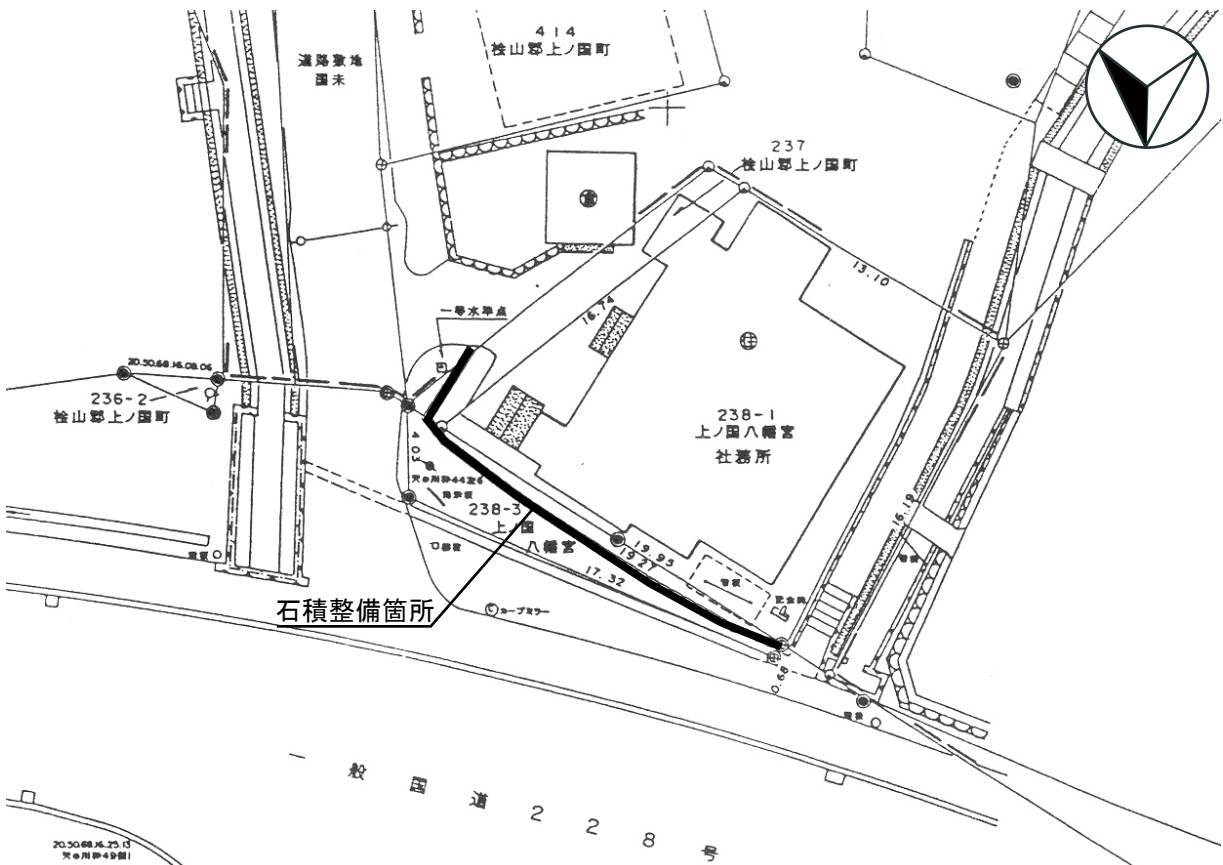


名称板断面図

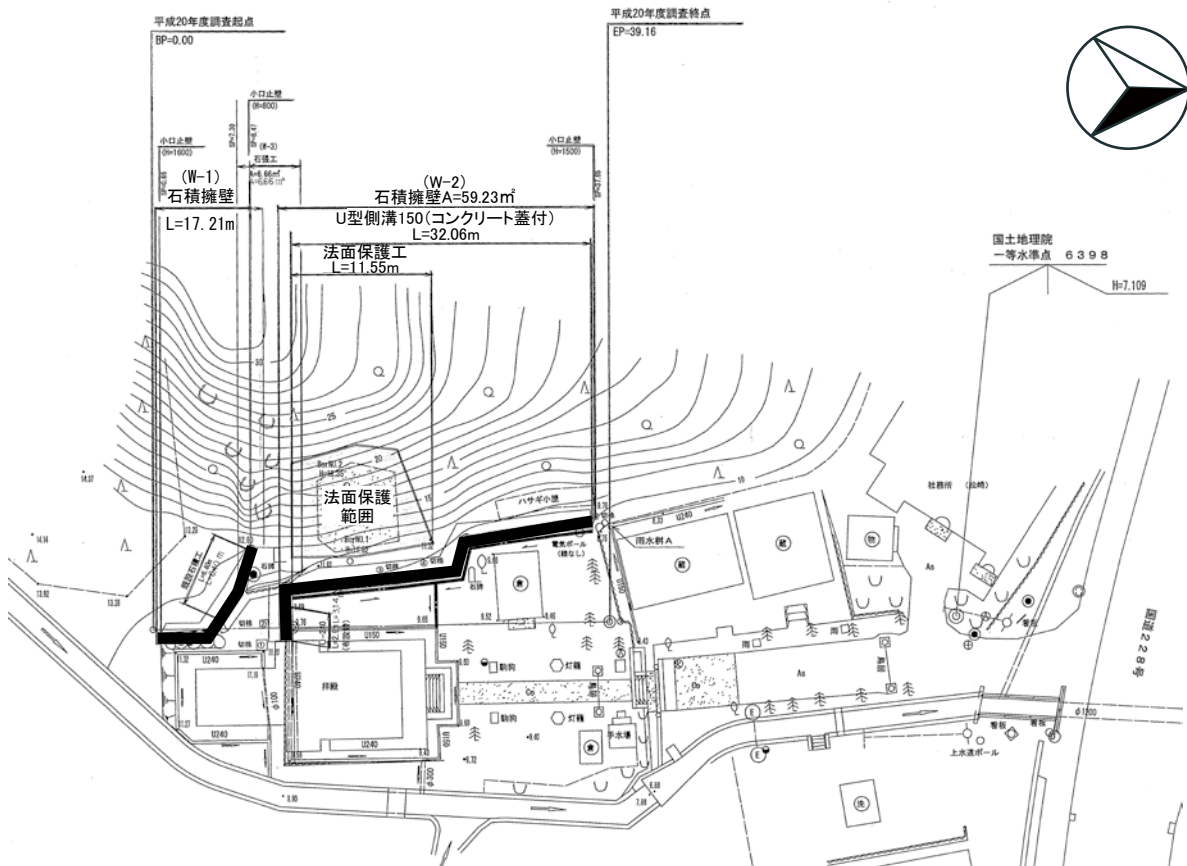


A-A' 断面図

第 30 図 平成 19 年度 史跡上之国館跡 (勝山館跡) 櫓跡表示 整備立面図他

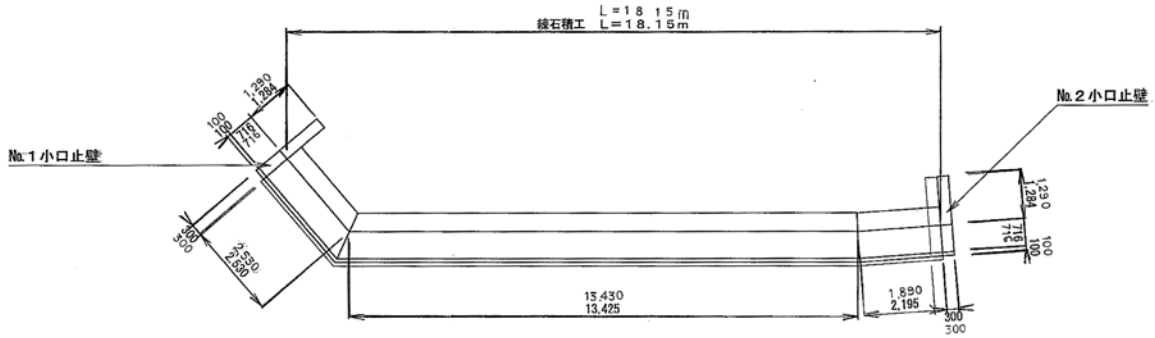


第31図 平成20年度 史跡上之国館跡（勝山館跡）エントランス石積整備 位置図

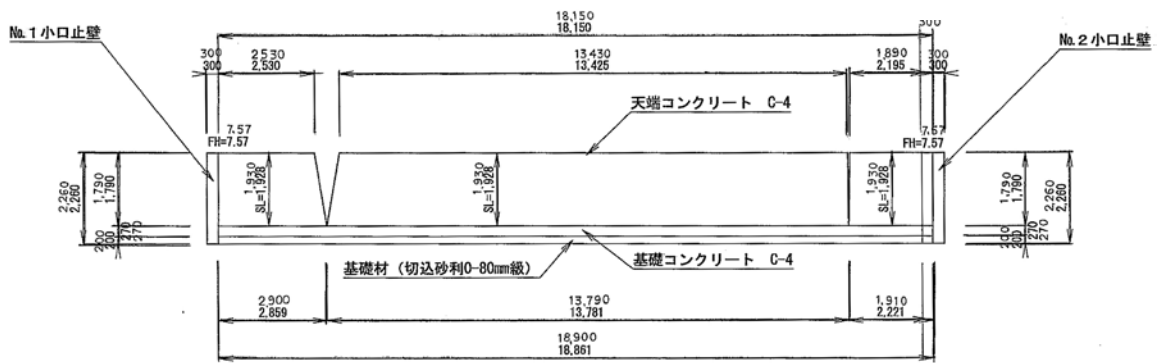


第32図 平成20年度 史跡上之国館跡（勝山館跡）法面保護整備 位置図

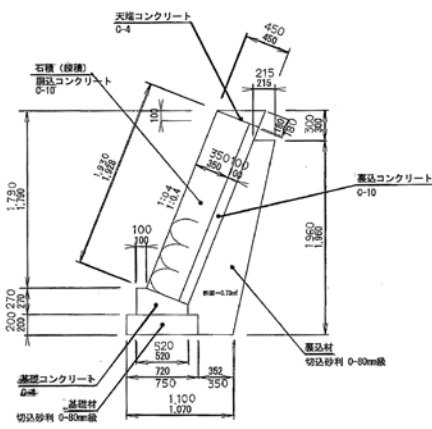
石積工（雑割石：練石積） 平面図



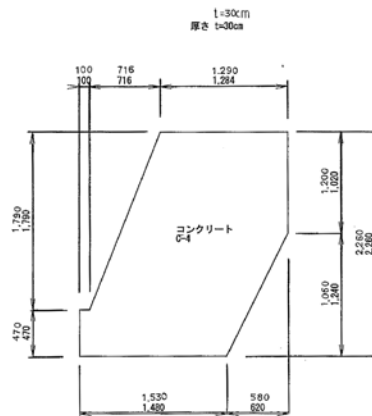
石積工（雑割石：練石積） 正面図



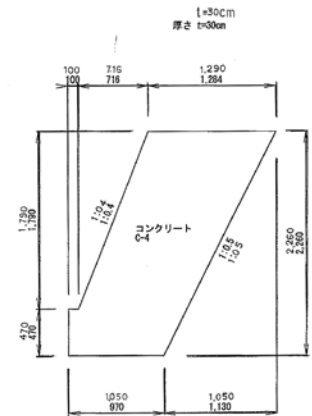
石積工標準断面図



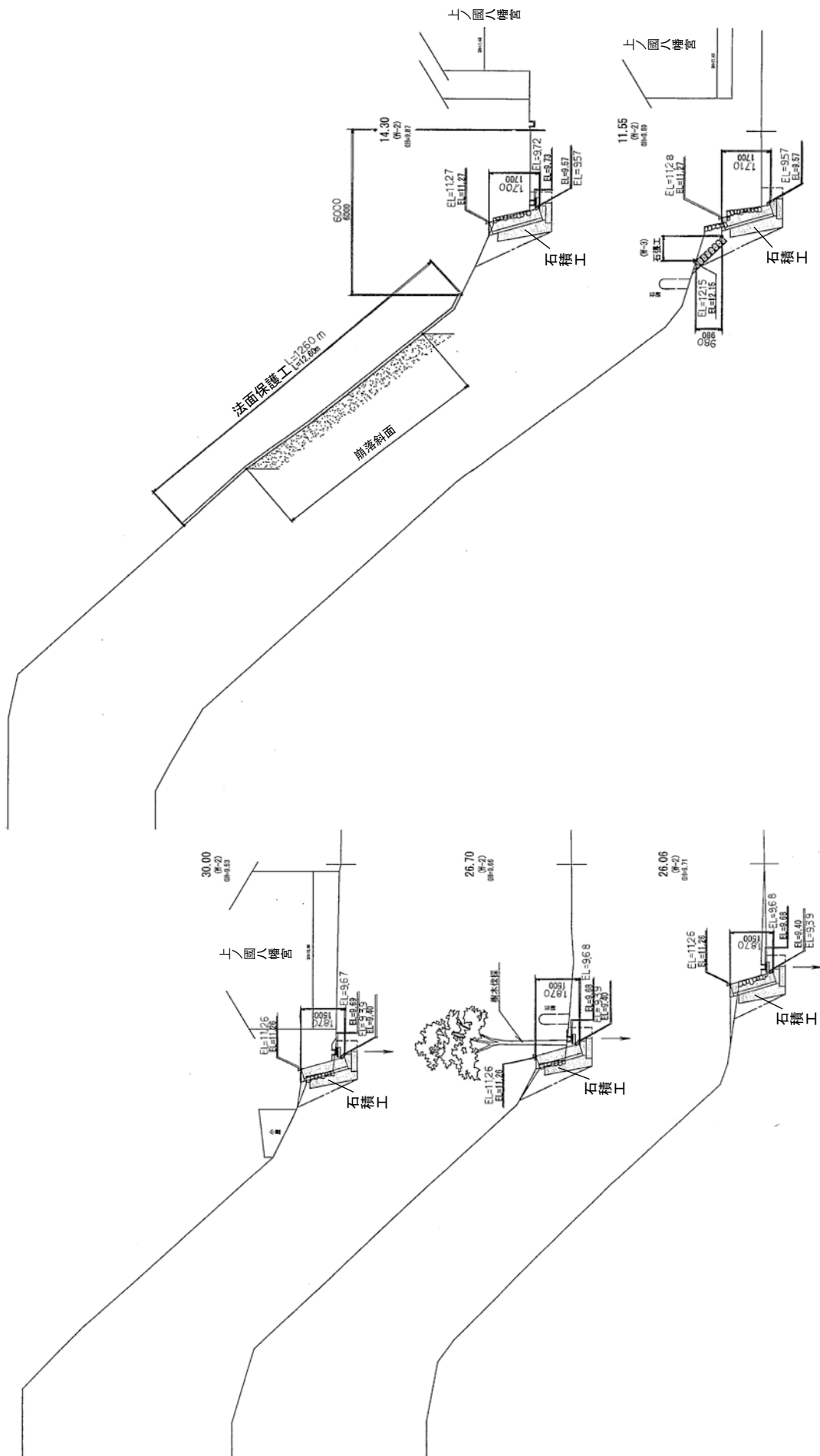
No.1 小口止壁



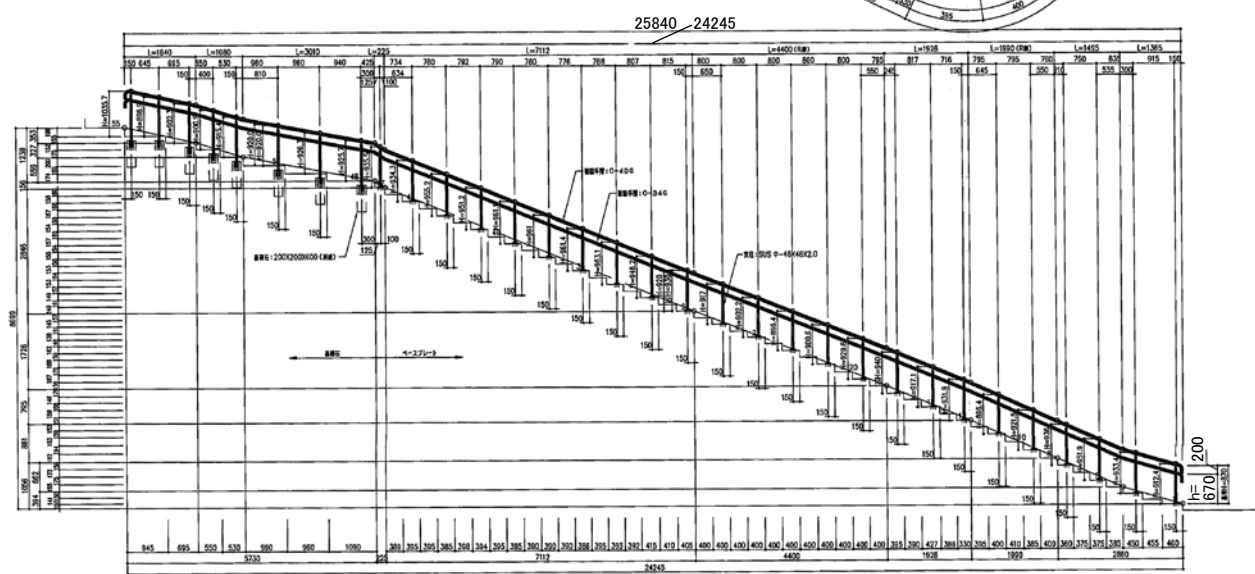
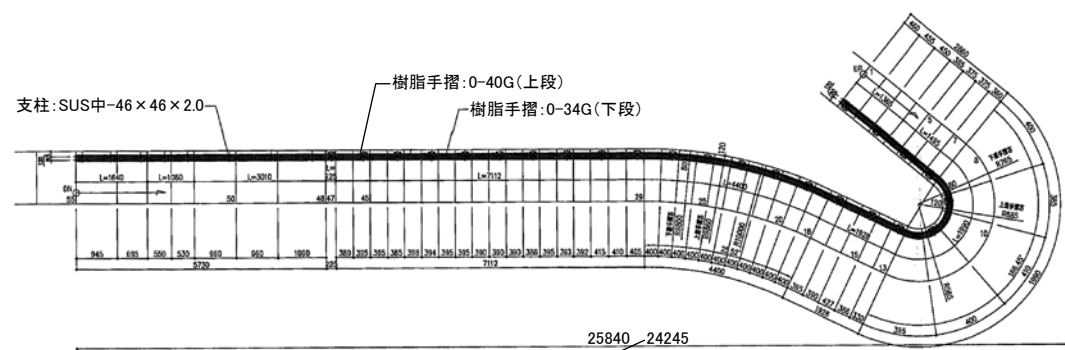
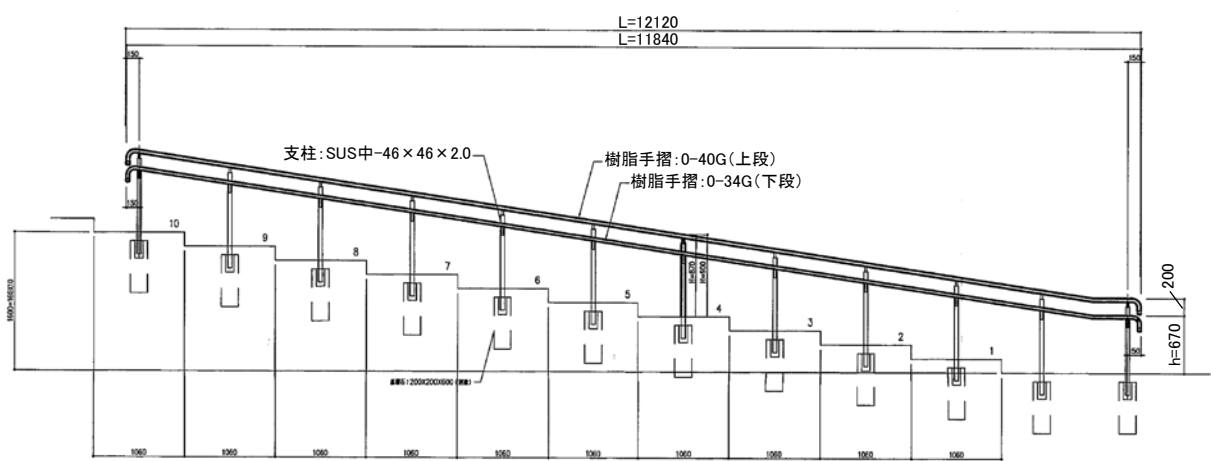
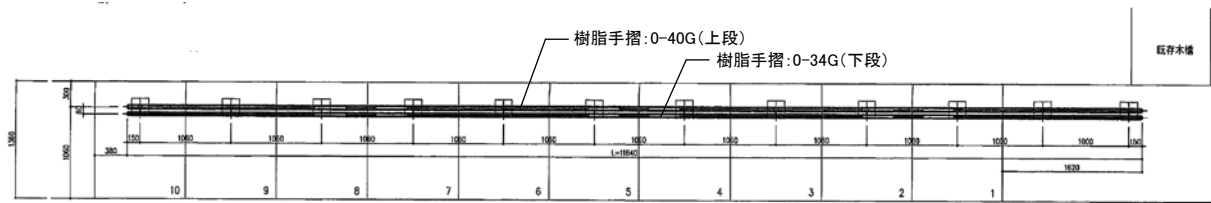
No.2 小口止壁



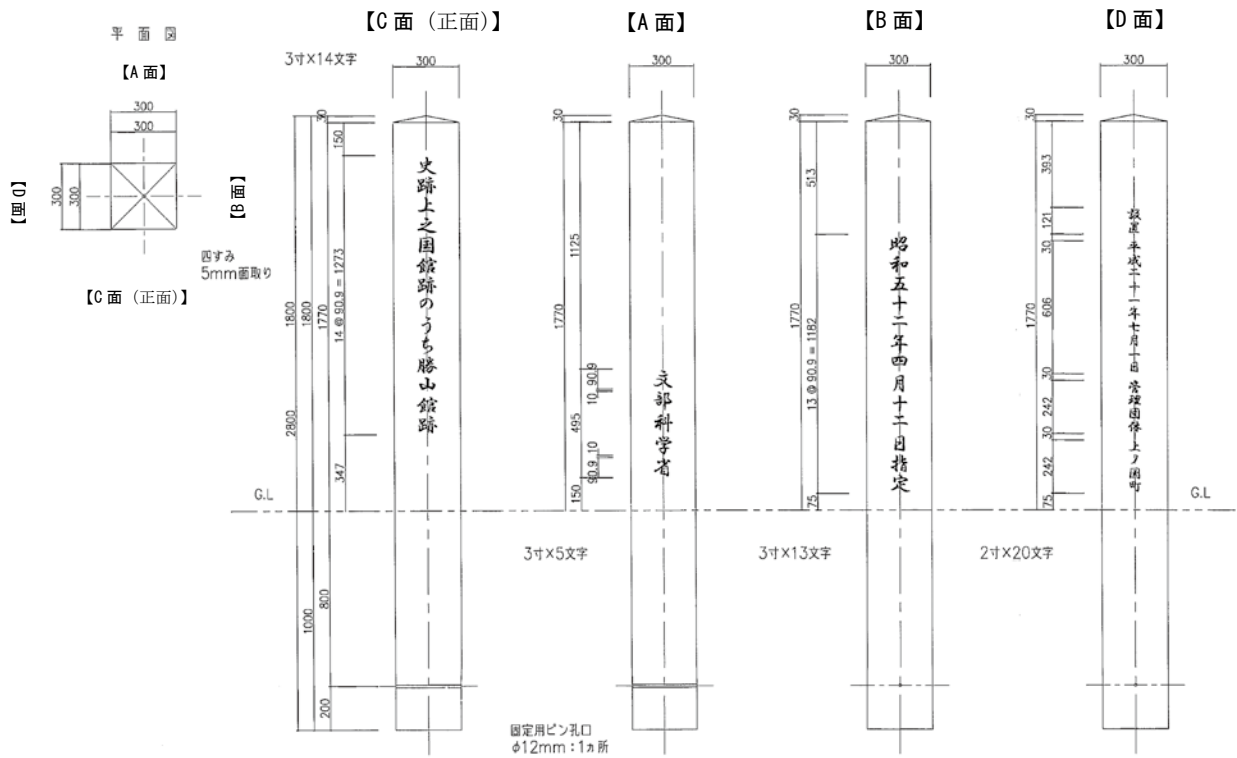
第 33 図 平成 20 年度 史跡上之国館跡（勝山館跡） エントランス石積 整備立面図他



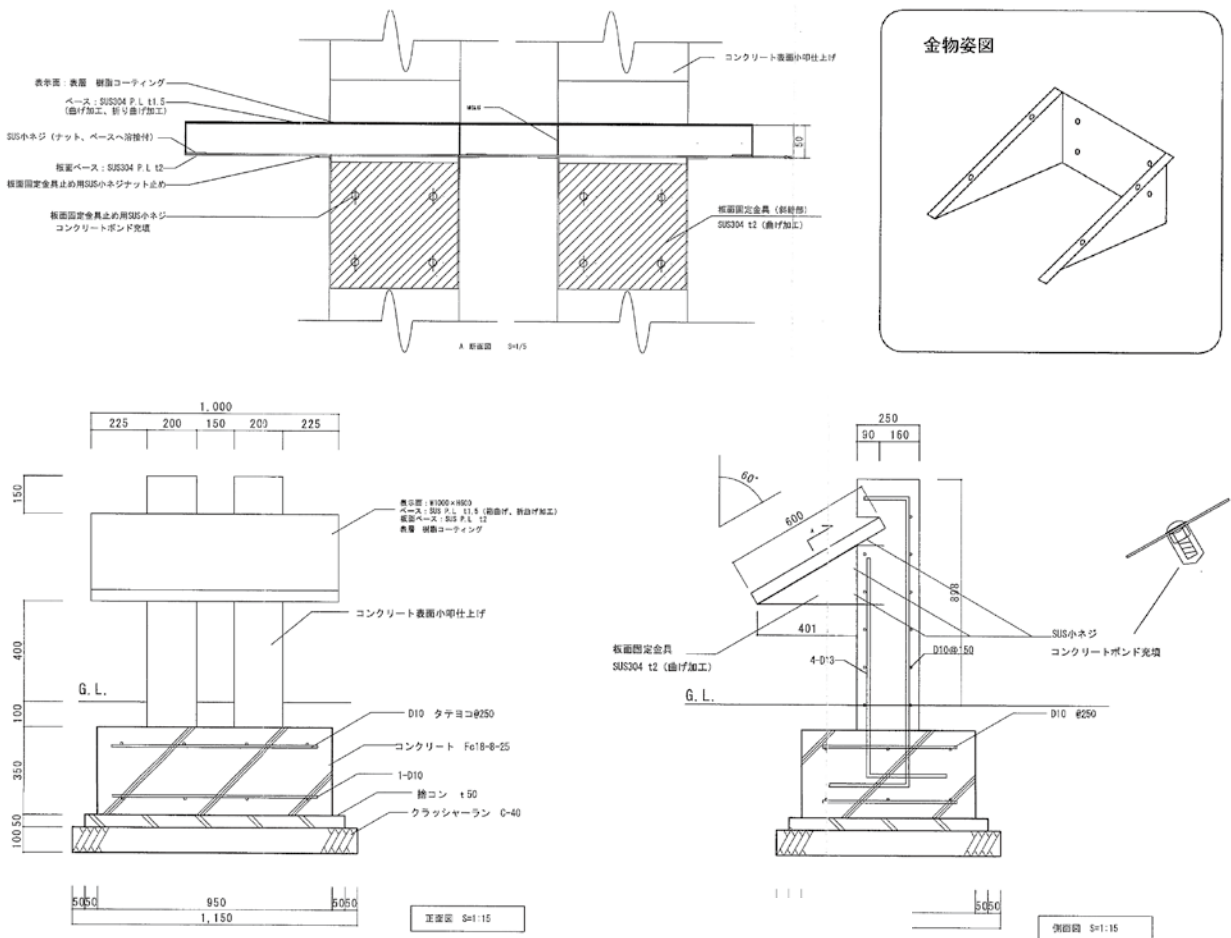
第 34 図 平成 20 年度 史跡上之國館跡（勝山館跡）法面保護 整備立面図他



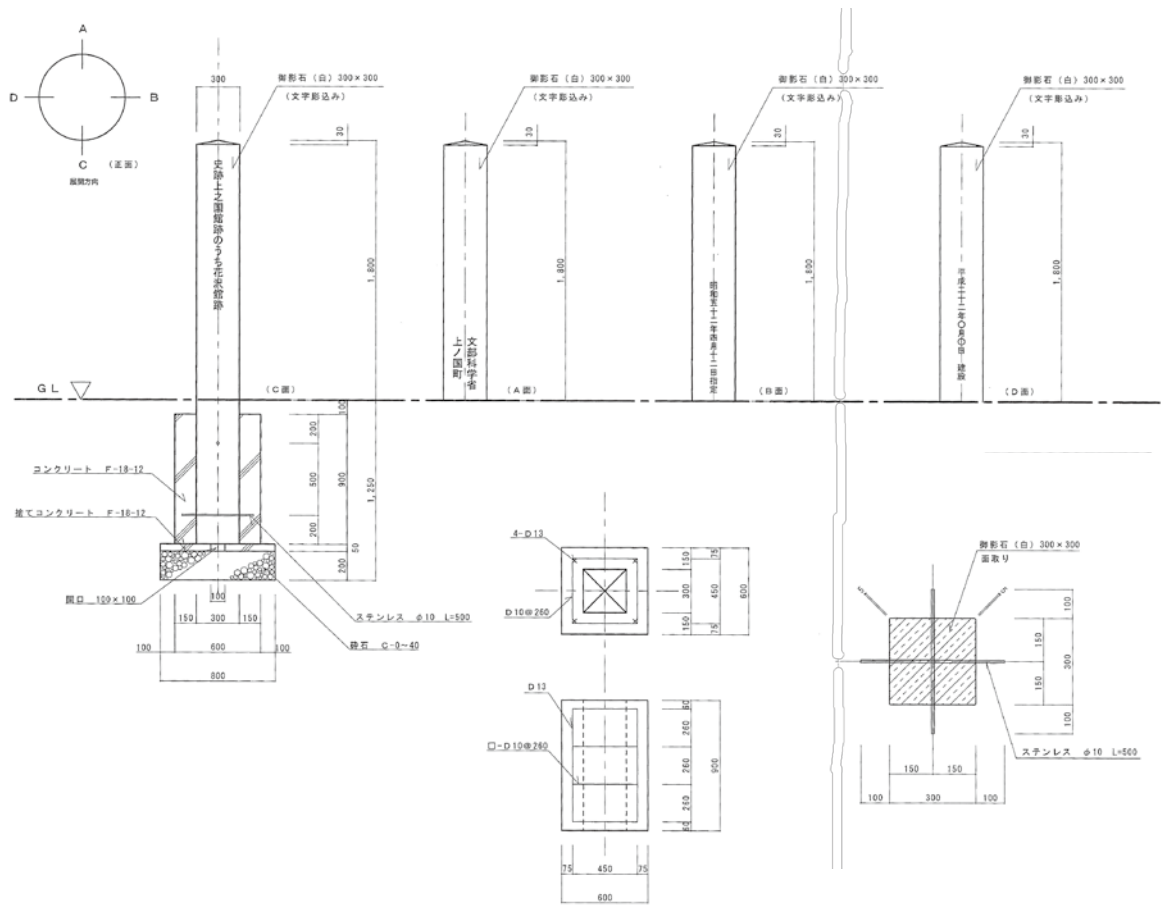
第 35 図 平成 21 年度 史跡上之國館跡 (勝山館跡) 手摺 整備立面図他



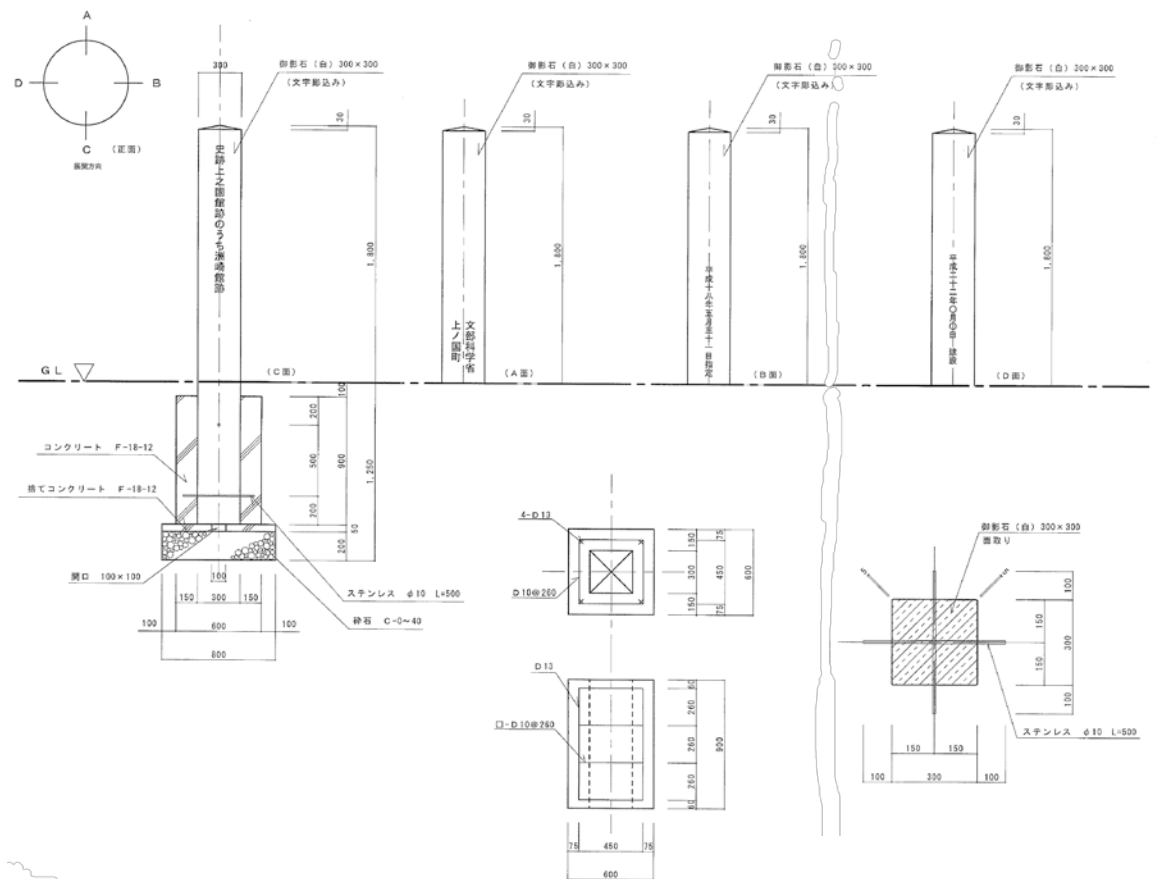
第 36 図 平成 21 年度 史跡上之国館跡（勝山館跡）標柱 整備立面図他



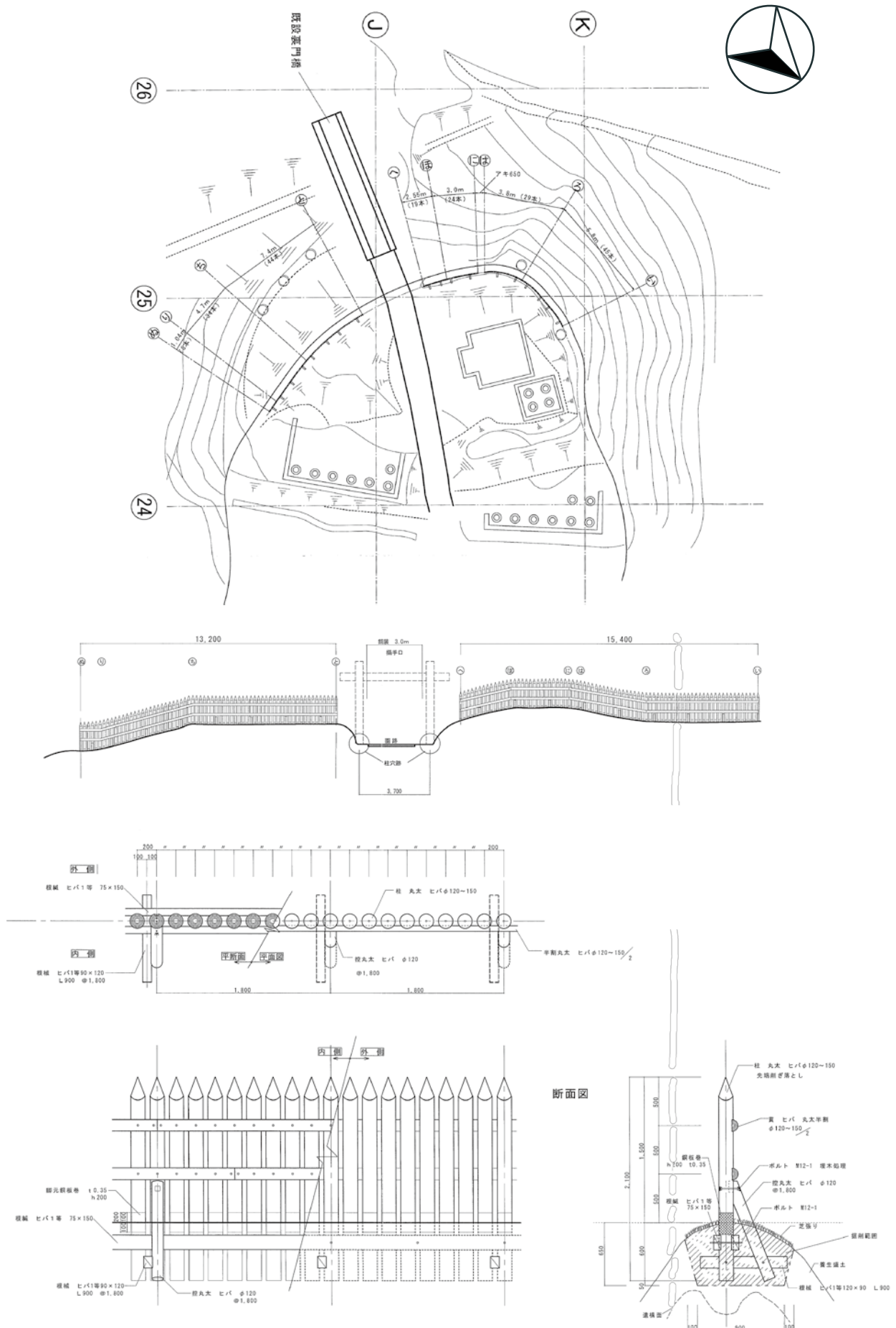
第 37 図 平成 22 年度 史跡上之国館跡（勝山館跡）案内板 整備立面図他



第 38 図 平成 22 年度 史跡上之国館跡 (花沢館跡) 標柱 整備立面図他



第 39 図 平成 22 年度 史跡上之国館跡 (洲崎館跡) 標柱 整備立面図他



第 40 図 平成 22 年度 史跡上之國館跡（勝山館跡） 柵列 整備立面図他

IV 小 括

ここでは、今年度の調査で検出された主な遺構である礎石建物跡、掘立柱建物跡、集石、土葬墓旧道跡について概要を述べる。

1. 礎石建物跡

第1調査区の南側斜面と平行に中世の礎石列(礎石1～6)が検出され、礎石建物跡が想定された。礎石1～3は、礎石が残存していたものの、礎石4～6について後世の攪乱等によって確認できなかった。建物の規模は、礎石列と明瞭に直交する礎石跡が検出されなかったため不明であった。しかしながら、建物南側は第2調査区へ至る斜面が迫っているため、北側へ梁間を持つ建物跡が考えられた。

過年度の勝山館跡主郭とされる第2平坦面の調査では、客殿跡西側に礎石建物が3棟検出されている。上ノ国町史跡整備検討委員の鈴木亘氏は、これらを1～3号礎石建物と名称している(上ノ国町教育委員会1995)。平成3年度に検出された1号礎石建物は、南東-北西に長軸を持ち、4×2間の柱間寸法が約3尺(91cm)の規模と考えられ、その性格について不明とされる。

同3年度に検出された3号礎石建物は、住居の性格が考えられ、客殿と重複している建物である。この建物は、礎石が欠損していたため、規模について不明であったが、南北に並ぶ4個の礎石列の間隔が5～5.2尺(1.5～1.6m)の規模で並んでいた。

また、平成21年度の荒神堂跡周辺の調査では礎石が一部欠損しているものの、3×3間の柱間寸法が約3尺(91cm)の社寺関係と思われる礎石建物跡(礎石列2)が検出されている(上ノ国町教育委員会2010)。そして、今回検出された礎石建物跡は、柱間寸法が約6尺を測り、住居とされる3号礎石建物と規模が類似するため、3号礎石建物と同様の性格が推測された。

建物の年代は、礎石掘方から16世紀末～17世紀初頭の年代観を示す漳州窯系染付碗(第23図-24:同一個体)、唐津瓶(第23図-4)が出土しているため、その頃と考えられた。さらに、そのうちの漳州窯系染付碗は勝山館跡の主郭周辺の発掘調査で確認されない文様を施すものであった。

そのため、礎石建物跡は勝山館が機能していた

時期に構築されていない可能性が高く、勝山館廃絶直後の遺構と考えられた。

2. 掘立柱建物跡

①掘立柱建物跡2

第2調査区中央北側の第1調査区へ至る斜面と平行に過年度の調査成果にから中世の物見跡と考えられる掘立柱建物2が検出された。掘立柱建物跡2の規模は、北西-南東方向に長軸をとり、6×1間(590×170cm)の柱間寸法桁行3～3.6尺・梁間5.6尺である。

過年度における勝山館跡発掘調査で物見とされる建物跡は、勝山館の主郭とされる第2平坦面の大手の柵列際、中央通路の櫓門跡、また大手空壕上などで検出されている。そのうちの'90北7号・'94南15号・'94南45号は、それぞれ第2平坦面端の斜面に平行に構築され、棧敷状の構造が考えられている建物跡である。

掘立柱建物跡2の性格は、'90北7号が615×109cmと細長い規模で類似するため、物見跡の可能性が想定された。また、上屋構造については棧敷状の構造を呈するのか、切妻の屋根を持つ構造なのか明らかにすることができなかった。今後、類例を調査して検討を行いたい。

②掘立柱建物跡1

第2調査区中央で1640年降下のKo-d火山灰を壊して構築される掘立柱建物1が検出された。掘立柱建物跡1の規模は、ほぼ東西に長軸をとり、3×2間(345×182cm)の柱間寸法桁行3.8尺・梁間6尺を測る。

性格は、住居としては小さいことやこの周辺で見られる「タタミ倉」と呼ばれる建物と規模が類似するため、倉の性格が考えられた。

「タタミ倉」は、北海道開拓記念館の村上氏の調査によれば、校倉造りの倉で北海道内では上ノ国町とその周辺にのみ現存が確認されているという(村上1990)。このタタミ倉は、北海道に残る数少ない近世に遡る構造物で、上ノ国町周辺にだけ現存している理由や北海道への技術・様式の移入経路や年代など解明されていない点が多い建物である。

実際に上ノ国町に所在する「タタミ倉」は、近世末～近代に建てられ、形態についてそのほとん

どが桁行3間×梁間2間の切妻平入りの2階建てである。基礎は、玉石や石積みの上に土台を2重に乗せ、大引を渡す構造である。屋根は、石置きの板(桎)葺、瓦葺新しいものでは鉄板葺が確認されている。

掘立柱建物跡1は、基礎が「タタミ倉」と異なって掘立構造であるため、「タタミ倉」よりも年代が古いことが考えられた。そのため、調査成果と合わせると、Ko-d 降下年代の1640年より新しく「たたみ倉」よりも古い江戸時代の構築が想定された。また、屋根についてはその年代から石置きの板(桎)葺が考えられ、建物南側で検出された集石を利用した可能性が考えられた。

3. 集石

第2調査区南側の第3調査区へ至る斜面下で集石が確認された。集石は、雑草・枯葉など除去した程度で認識できるほど地表に露出している状態であった。検出された規模は、幅約1m、長さ約8mで、石は直径10～15cmほどの角礫が多く、その他30～50cmほどの規模のものもみられ、きれいに面取りされたものは確認できなかった。

また、集石の間からは近世末～近代の瀬戸・美濃染付皿、瓦、鉄製品などの遺物が確認された。

石については、前述しているものの規模からも掘立柱建物跡1の屋根に使用したことが考えられた。瀬戸・美濃染付皿と瓦は、第3調査区でも同質のものが表面採集することができ、第3調査区から直下の第2調査区に廃棄されたものではないかと思われた。

4. 第3・4調査区の平坦面

第3・4調査区では、Ko-d 火山灰が降下した1640年以降に平坦面を造成したことが調査より明らかとなっている。その造成の目的は、第3調査区から出土する瓦15点、鉄製品釘94点(和釘26点・洋釘68点)・鏝2点などの構築に関わる遺物が多く出土していることから、建物の構築という可能性が考えられた。構築の年代については、釘の中に洋釘が確認されるため、洋釘を輸入する明治10年以降の近代を想定した。

また、第3調査区では柱穴などの遺構が検出されておらず、年代的な観点から考えて、「タタミ倉」と同様の土台建ての建物の可能性が考えられた。建物の性格については、建物を構築したと思われる長軸約400、短軸約250cmの貼床範囲とした硬

化した箇所、その範囲の規模から倉のような建物を推測した。屋根については、出土した瓦の個体数が少ないものの、瓦葺の可能性が考えられた。

また、第4調査区についても第3調査区と同様の平坦面の造成や範囲がみられたため、構築に関わる遺物はほとんど確認されなかったが、近代に倉と思われる土台建ての建物があった可能性を想定した。

5. 第1～4調査区の平坦面の造成

物見跡の確認調査は、4段の平坦面に第1～4調査区を設定している。各調査区では、人為的な土砂の移動がみられ、調査区の平坦面北側に堆積土(盛土)が確認されている。

これらの盛土は、第1～3調査区で南側の斜面を削平し、第4調査区では調査区東側の旧地形が少し丘上になっていたものを、削平したことで生じたものと考えられた。

このように各調査区では、削平により平坦面を造成していることが確認されているが、その削平の年代について相違がみられたため、層序や調査成果から年代の比定を試みた。

第1調査区では、盛土の堆積が1640年降下のKo-d 火山灰下でみられ、その盛土から16世紀末～17世紀初頭の漳州窯系染付や胎土目段階に併行する唐津碗などが出土している。今回の調査で確認された漳州窯系染付は、勝山館跡主体部の調査ではみられないため、平坦面について勝山館跡が廃絶した直後に削平され、その土砂が盛土されたことが考えられた。

第2調査区では、調査区北側で確認されるKo-d 火山灰が調査区南側でみられなかったため、火山灰降下後の江戸時代に平坦面の造成が考えられた。

第3・4調査区では、盛土の堆積していた層位がKo-d 火山灰上位であったため、1640年以降に平坦面の造成を確認した。

これらのことから、各調査区で平坦面が造成された時期は、第1調査区が勝山館跡廃絶後の16世紀末～17世紀初頭、第2・3・4調査区が1640年以降と推定された。

また、前述のように平坦面造成の目的は建物の構築であり、第3・4調査区では近代に建物の構築が考えられたため、第3・4調査区の平坦面の造成された年代について近代と想定された。

6. 土葬墓

調査では、中世の土葬墓の土壌7基(土壌1～5・16・17)について確認している。土葬墓は、出土遺物や規模・構造から、棺に納められた屈葬と思われる。土葬墓の分布は、第1調査区で6基、第4調査区で1基となり、第5～9調査区では確認されなかった。

検出された土葬墓の年代は、副葬品に寛永通寶を伴わないことや構造から、中世に相当するものと考えられた。マウンド状の盛土は、土壌17を除いて確認されたものの、後世の攪乱や削平のため、規模について十分に把握することができなかった。

被葬者の推定頭位は、ほぼ北東～東の間を指向し、土壌5のみ東南東の方角であった。

副葬品は、土壌16から漆の塗膜片が出土し、漆器が納められていたことが考えられるが、その他の土壌では腐食のためであろうか確認できなかった。銭貨は、北宋銭が多く割合を占め、その他明銭の洪武通寶・永樂通寶が少量みられた(表49)。

7. 旧道跡

第5～9調査区では、勝山館跡の旧道を確認する目的で調査を実施している。

第9調査区では、調査区西側の寺ノ沢へ至る斜面の堆積土から土地利用の変遷を考察した。堆積土の層序からは、中世に平坦面を造成し、1640年降下のKo-d火山灰降下後に道路としての性格を持つ溝2を掘削したことが考えられた。その結果、当初勝山館跡の旧道として考えられた溝2は、勝山館廃絶後に構築された道路であることが明らかとなった。

また、中世の段階で平坦面を造成した目的は、台地から見下ろす位置に道路を構築して、敵の侵入などを見張る理由が考えられる(上ノ国町史跡整備検討委員の松崎氏のご教示による)。事実、第5調査区の自然研究路下位において、道路と思われる玉砂利が多く含まれた層が確認されている。

そのため、今年度の調査では当時の道路が現在の自然研究路である場所に構築された可能性が高いことが考えられた。

V まとめ

平成19年度より、勝山館大手空壕正面の第一平坦面から国道228号線沿いの上ノ国八幡宮社務所裏の物見跡推定地までの間の旧道やそれに付随する施設等の発掘調査を実施した。

旧道跡は、過去4年間の調査を通じて当時の道路の痕跡をほとんど検出することができなかった(附図)。要因としては、江戸時代の参道・代参道路と思われる遺構に壊されていること、勝山館の旧道の位置が江戸時代の参道、また現在の自然研究路とほぼ同じであったことも大きな理由であった。

想定される当時の旧道のルートは、中央通路として第二・三平坦面より大手の空壕を渡り第一平坦面へと続き、その直下へ至る直前で東の方角に湾曲し、溝21とされる窪みもしくは近世道路とした箇所へ延びることが想定された。そして、現在の自然研究路に合流する地点で北東へ屈曲し、空壕Cの橋跡を渡り、ほぼ自然研究路上を經由して'08年調査のトレンチ5まで延びることが想定された。

その先では、'08トレンチ6、'08トレンチ7・

8の'08溝11を經由して'09溝3へ接続することが考えられた。さらに、'08溝が自然研究路と合流する地点で東へ屈曲して、自然研究路とほぼ同位置で第1～4調査区脇まで延びることが推測された。

それより下では、発掘調査を実施していないが、慶応2年(1866)の上ノ国の絵図・地籍図から第1調査区直下と上ノ国八幡宮社務所(旧若宮社)裏を經由して、上ノ国八幡宮の参道へ合流する至るルートが想定されている(42・43図)。

旧道跡周辺の遺構では、第一調査区直下で空壕C、土葬墓、火葬墓、荒神堂跡階段下で礎石列2とした礎石建物跡、また今年度調査で検出された物見跡、礎石建物跡などがある。

空壕Cは、勝山館の虎口とされる箇所で検出され、これにより主郭とされる第二・三平坦面だけでなく、第一平坦面へ至る入口もと固く防御していたことが判明した。また、その空壕を渡る施設についても木橋から土橋へ変化していることが考えられた。

荒神堂跡は、現在荒神堂跡とされる箇所が江戸時代に再建された荒神堂であることが明らかとなった。当初の荒神堂は、石積みの階段下から検出された礎石列2とした礎石建物跡の可能性が考えられた。また、筆者は報告書『史跡上之国館跡Ⅱ』の中で荒神堂の創建を『新羅之記録』（1649）の天文18年（1549）の記事で「新たに御堂を造営し冥慮を崇め奉るなり。」をもってそれとしたが、上ノ国町史跡整備検討委員の鈴木亘氏より、新たに造営したのは洲崎館に所在した毘沙門堂であるとの指摘を受けた。この場を借りて訂正をすると共に、誤った記載についてお詫び申し上げたい。

物見跡は、第二平坦面及びその直下の大手空壕以外での検出が初めてであった。

過年度の物見跡の役割は、その立地から主郭に侵入する敵などを監視する役割であったと思われる（41図）。一方、今年度の検出された物見跡は標高約20mの平坦面からの眺望が港湾施設が所在したと思われる正面の海浜とその北の江差方面を一望する。そのため、第2調査区で検出された物見跡は、港湾施設などに往来する船舶や天ノ川より北の人の往来を監視する目的が大きかったことが考えられた。

第1調査区（字勝山415番地）では、土地台帳の宅地の記載から旧笹浪家の蔵の検出が期待されたが、後世の攪乱などにより明確に捉えることができなかった（42図）。

一方、第3・4調査区では、遺構として明瞭な痕跡がみえない中、一つの可能性として土台建ての倉の存在を想定した。こういった建物跡が「タタミ倉」であるのか、現存する「タタミ倉」の以前の位置などを地権者への聞き取り調査を行って、明らかにしていきたい。

礎石建物跡は、200棟近い掘立柱建物跡が検出している第二・三平坦面で3棟のみ確認されているものが、過去4年間の調査で荒神堂跡周辺（2棟）や今年度の第1調査区の礎石建物跡の3棟が検出されている。道内で中世における礎石建物跡の類例について確認できなかったが、津軽海峡を挟んだ青森県では、山王坊遺跡（五所川原市）、高伯寺跡（大鰐町）、大浦城跡（岩木町）、浪岡城（青森市）などで検出されている（青森県2003）。その性格は、宗教関係や住居に用いられる事例が確認されている。大浦城では、本丸とされる曲輪Ⅰ

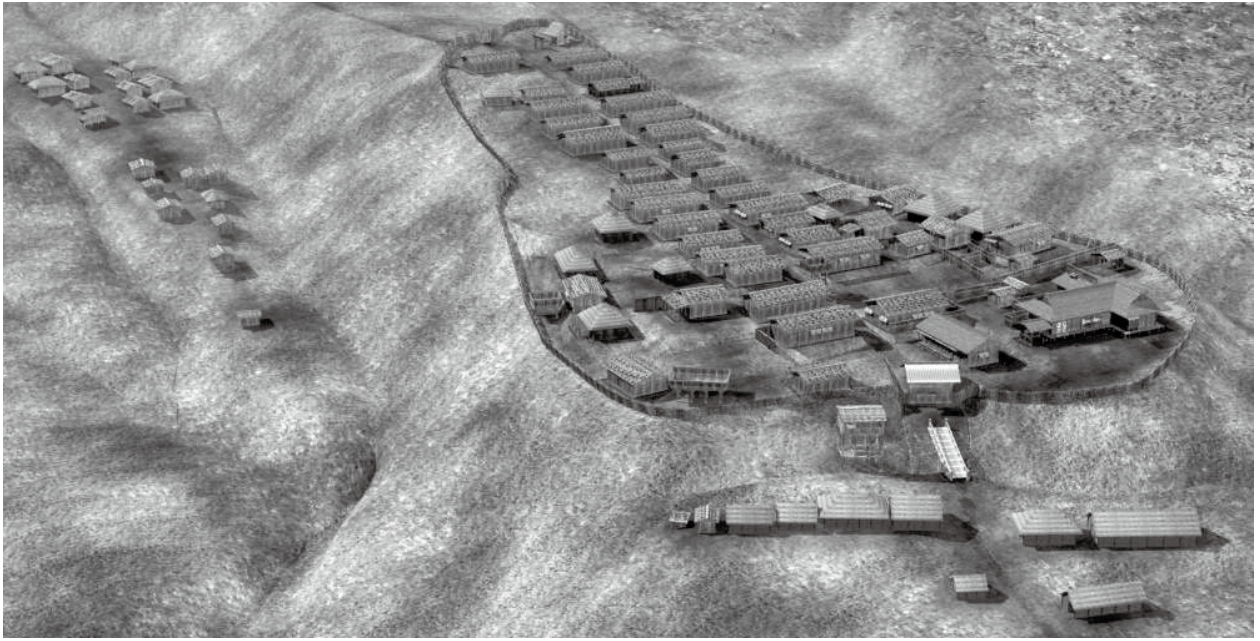
から検出され、浪岡城では内館の主殿に相当する建物跡に礎石が用いられており、通常の住居よりは格式の高い建物であることが窺われる。このことは、上ノ国に慶長元年（1596）檜山番所が置かれたという言い伝えがあり、今年度検出の礎石建物跡も年代的にも合致しており、檜山番所としての可能性が考えられた。檜山番所は、1999年度の勝山館跡の周辺分布調査で檜山番所もしくはそれに付属する建物と考えられる柱穴跡が検出されている（上ノ国町教育委員会2000）。但し、檜山番所は延宝6年（1678）江差に移るが、礎石建物跡周辺から古伊万里などの17世紀前～中頃の肥前系磁器があまり出土しなかったことなどを考えると建物の存続年代について疑問が残るため、慎重に検討を行いたい。

墓域は、従来勝山館跡後方の夷王山墳墓群に形成されていたと思われたが、過去4年間の調査で勝山館の前面で21基もの墓が確認されている。その内訳は、中世の土葬墓12基・火葬墓1基、近世土葬墓6基、中～近世墓2基である。

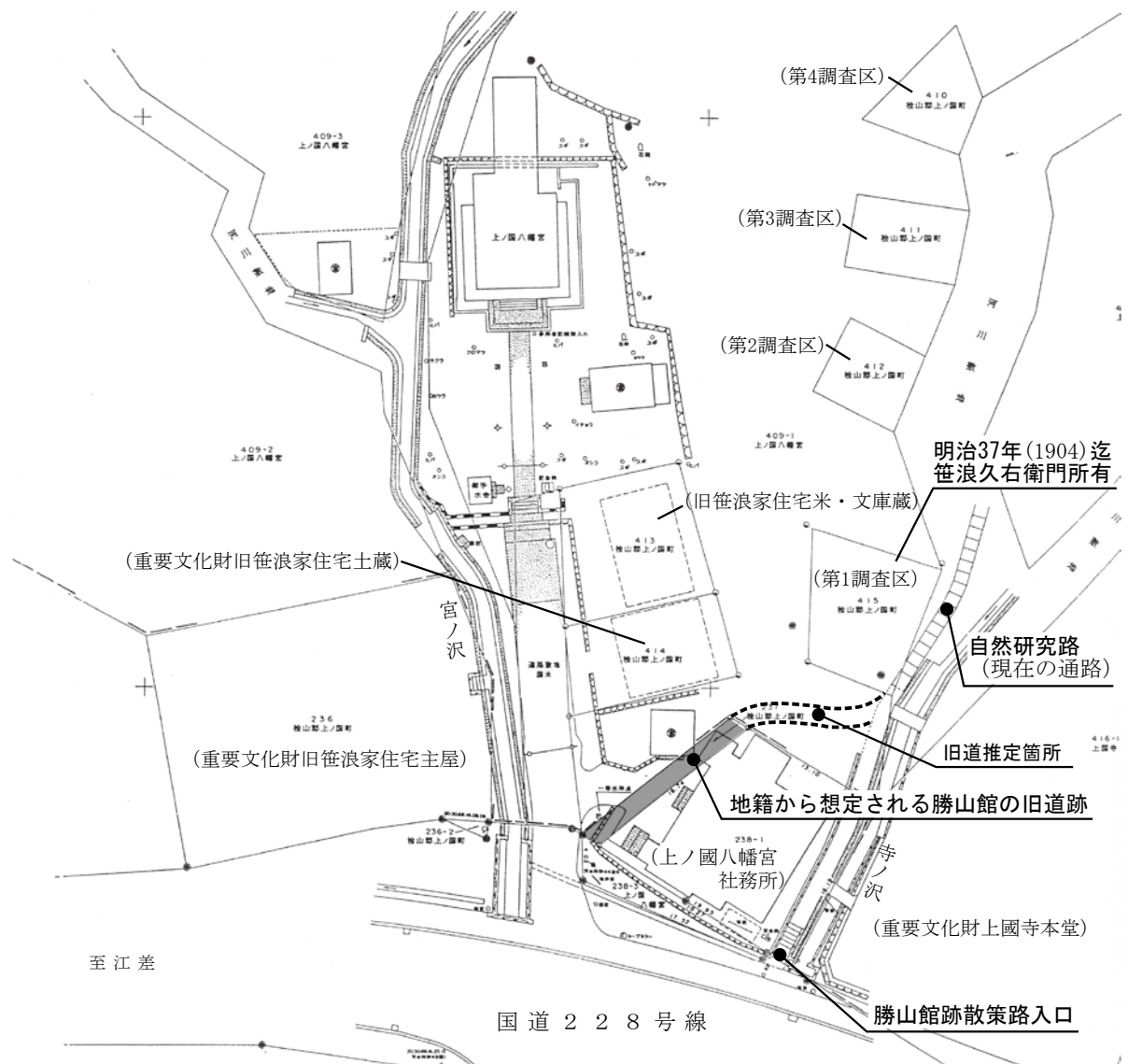
これらの墓は、夷王山墳墓群と比較した場合、墓の規模、構造や副葬品として用いられる銭の組成や数量に差異などみられなかった。しかしながら、夷王山墳墓群では近世墓が確認されていないのに対し、前面の墓域では近世墓まで確認されているという違いがあった。近世墓が勝山館の前面に構築されることについては、館廃絶後に館の前面が上國寺の墓域として利用されていたことが考えられた。

最後に、本年度をもって昭和54年から継続してきた勝山館跡の発掘調査・整備事業が終了しました。事業当初から、勝山館跡の調査に携わって頂いた多くの方々には、深く御礼申し上げます。皆さまのお力添えにより、これまでなんとか事業を推進することができました。今後は、これまでの課題を解消しつつも史跡上之国館跡（花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡）として、3つの館跡が持つ本質的な価値を評価し、地域に活用していけるよう努力して参りたいと思います。

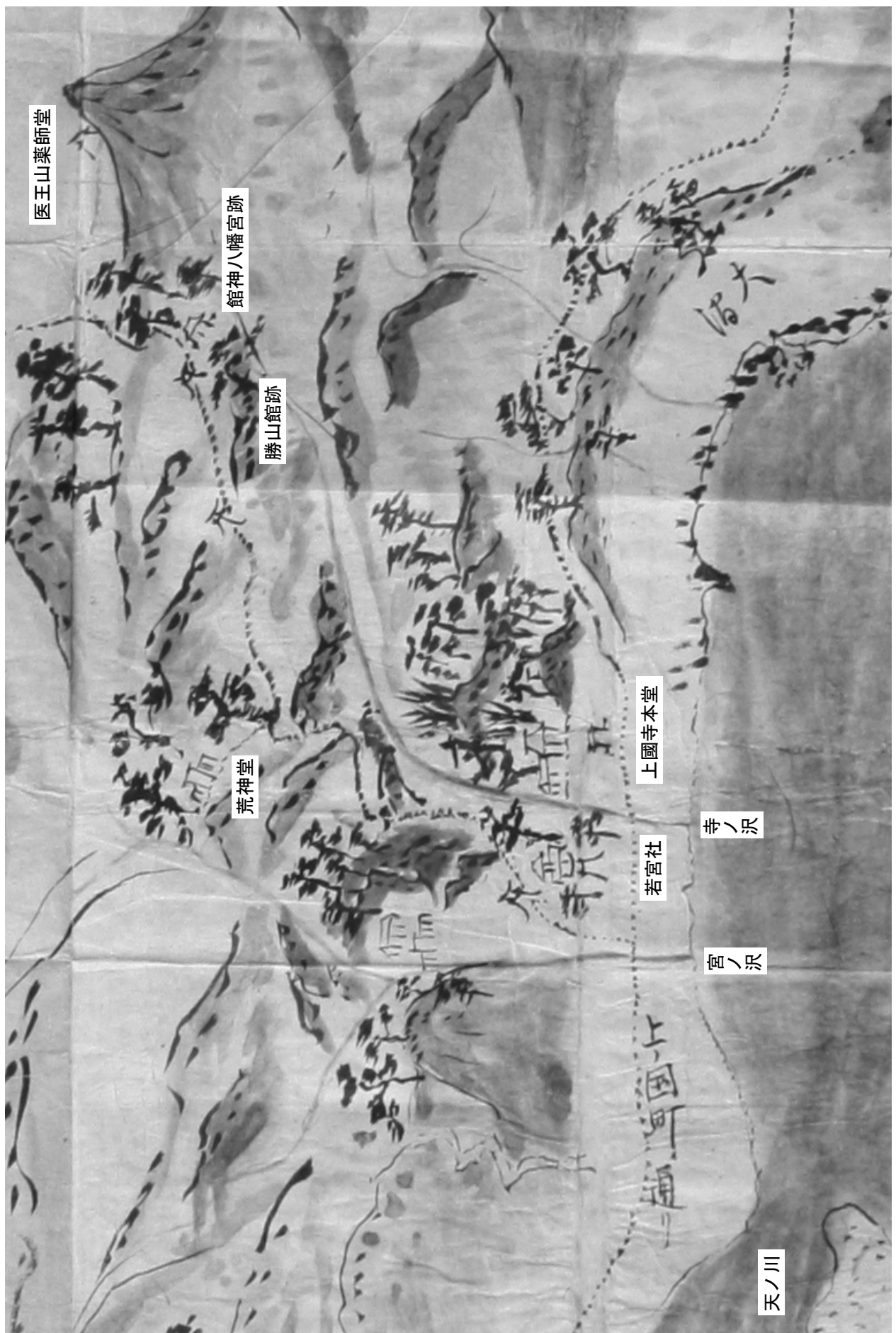
末尾ではありますが、今回の調査に関しまして快諾して頂いた地権者や地域の方々に感謝を申し上げますと共に、不備な点につきましては多くの皆様にご指導・ご鞭撻をお願いして補うこととし、結びとしたい。



第41図 勝山館跡復元CG (NHKビジョン提供)



第42図 上ノ国八幡宮周辺地籍図



第43図 慶応2年(1866)頃 上ノ国絵図 (北海道大学附属図書館北方資料室所蔵)
(一部文字による加筆。)

写真図版



1. 第1調査区 東側完掘 (北東から)



2. 第1調査区 北西側完掘 (東から)



3. 第1調査区 礎石建物跡 検出状況 (南東から)



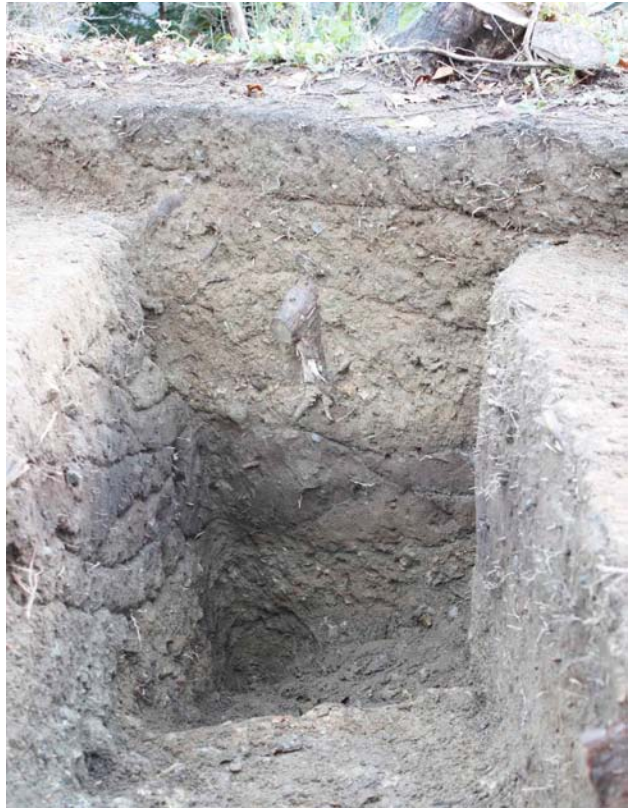
4. 土葬墓 (土壙4) 人骨検出状況 (南から)



5. 第2調査区 掘立柱建物跡1・2 検出状況 (南から)



1. 第3調査区 西側完掘 (南から)



2. 第3調査区 西側トレンチ完掘 (南から)



3. 第4調査区 土壌17 棺内検出状況 (北から)



4. 第4調査区 土壌17 棺内検出状況 (西から)



5. 第4調査区 近世盛土 検出状況 (北から)



6. 第4調査区 Ko-d火山灰 検出状況 (東から)



1. 第5調査区 道路跡（中世）セクション（北から）



2. 第5調査区 完掘（東から）



3. 第6調査区 溝2（道路跡、近世以降）検出状況（南から）



4. 第8調査区 溝2（道路跡、近世以降）検出状況（南西から）



5. 第9調査区 溝2（道路跡、近世以降）検出状況（北東から）



6. 第9調査区 中世～近世盛土 検出状況（北から）



1. 勝山館跡登り口（北から）



2. 勝山館跡登り口（北東から）



3. 勝山館跡主郭と華ノ沢倉庫群分岐点（南西から）



4. 勝山館跡主郭とゴミ捨て場跡分岐点（南から）



5. 勝山館跡主郭とレストハウス、ガイダンス施設分岐点（西から）



6. 勝山館跡下り口（南から）



7. 勝山館跡主郭 櫓門整備前（南西から）



8. 勝山館跡主郭 櫓門整備後（南西から）



1. 上ノ國八幡宮社務所北側 エントランス石積整備前（北から）



2. 上ノ國八幡宮社務所北側 エントランス石積整備後（北から）



3. 上ノ國八幡宮社務所北側 エントランス石積整備前（北西から）



4. 上ノ國八幡宮社務所北側 エントランス石積整備後（北西から）



5. 上ノ國八幡宮西側 石積整備前（南から）



6. 上ノ國八幡宮西側 石積整備後（南から）



7. 上ノ國八幡宮西側 法面保護整備前（東から）



8. 上ノ國八幡宮西側 法面保護整備後（東から）



1. 勝山館跡散策路入口 手摺整備前 (北から)



2. 勝山館跡散策路入口 手摺整備前 (北から)



3. 勝山館跡散策路入口 手摺整備後 (北から)



4. 勝山館跡散策路入口 手摺整備後 (北から)



5. 勝山館跡 標柱設置前 (西から)



6. 勝山館跡 標柱設置後 (西から)



7. 勝山館跡 標柱設置後 (南西から)



8. 勝山館跡 標柱設置後 (北西から)



1. 勝山館跡 案内板設置 (北から)



2. 勝山館跡 案内板



3. 花沢館跡 標柱設置前 (北から)



4. 花沢館跡 標柱設置後 (北から)



5. 洲崎館跡 標柱設置前 (南から)



6. 洲崎館跡 標柱設置後 (南から)



7. 勝山館跡 柵列整備 (南西から)



8. 勝山館跡 柵列整備 (東から)



1. 陶磁器



2. 瓦 (集石出土)



3. 鉄製品



4. 土葬墓 (土壙 1) 副葬品 錢貨



5. 土葬墓 (上段 : 土壙 3、下段 : 土壙 5) 副葬品 錢貨



6. 土葬墓 (土壙 4) 副葬品 錢貨



7. 土葬墓 (右下 1 点 : 土壙 10、他土壙 17) 副葬品 錢貨



8. 縄文土器 (後期～晚期)



1. 第1調査区 調査前風景 (南から)



2. 遺構検出状況 土壌1・3・4・5・6、溝1 (南から)



3. 土壌1 検出状況 (南から)



4. 土壌1 セクション (南から)



5. 土壌1 遺物(釘・銭貨)検出状況(北から)



6. 土壌4(右) 人骨出土状況(南から)



7. 土壌3 遺物(釘・銭貨)出土状況(西から)



8. 土壌3 溝1 完掘(南から)



1. 土壌3 セクション (東から)



2. 土壌4 セクション (南から)



3. 土壌5 半截 (北から)



4. 土壌5 セクション (南から)



5. 土壌6 Pit 1 半截 (北から)



6. 第1調査区 (北西側) 遺構検出状況 (南から)



7. 第1調査区 (北西側) 遺構検出状況 (西から)



8. 第1調査区 (西側) 完掘 (南から)



1. 土坑 16 検出状況 (北から)



2. 土坑 16 セクション (北から)



3. 礎石列 (礎石建物跡) 検出状況 (北から)



4. 礎石列 (礎石建物跡) 検出状況 (西から)



5. 礎石 6 遺物出土状況 (北から)



6. 溝 4 (近世末、旧道跡) 検出状況 (東から)



7. 礎石列 (礎石建物跡) 検出状況 (東から)



1. 溝4 (近世末、旧道跡) 完掘 (南から)



2. 溝4 (近世末、旧道跡) 完掘 (南から)



3. 溝4 (底面) 炭・礫範囲 検出状況 (北から)



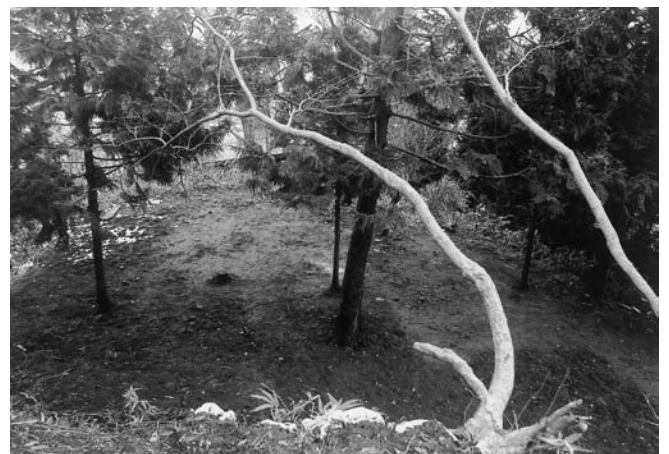
4. 溝4 (底面) 炭・礫範囲 検出状況 (北から)



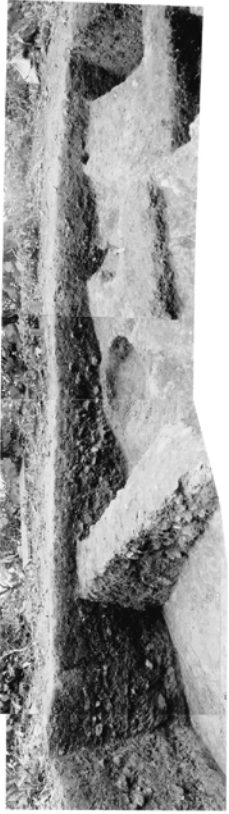
5. 溝1 (近世以降) 完掘 (北から)



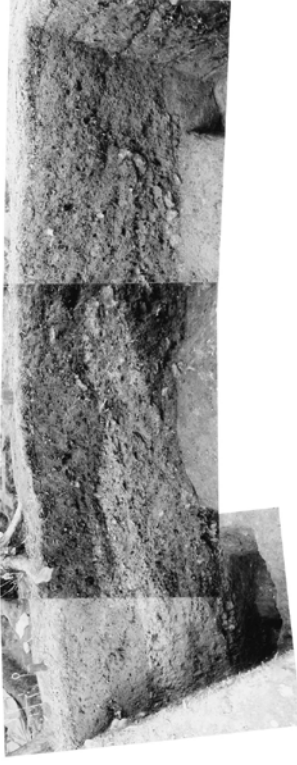
6. 溝1 (近世以降) 完掘 (南から)



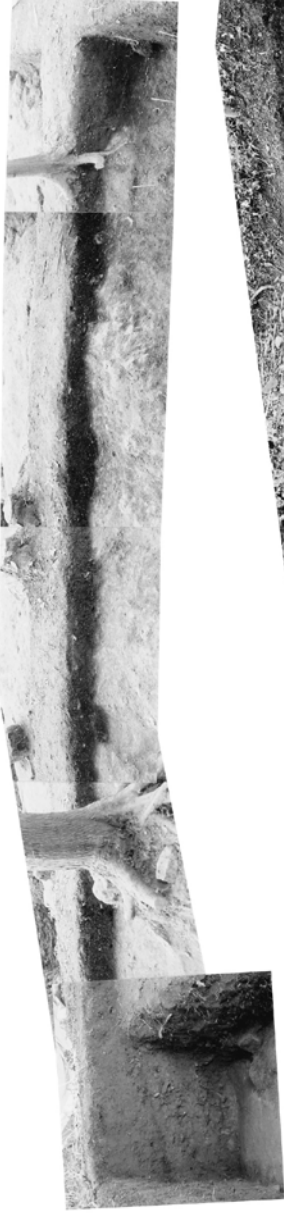
7. 第1調査区 調査終了状況 (南から)



1. 第1調査区 (SPA~SPA' 2J13.17.18) 北壁 セクション (南から)



3. 第1調査区 (SPC~SPC' 2J19.20) 東西ベルト南壁 セクション (北から)



2. 第1調査区 (SPD~2J22.23.2J19) 北壁 セクション (南から)



4. 第1調査区 (SPE'~SPE'' 2J24.25.3J2.3) 南壁 セクション (北から)



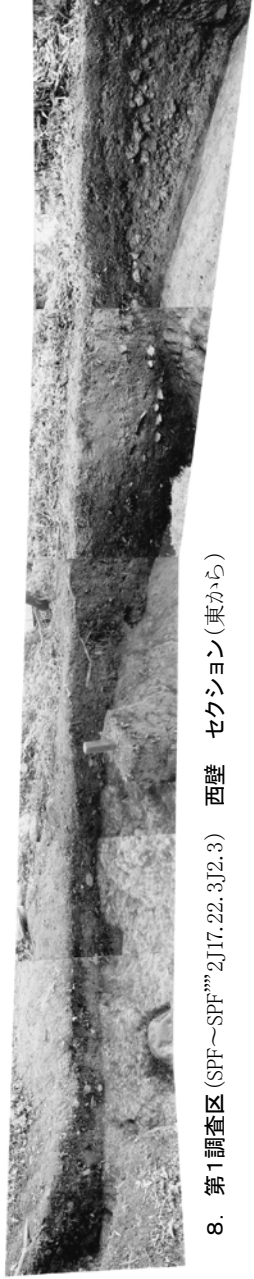
5. 第1調査区 (SPE~SPE' 2J25) 礎石6 半截 (北から)



6. 第1調査区 (2J25) 礎石6 セクション (北から)



7. 第1調査区 (SPG~SPG' 2J25) 西側 南北ベルト セクション (東から)



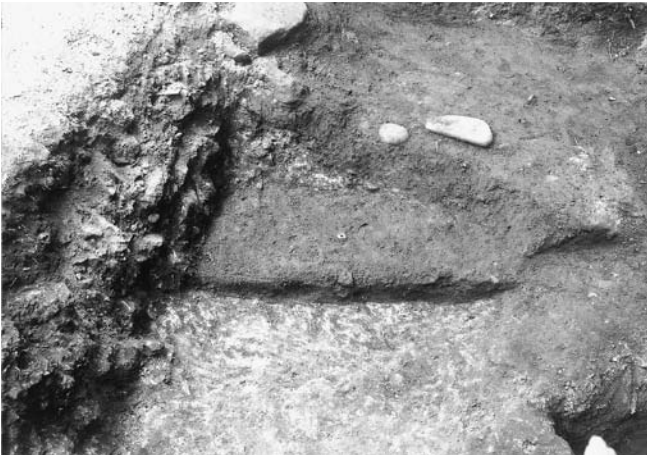
8. 第1調査区 (SPF~SPF'' 2J17.22.3J2.3) 西壁 セクション (東から)



1. 第2調査区 調査前風景 (西から)



2. 土壌10 セクション (西から)



3. 土壌10 副葬品(銭貨) 出土状況



4. 西側遺構検出状況 (南から)



5. 東側遺構検出状況 (南から)



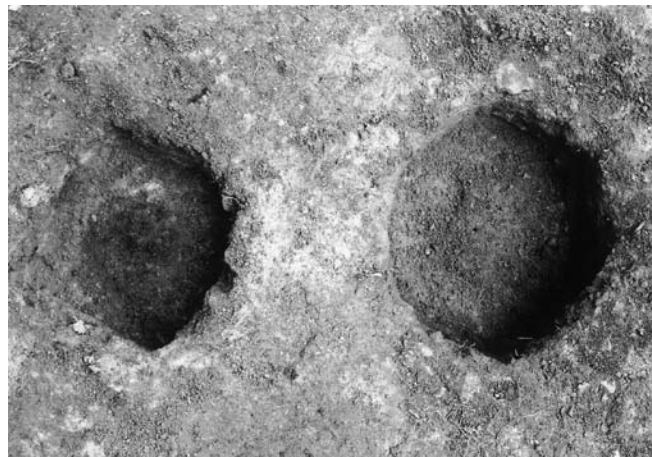
6. 掘立柱建物跡1・2 検出状況 (南から)



7. 集石 検出状況 (東から)



1. 掘立柱建物跡1 検出状況 (東から)



2. Pit15 (左)・Pit18 (右) 柱痕跡 検出 (南から)



3. 第2調査区 調査風景 (南から)



4. 第2調査区 調査終了状況 (南から)



5. 第3調査区 調査前風景 (南から)



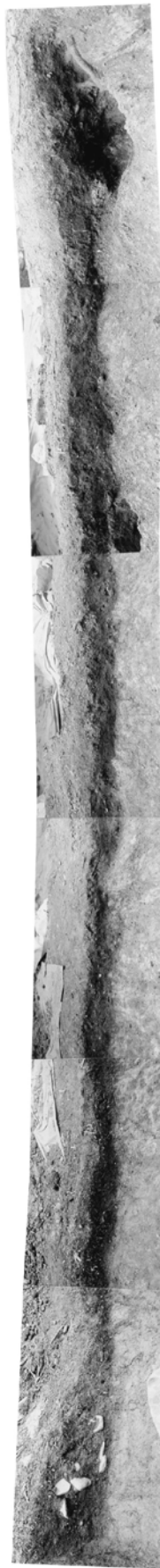
6. 第3調査区 加工石出土状況 (西から)



7. 第3調査区 平坦面削平 (北から)



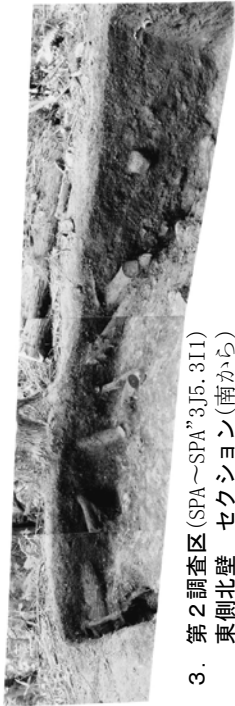
8. 第3調査区 (東側) 遺構検出状況 (西から)



1. 第2調査区(SPB~SPB'', 3I16~3I1) 南北ベルト セクション(東から)



2. 第2調査区(SPC~SPC', 3J9~3J5) 西側北壁 セクション(南から)



3. 第2調査区(SPA~SPA'', 3J5, 3I1) 東側北壁 セクション(南から)



4. 第3調査区(SPC~SPC'', 3I18, 3I13) トレンチ 西壁セクション(東から)



5. 第3調査区(SPB~SPB'', 3I23, 3I18, 17, 12) 南北ベルト セクション(東から)



6. 第3調査区(SPA~SPA'', 3I19, 20, 23) 南壁 セクション(北から)



7. 第3調査区(SPF~SPF', 3I21) 西壁 セクション(東から)



8. 第3調査区(SPD~SPD', 3I16, 17, 22) トレンチ 西壁 セクション(東から)



1. 第3調査区(東側) 遺構検出状況(南から)



2. 第3調査区(東側) 完掘状況(西から)



3. 第3調査区(西側) 完掘状況(南から)



4. 第3調査区 調査風景(南から)



5. 第3調査区 調査終了状況(南から)



6. 第4調査区 調査前風景(南西から)



7. 第4調査区(東側) 遺構検出状況(南から)



8. 第4調査区(東側) 遺構検出状況(北東から)



1. 第4調査区 東壁 セクション (西から)



2. 第4調査区 東壁 セクション (西から)



3. 第4調査区 (北東側) 完掘 (南から)



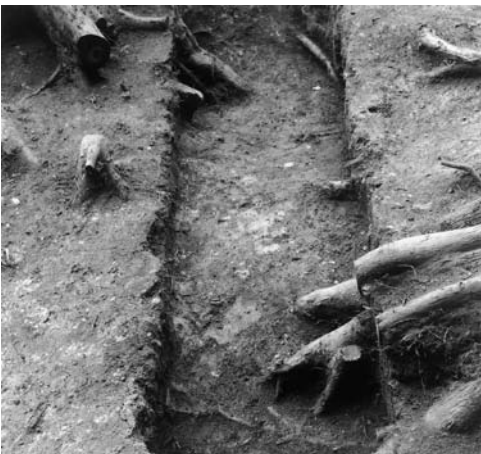
4. 第4調査区 (南側) 遺構検出状況 (東から)



5. 第4調査区 (西側) 盛土検出状況 (北西から)



6. 第4調査区 (西側) 盛土検出状況 (南東から)



7. Ko-d 火山灰 検出状況 (西から)



8. 第4調査区 (北西側) 遺構検出状況 (東から)



1. 土壌 17 検出状況 (西から)



2. 土壌 17 棺内掘削状況 (東から)



3. 土壌 17 セクション (西から)



4. 土壌 17 遺物 (銭貨) 出土状況 (西から)



5. 土壌 17 遺物 (釘・銭貨) 出土状況 (北から)



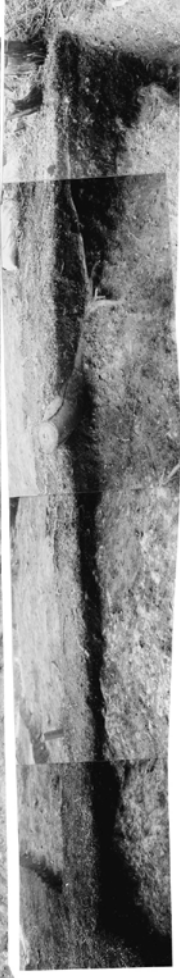
6. 土壌 17 遺物 (釘) 出土状況 (北から)



7. 第4調査区 調査終了状況 (南西から)



1. 第4調査区(SPB'~SPB''', 4I18. 9.13) 東西ベルト セクション(南西から)



2. (1の続き SPB'''~SPB'''' 4I15. 9.10) 東西ベルト セクション(南西から)



3. 第4調査区(SPA~SPA', 4I4. 5) 北壁 セクション(南から)



4. 第4調査区(SPE~E', 4I14.15) 西壁 セクション1(北東から)



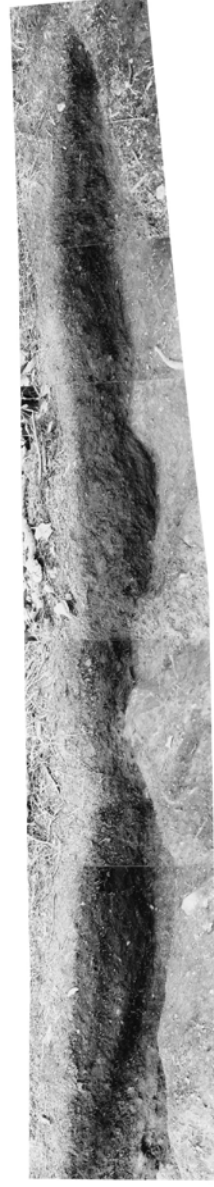
5. 第4調査区(4の続き ~SPE'', 4I14) 西壁 セクション(北東から)



6. 第4調査区(5の続き SPD~SPD'', 4I13) 西壁 セクション(東から)



7. 第4調査区(6の続き SPC~SPC', 4I7. 8) 西壁 セクション(東から)



8. 第4調査区(SPH~SPH'', 4I10.15) 南壁 セクション(北から)



9. 第4調査区(SPG~SPG', 4I9. 10.15) 南北ベルト セクション(南東から)



10. (9の続き ~SPG''~SPG''', 4I4. 9) 南北ベルト セクション(南東から)



1. 第5調査区 調査前風景 (北東から)



2. 第5調査区 遺構検出状況 (東から)



3. 第5調査区 遺構検出状況 (北から)



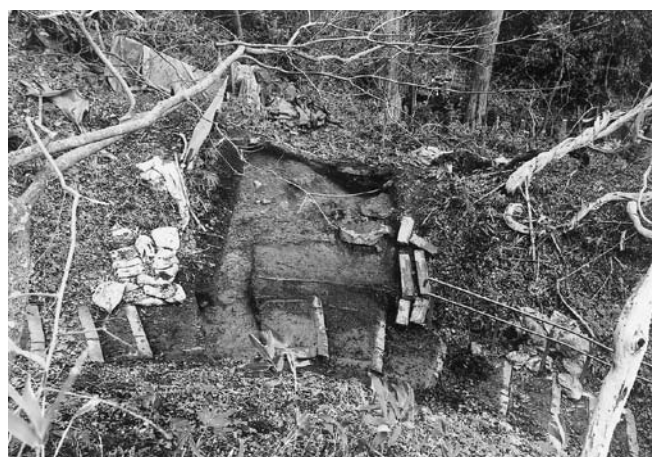
4. 土壌2 検出状況 (北から)



5. 道路跡 (中世) セクション (北から)



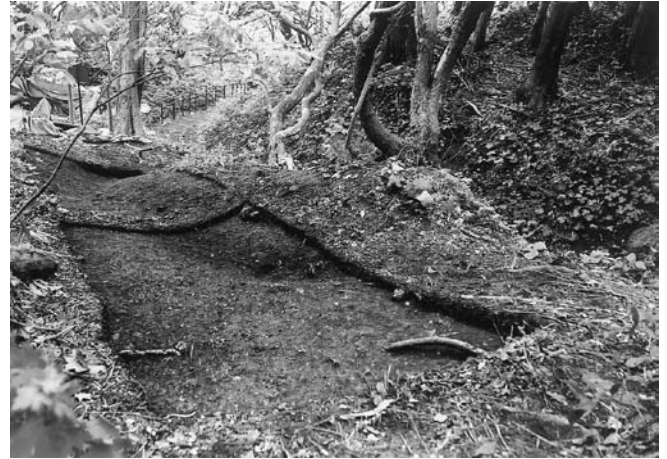
6. 第5調査区 西壁 セクション (東から)



7. 第5調査区 完掘 (東から)



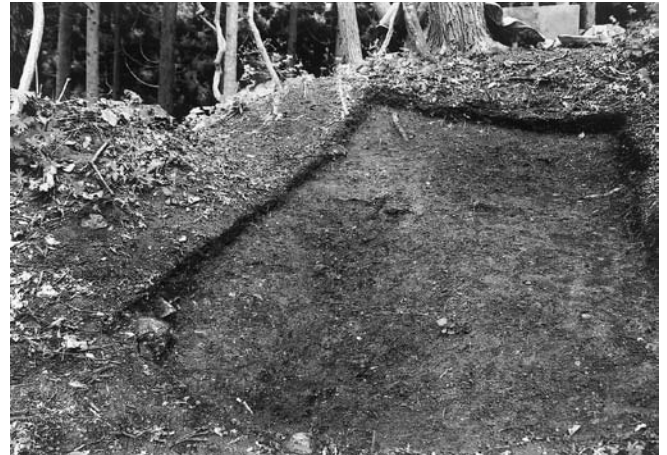
1. 第6調査区 調査前風景 (北から)



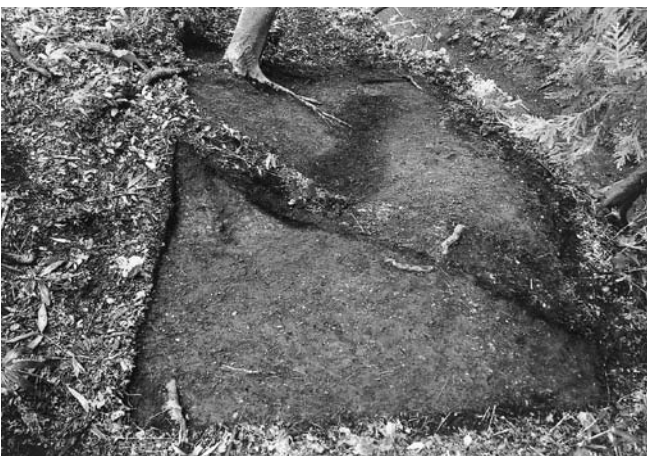
2. 溝2 (道路跡、近世以降) 検出状況 (南西から)



4. 第6調査区 完掘 (北から)



3. 溝2 (道路跡、近世以降) 検出状況 (北東から)



5. 第7調査区 溝2 (道路跡、近世以降) 完掘 (南西から)



6. 第7調査区 溝2 (道路跡、近世以降) 検出状況 (南西から)



1. 第7調査区 溝2 セクション(北東から)



2. 第7調査区 調査終了状況(南西から)



2. 第8調査区 調査前風景(北東から)



4. 第8調査区 溝2(道路跡、近世以降) 検出状況(北東から)



5. 溝2(道路跡、近世以降) 検出状況(西から)



6. 第8調査区 調査風景(南から)



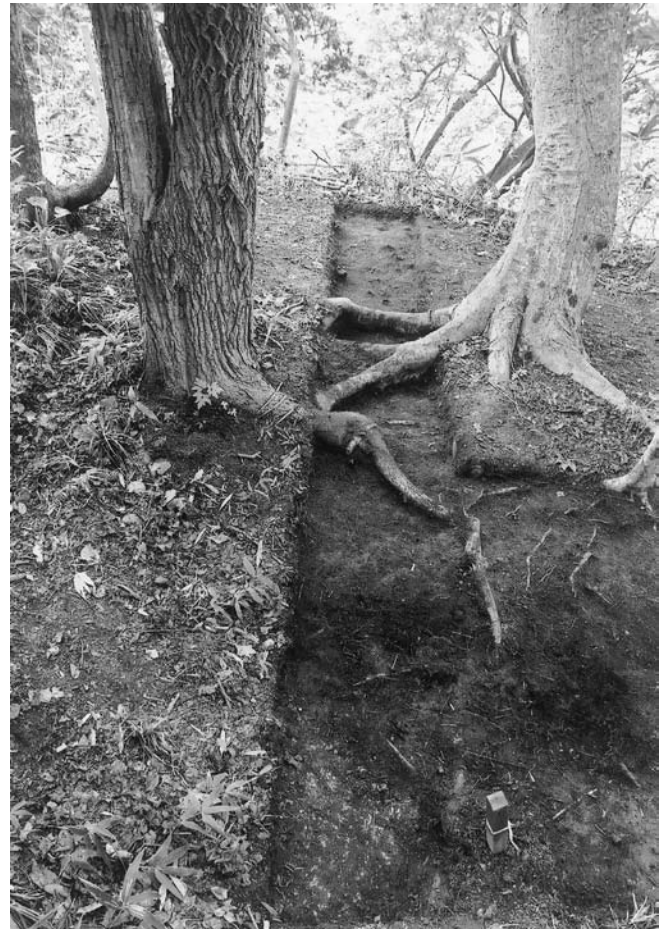
7. 第8調査区 完掘(東から)



8. 第8調査区 溝3 掘削状況(西から)



1. 第9調査区 調査前風景 (南西から)



3. 第9調査区 遺構検出状況 (東から)



2. 第9調査区 完掘 (南西から)



5. 溝2 (道路跡、近世以降) 検出状況 (南から)



4. 盛土 (至寺ノ沢) 検出状況 (西から)



6. 第9調査区 調査終了状況 (南から)



1. 第6調査区(SPD''~SPD'''.4I23.4I24) 東壁 セクション(西から)



2. 第6調査区(SPB~SPB''.4I23) 溝2 セクション(北から)



3. 第6調査区(SPC~SPC''.4I22.4I23) 溝2 北壁 セクション(南から)



4. 第6調査区(SPA~SPA''.4I24.5I4) 南壁 セクション(北から)



5. 第8調査区(SPA~SPA''.5I18.5I19) 西壁 セクション(東から)



8. 第9調査区(SPA~SPA''.6I2.6I3) 溝2 西壁 セクション(北東から)



6. 第8調査区(SPC~SPC''.5I13.5I14) トレンチ 溝3 セクション(西から)



7. 第8調査区(SPB''~SPB'''.5I14.5I19) 南壁 セクション(北から)



9. 第9調査区(SPA''~SPA'''.6I1.6I2) 盛土(至寺ノ沢) セクション(北東から)



1. 第一平坦面 調査区全景 (南西から)



2. 調査風景 (北東から)



3. 98年度調査 中央通路 (南西から)



4. 第一平坦面 (13J17 ~ 19) 中央通路 (南西から)



5. 第一平坦面 (12J13 ~ 13J19) 中央通路 (南西から)



6. 第一平坦面 中央通路 全景 (北東から)



7. 第一平坦面 溝1~3・6 (南西から)



8. 第一平坦面 (12J14) 溝5 (南西から)



1. 第一平坦面
(12I13～15)
道路2
(中世、北西から)



2. 第一平坦面 (11I23・24、12I3・4) 道路2 (中世、北東から)



3. 第一平坦面 (12I3・4) 道路2 (中世) 石組遺構 (西から)



4. 第一平坦面 (12I3・4) 道路2 石組遺構 (中世、南西から)



5. 第一平坦面 (12I3・4～) 道路2 (中世、南から)



6. 第一平坦面直下 (11I17・18) 道路2北側斜面 (中世、南西から)



7. 第一平坦面直下 (11I11～) 道路2 (中世、北から)



8. 第一平坦面 (12I8・9) 集石検出状況 (北東から)



1. 空壕C周辺 (11I2・3) 溝3・4 (近世末、道路跡、北東から)



2. 空壕C周辺 (9I24、10I4) 溝3 (近世末、道路跡、北西から)



3. 空壕C周辺 (9I8・9) 溝3 (近世末、道路跡、北東から)



4. 荒神堂周辺 (9H1・2) 溝12・13 (中世、道路跡、南西から)



5. 荒神堂周辺 (9H1、8H21) 溝7・9・14 (中世、道路跡、北東から)



6. 荒神堂周辺 (8I8・13) 溝8・15 (中世、北東から)



7. 荒神堂周辺 (8H22～24) 溝7・14・19 (中世、道路跡、北西から)

2. 荒神堂周辺 (8I8) 溝 8 (北東から)



1. 荒神堂周辺 (8I5・20、8H11・12) 溝 11・17 (北西から)



3. 荒神堂周辺 (8I9) 溝 18 (近世末、道路跡、東から)



4. 荒神堂周辺 (8I9・10、8H1) 溝 18 (近世末、道路跡、北西から)



5. 荒神堂周辺 (8I9) 溝 18 (近世末、道路跡、北から)



6. 空壕 C 周辺 (10J17・18) 空壕 C (新) 検出状況 (東から)



7. 空壕 C 周辺 空壕 C (新) (東から)



1. 空壕C周辺 (11I2 ~ 4・8・9) 空壕C (北西から)



2. 空壕C周辺 (11I8 ~) '08溝3・4 (近世末、道路跡、北東から)



4. 空壕C周辺 (11J20 ~) '08溝3・4 (近世末、道路跡、南西から)



3. 空壕C周辺 空壕C・橋跡 (北から)



5. 空壕C周辺 (10I14・19) '08溝4・6 (北西から)



6. 空壕C周辺 '08溝4・6 (南から)



7. 空壕C周辺 (10I13・18) '08溝3 (近世末、道路跡、西から)



1. 空壕C周辺 (10I13～) '08 溝3・4・溝4・6 (北東から)



2. 荒神堂周辺 荒神堂跡石段 (北から)



3. 荒神堂周辺 荒神堂跡石段 礎石列 (東から)



4. 荒神堂周辺 (7I15、7H11・16) 荒神堂跡石段下礎石建物跡 (南西から)



5. 荒神堂周辺 (7H16) '09 溝3 (中世、道路跡、南から)



7. 荒神堂周辺 (7I9～) '09 溝3 (中世、道路跡、北から)



6. 荒神堂周辺 (7I4～) '09 溝3・竪穴遺構 (北より)



1. 荒神堂周辺 (8I2 ~ 7I20) 溝1 (東から)



2. 荒神堂周辺 (7I2 ~) '09 溝3 (中世、道路跡、西から)



3. 荒神堂周辺 (7I7) 溝3 (中世、道路跡、西から)



4. 荒神堂周辺 (7I11) 溝2・3 (中世、道路跡、北から)



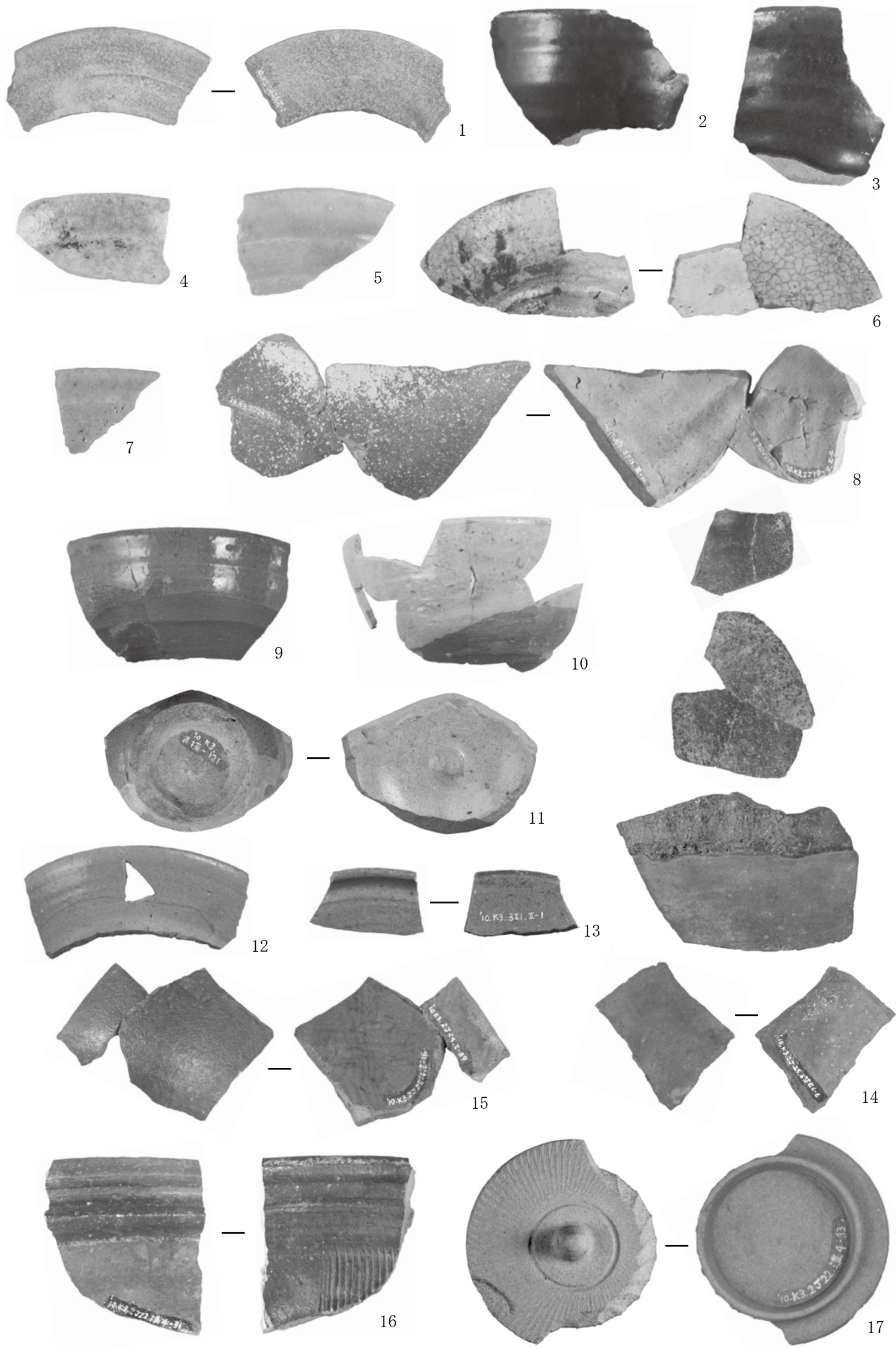
5. 荒神堂周辺 (7I11) 自然研究路西 中世平坦面 (南東から)

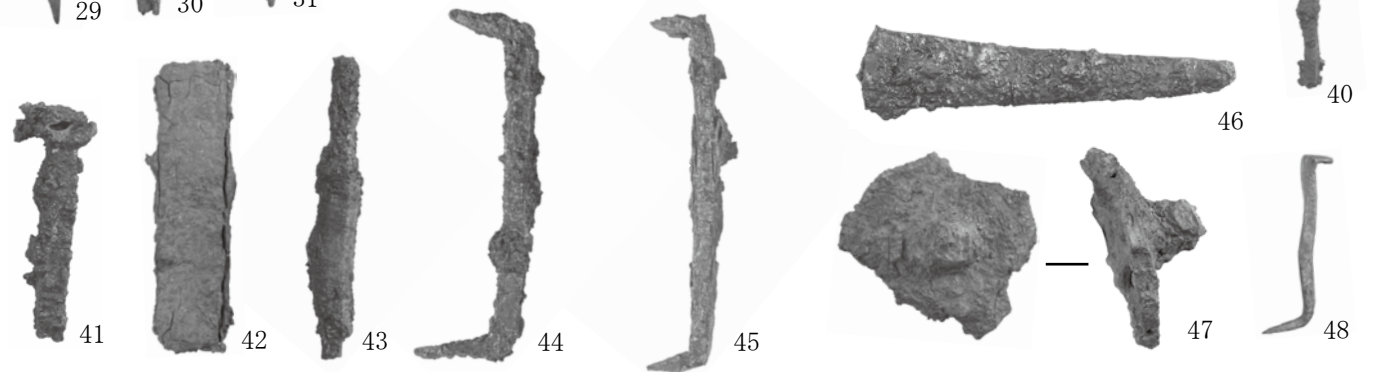
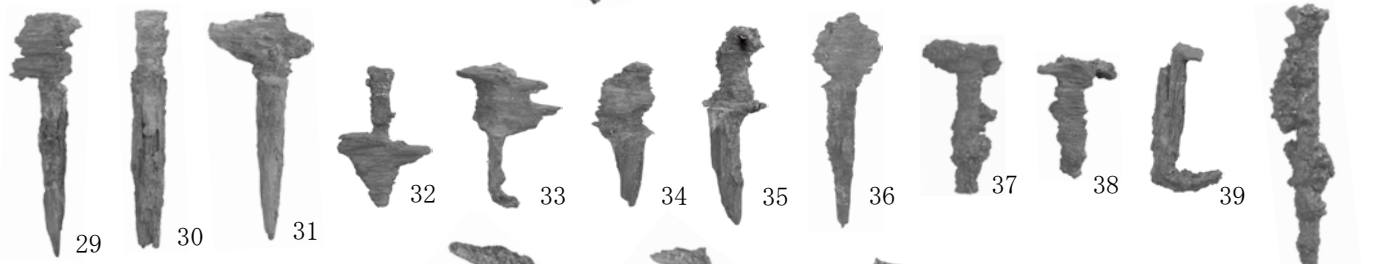
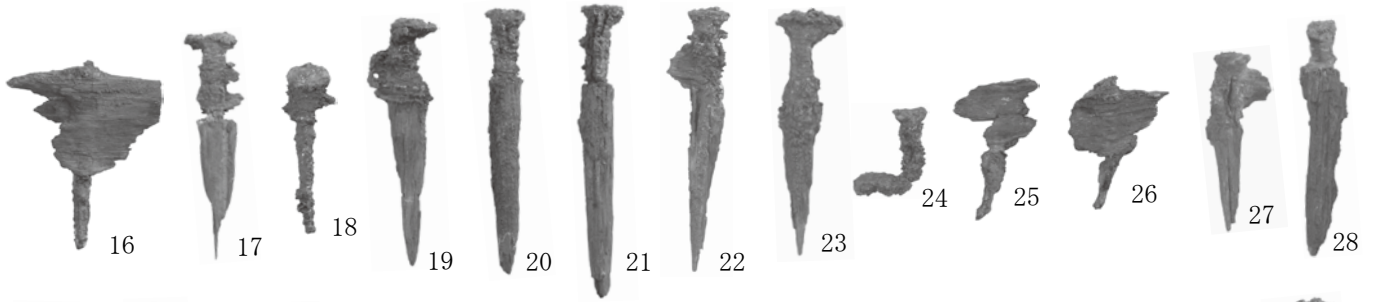
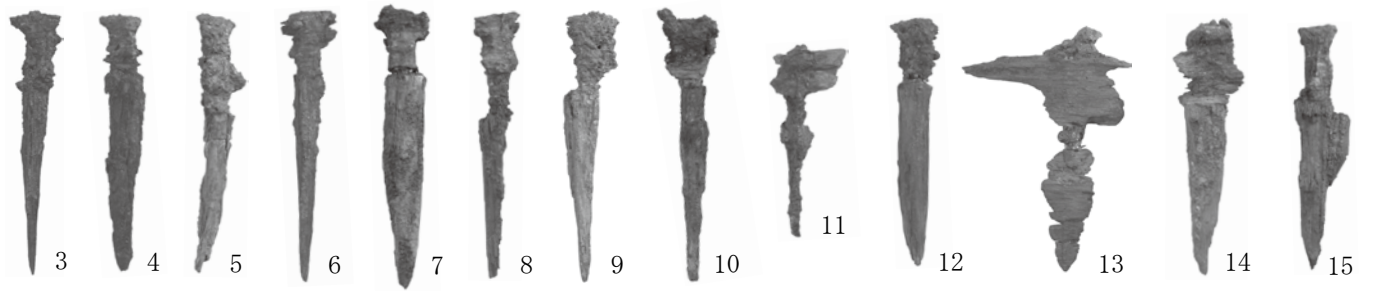
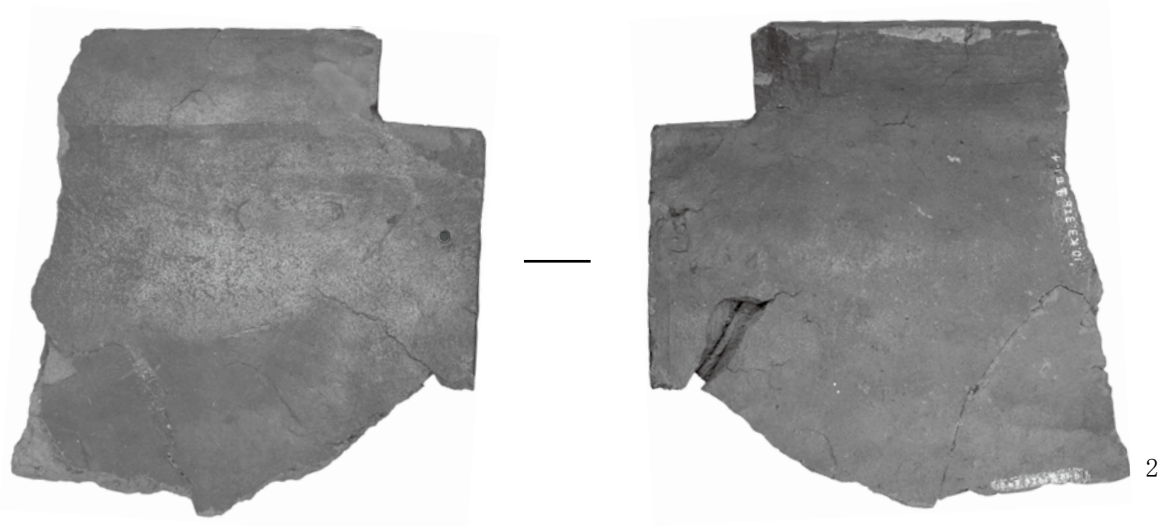
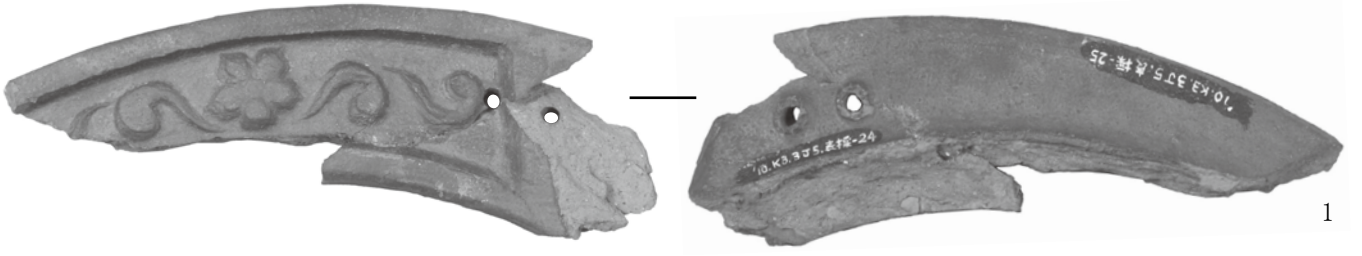


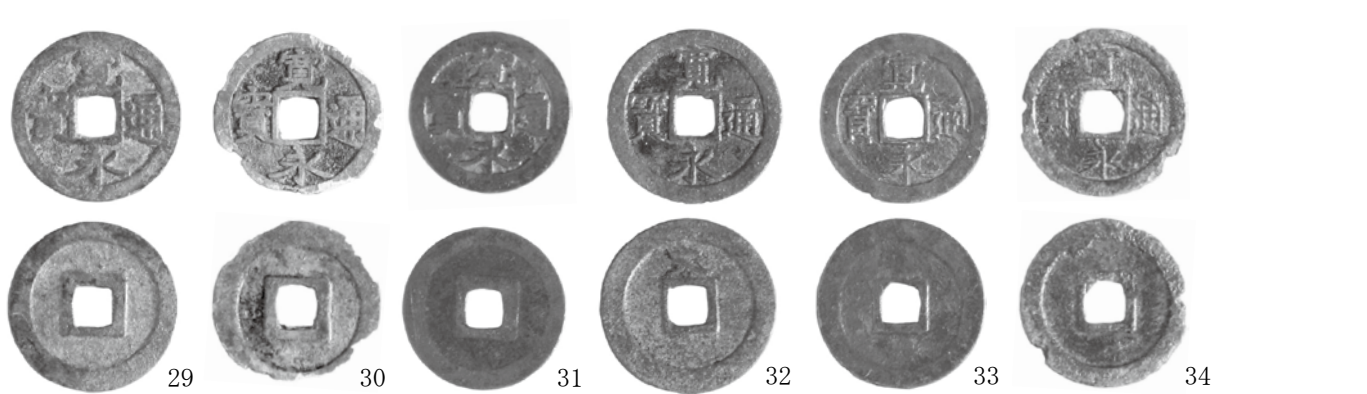
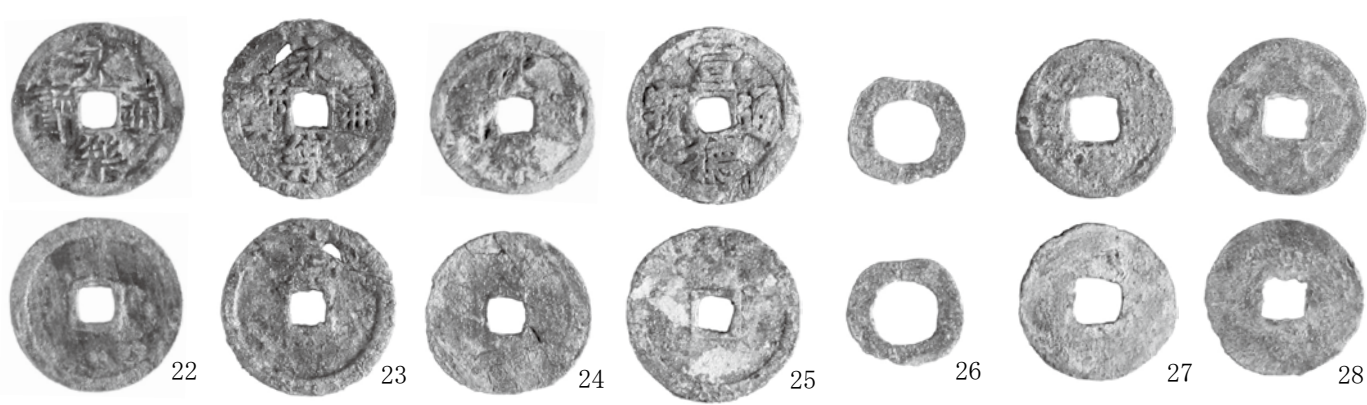
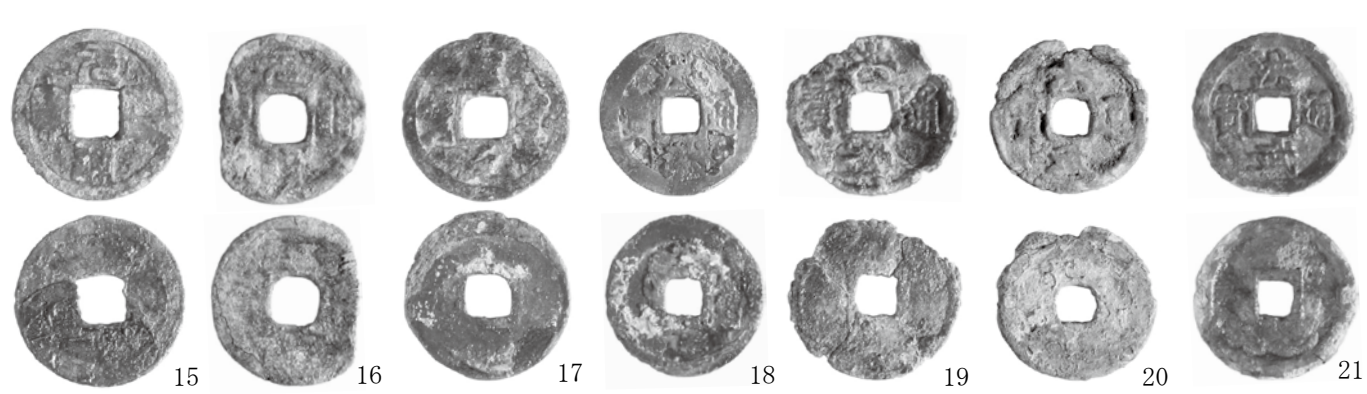
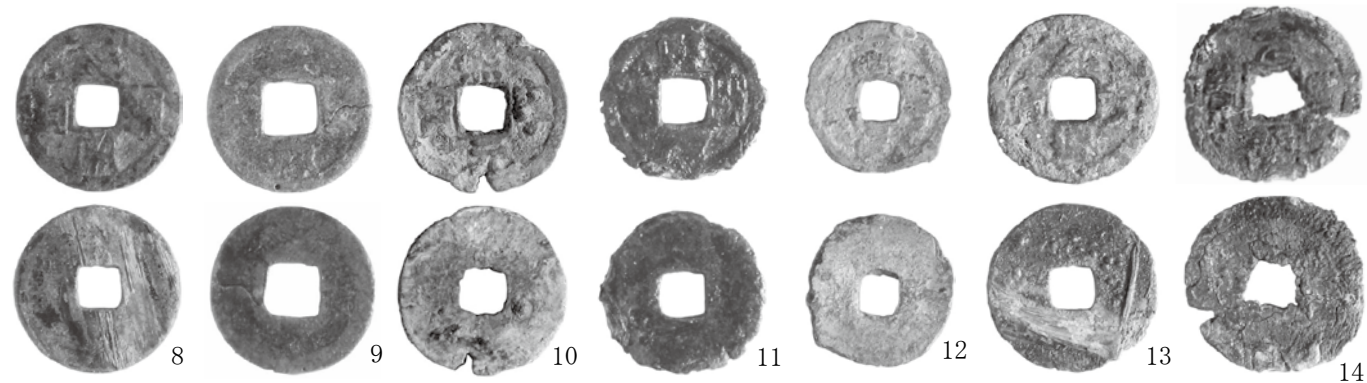
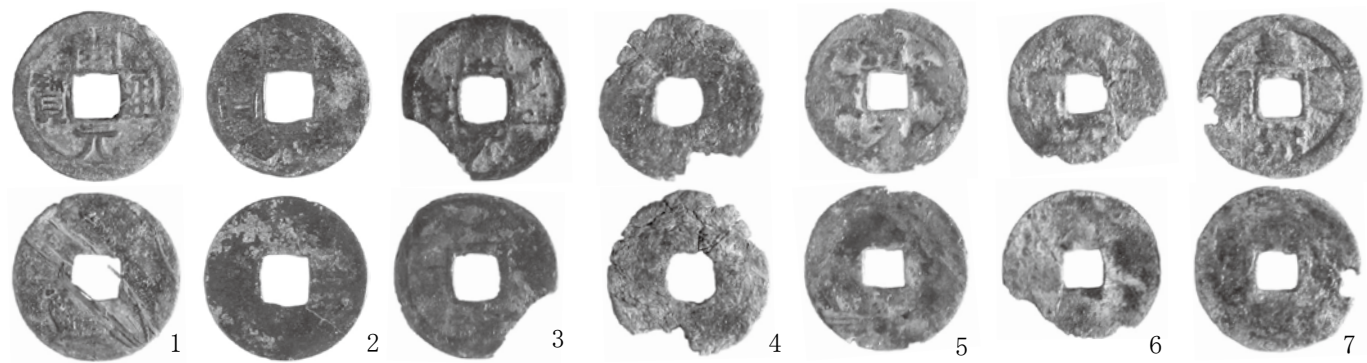
7. 荒神堂周辺 (6J20、7J5) 中世平坦面 (北西から)

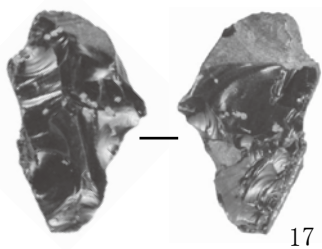
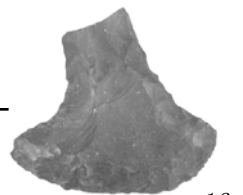
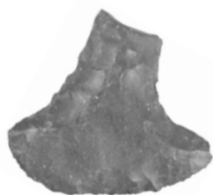
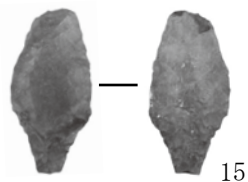
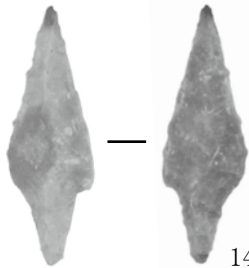
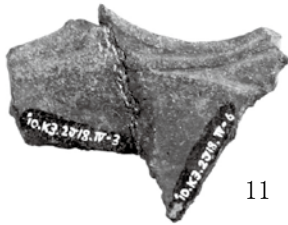
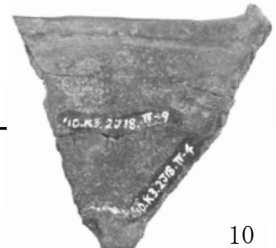
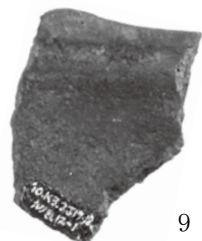
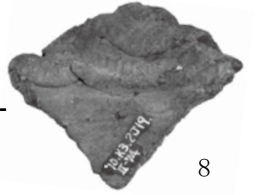
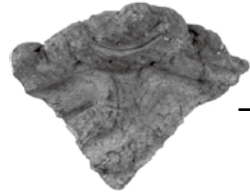
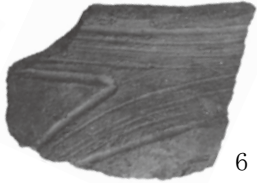
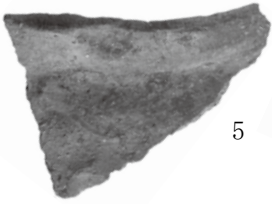
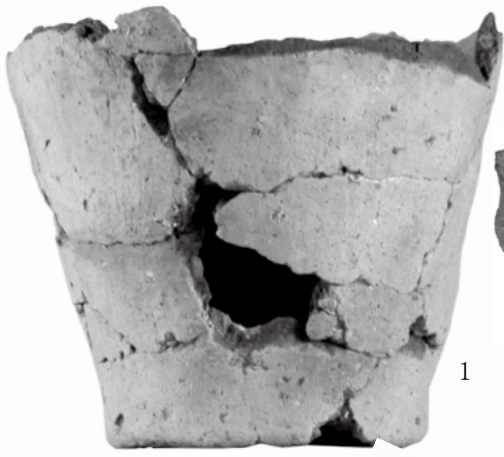


6. 荒神堂周辺 (6J15・20、6I11・16) 中世平坦面 (南西から)









報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきかみのくにたてあと かつやまだてあとほつちつちようさほうこくしよ							
書名	史跡上之国館跡IV							
副書名	平成22年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書							
巻次	4							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	塚田直哉							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL0139-55-2230							
発行年月日	2011年3月28日							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しせきかみのくにたてあと 史跡上之国館跡 のうち かつやまだてあと 勝山館跡	かみのくにちようあざかつやま 上ノ国町字勝山 あざ ばんちほか 字410番地他	013625	C-02-3	41°8'00	140°6'00	平成22年 4月12日) 平成22年 12月10日	700㎡	史跡等・登録記念物・歴史の道保存修理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
しせきかみのくにたてあと 史跡上之国館跡 のうち かつやまだてあと 勝山館跡	城館	中世	道路跡、礎石建物跡、掘立柱建物跡、土壇(土葬墓)、溝、集石、盛土	陶磁器(青磁、白磁、染付、赤絵、瀬戸・美濃、越前、志野、唐津、備前、肥前系他、瓦)、鉄製品(釘、刀子、鍋他)、銅製品(釘、銭、煙管他)、石製品(硯、砥石)、土製品(土錘他)、木製品(漆)、自然遺物(人骨)、縄文土器・石器、擦文土器		物見跡と推された4段の平坦面と旧道跡の遺構確認調査により検出された、道路跡、掘立柱建物跡、礎石建物跡、土壇、溝などの遺構と出土遺物及び整備事業についての報告書。		

史跡 上之国館跡Ⅳ

－平成22年度勝山館跡発掘調査・整備事業報告書－

発 行：上ノ国町教育委員会

北海道檜山郡上ノ国町字大留100

印 刷：平成23年3月24日

発 行：平成23年3月28日

印刷所：(株)長門出版社印刷部

附 図

上 之 国 館 跡 IV

平成19～22年度（2007～2010） 史跡上之国館跡（勝山館跡）遺構平面図